

継続的な改善活動のために！

2017

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 大澤 敏

平成29年の大学進学率は過去最高の52.6%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。このような中で学生の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。資源小国である我が国にとって人材と言う『財』を然るべく育成し、科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けなければなりません。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に身につけ、それを基に、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日150科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

| | | |
|------|--------------------|-----|
| <1> | 本調査の全体像 | 1 |
| <2> | 在学生、卒業・修了生の基本属性 | 7 |
| <3> | 在学中の目的・目標意識 | 13 |
| <4> | 大学に対する満足度 | 19 |
| <5> | 授業・学習支援の評価 | 45 |
| <6> | 課外活動に関して | 79 |
| <7> | 勉強、課外活動に費やした時間に関して | 97 |
| <8> | 大学院進学に関して | 107 |
| <9> | 教職員と大学の改善取り組み状況の評価 | 123 |
| <10> | KIT-IDEALSに関して | 131 |
| <11> | 卒業時の能力 | 141 |
| <12> | 卒業・修了生アンケートの分析結果 | 149 |
| <13> | 新入生アンケートの分析結果 | 161 |
| <14> | 教職員アンケートの分析結果 | 181 |
| <15> | 全体のまとめ | 195 |
| <16> | 調査票見本 | 205 |

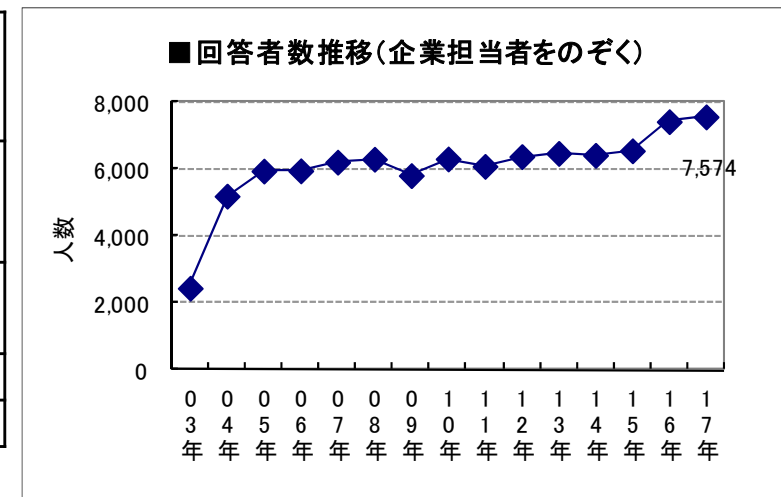
<1-1> 調査の目的と概略

■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在學生(新入生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が15回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

| | |
|------|--|
| 調査時期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017年2月～4月に実施。 ・ 在學生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。 |
| 調査方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「在學生」は学内で配布して、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。 |
| 回収数 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は7,574サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。 |
| 調査主体 | 学校法人 金沢工業大学 |
| 集計分析 | (有)アイ・ポイント |



■ 年度別回収数

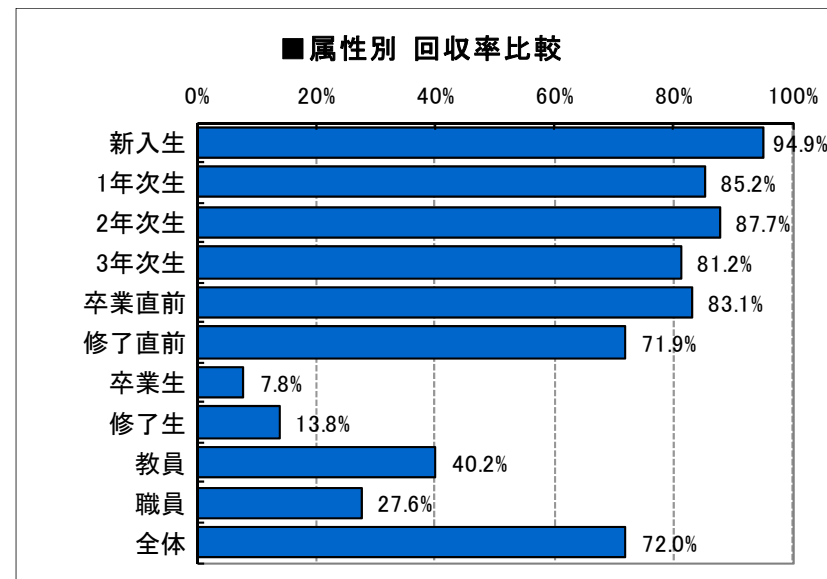
| 対象者 | 調査時点での属性 | 03年 回収数 | 04年 回収数 | 05年 回収数 | 06年 回収数 | 07年 回収数 | 08年 回収数 | 09年 回収数 | 10年 回収数 | 11年 回収数 | 12年 回収数 | 13年 回収数 | 14年 回収数 | 15年 回収数 | 16年 回収数 | 17年 回収数 |
|----------|----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 新入生 | 入学直後 | 724 | 1,672 | 1,610 | 1,747 | 1,642 | 1,652 | 1,568 | 1,723 | 1,607 | 1,745 | 1,886 | 1,614 | 1,664 | 1,604 | 1,541 |
| 1年次生 | 1年次終了時点 | 106 | 1,007 | 1,379 | 1,364 | 1,505 | 1,461 | 1,369 | 1,293 | 1,411 | 1,299 | 1,562 | 1,587 | 1,447 | 1,519 | 1,361 |
| 2年次生 | 2年次終了時点 | 49 | 792 | 1,533 | 1,313 | 1,267 | 1,455 | 1,146 | 1,185 | 1,022 | 1,321 | 1,059 | 1,337 | 1,545 | 1,439 | 1,497 |
| 3年次生 | 3年次終了時点 | 106 | 449 | 441 | 599 | 768 | 793 | 643 | 760 | 781 | 756 | 741 | 769 | 744 | 1,520 | 1,312 |
| 卒業・修了直前 | 卒業・修了直前 | 976 | 914 | 610 | 549 | 669 | 664 | 711 | 960 | 808 | 873 | 829 | 790 | 865 | 970 | 1,509 |
| 卒業・修了生 | 卒業・修了生 | 163 | 107 | 97 | 80 | 90 | 57 | 110 | 137 | 149 | 146 | 144 | 104 | 125 | 124 | 121 |
| 教員 | 在職中の教員 | 143 | 133 | 151 | 157 | 136 | 118 | 118 | 112 | 115 | 108 | 118 | 131 | 80 | 134 | 127 |
| 職員 | 在職中の職員 | 187 | 131 | 134 | 153 | 144 | 109 | 155 | 148 | 202 | 139 | 143 | 93 | 91 | 122 | 106 |
| 企業担当者 | 卒業生の就職企業 | — | — | 485 | — | — | 660 | — | — | 686 | — | — | 872 | — | — | — |
| 全体(企業除く) | | 2,454 | 5,205 | 5,955 | 5,962 | 6,221 | 6,309 | 5,820 | 6,318 | 6,095 | 6,387 | 6,482 | 6,425 | 6,561 | 7,432 | 7,574 |

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

| 属性 | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|------|--------|-------|-------|
| 新入生 | 1,623 | 1,541 | 94.9% |
| 1年次生 | 1,597 | 1,361 | 85.2% |
| 2年次生 | 1,707 | 1,497 | 87.7% |
| 3年次生 | 1,615 | 1,312 | 81.2% |
| 卒業直前 | 1,668 | 1,386 | 83.1% |
| 修了直前 | 171 | 123 | 71.9% |
| 卒業生 | 1,283 | 100 | 7.8% |
| 修了生 | 152 | 21 | 13.8% |
| 教員 | 316 | 127 | 40.2% |
| 職員 | 384 | 106 | 27.6% |
| 全体 | 10,516 | 7,574 | 72.0% |

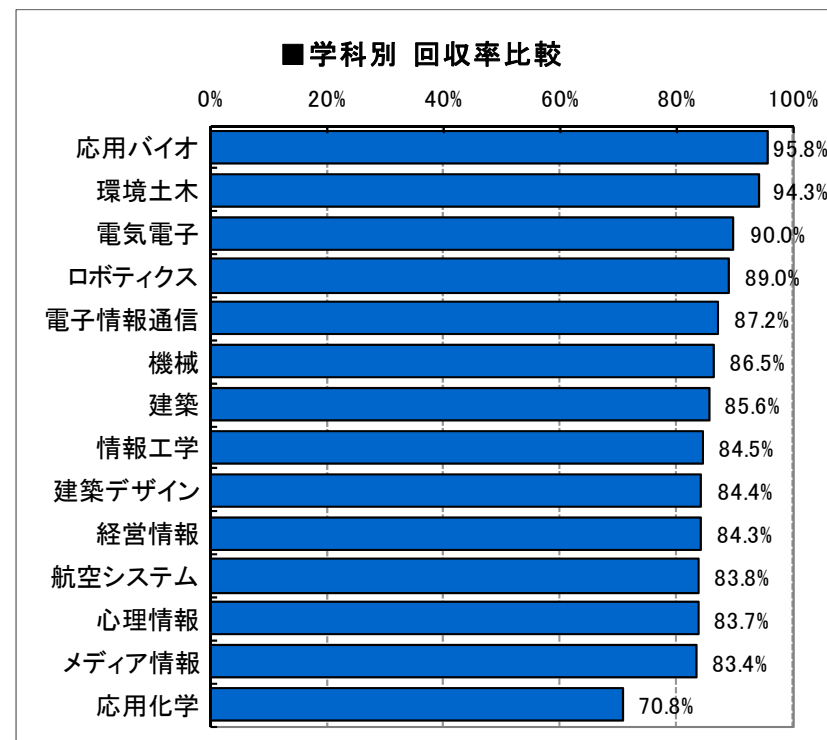
※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。



■学部別・学科別回収率(修了生を除く在学生)

| 学部 | 学部別 在籍者数 | 学部別 回収数 | 学部別 回収率 | 学科 | 学科別 在籍者数 | 学科別 回収数 | 学科別 回収率 |
|--------------------|-------------|------------|------------|--------|-------------|------------|------------|
| 工学部 | 4,418 | 3,840 | 86.9% | 機械 | 1,100 | 951 | 86.5% |
| | | | | 航空システム | 327 | 274 | 83.8% |
| | | | | ロボティクス | 584 | 520 | 89.0% |
| | | | | 電気電子 | 986 | 887 | 90.0% |
| | | | | 電子情報通信 | 258 | 225 | 87.2% |
| | | | | 情報工学 | 1,163 | 983 | 84.5% |
| 情報 フロンティア 学部 | 1,286 | 1,076 | 83.7% | メディア情報 | 742 | 619 | 83.4% |
| | | | | 経営情報 | 280 | 236 | 84.3% |
| | | | | 心理情報 | 264 | 221 | 83.7% |
| 環境・建築学部 | 1,708 | 1,489 | 87.2% | 建築デザイン | 671 | 566 | 84.4% |
| | | | | 建築 | 631 | 540 | 85.6% |
| | | | | 環境土木 | 406 | 383 | 94.3% |
| バイオ・化学部 | 798 | 673 | 84.3% | 応用化学 | 366 | 259 | 70.8% |
| | | | | 応用バイオ | 432 | 414 | 95.8% |
| 全体 | 8,210 | 7,078 | 86.2% | 全体 | 8,210 | 7,078 | 86.2% |

※学部別・学科別回収率の「在籍者数」は2017年度のものであり、実際の調査票の「配布数」とは異なる。
また、回収数は学科未記入者を除いた人数となる。



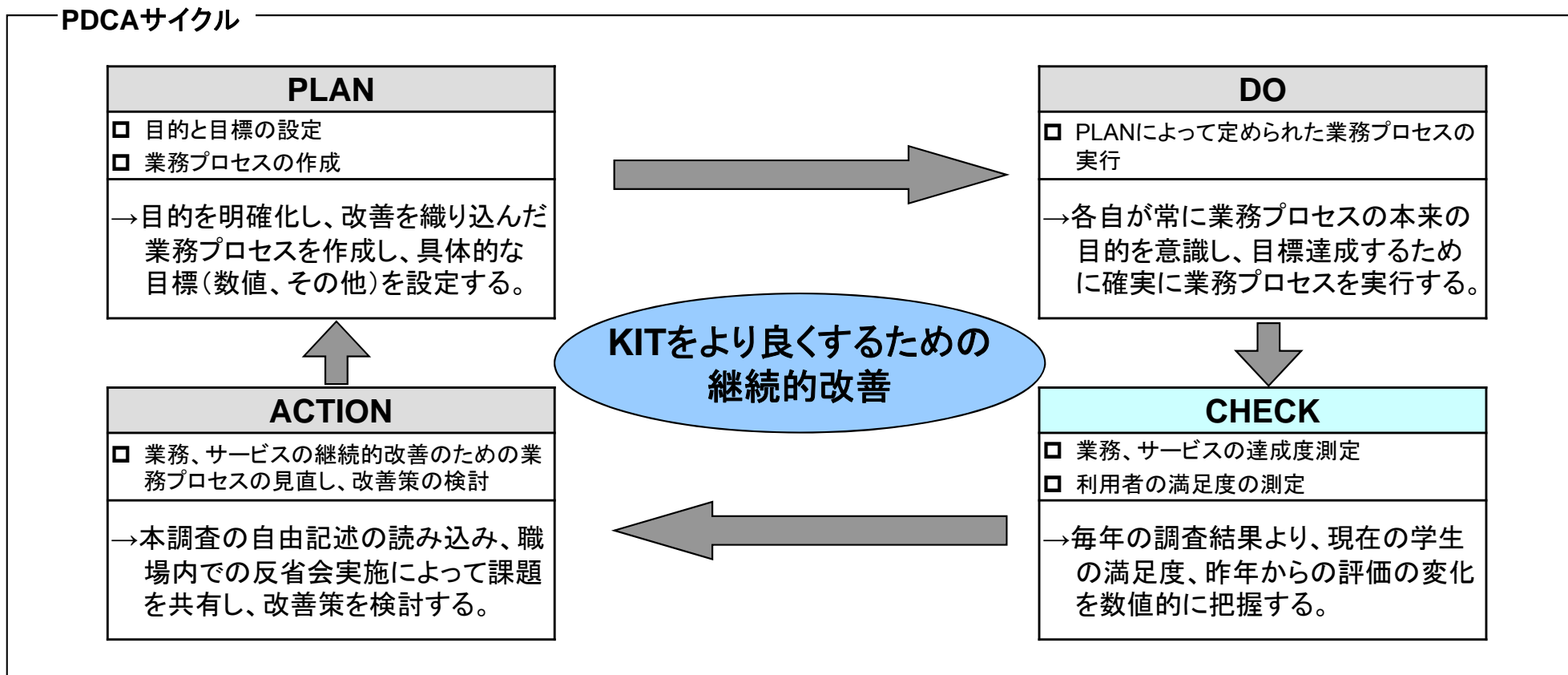
■集計に関して

| 分野 | 注意点 |
|----------|--|
| 無回答に関して | <ul style="list-style-type: none">・無回答はすべて集計から除外した。・割合を見る分析、加重平均を見る分析共に、無回答は除外して集計した。 |
| 加重平均に関して | <ul style="list-style-type: none">・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。 |
| グラフに関して | <ul style="list-style-type: none">・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。 |

<1-2> 調査の位置づけ

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

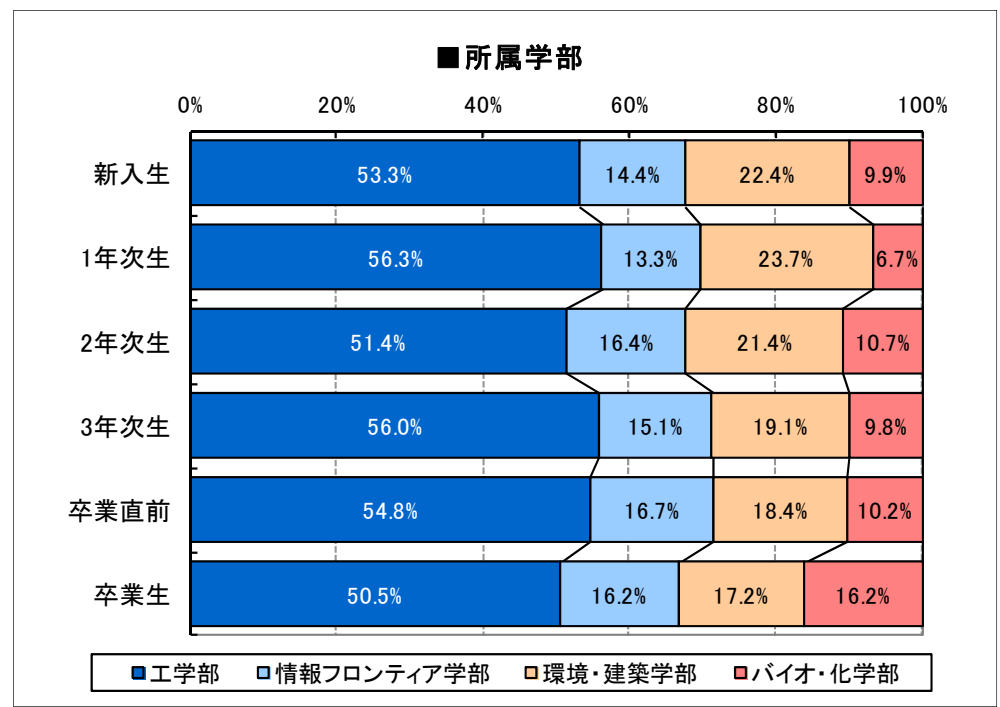
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1> 在学生、卒業・修了生の基本属性

■所属学部、学科



■所属学科

| | 機械工学科 | 航空システム工学科 | ロボティクス学科 | 電気電子工学科 | 電子情報通信工学科 | 情報工学科 | メディア情報学科 | 経営情報学科 | 心理情報学科 | 建築デザイン学科 | 建築学科 | 環境土木工学科 | 応用化学科 | 応用バイオ学科 | 全体 |
|------|-------|-----------|----------|---------|-----------|-------|----------|--------|--------|----------|------|---------|-------|---------|--------|
| 新入生 | 14.1% | 4.2% | 7.3% | 11.1% | 2.6% | 14.0% | 10.3% | 2.0% | 2.1% | 9.7% | 6.8% | 5.9% | 4.4% | 5.5% | 100.0% |
| 1年次生 | 12.3% | 4.7% | 7.5% | 12.6% | 2.8% | 16.3% | 8.0% | 2.7% | 2.7% | 9.4% | 8.0% | 6.3% | 2.3% | 4.4% | 100.0% |
| 2年次生 | 13.9% | 3.7% | 7.6% | 11.8% | 2.1% | 12.3% | 8.9% | 3.8% | 3.8% | 7.9% | 8.4% | 5.1% | 4.4% | 6.3% | 100.0% |
| 3年次生 | 13.6% | 3.4% | 7.3% | 13.5% | 4.8% | 13.3% | 6.0% | 4.8% | 4.2% | 6.6% | 7.4% | 5.1% | 2.8% | 7.0% | 100.0% |
| 卒業直前 | 13.1% | 3.3% | 7.0% | 13.9% | 3.8% | 13.6% | 10.1% | 3.7% | 2.9% | 6.2% | 7.6% | 4.6% | 4.1% | 6.1% | 100.0% |
| 卒業生 | 15.2% | 7.1% | 9.1% | 6.1% | 1.0% | 12.1% | 6.1% | 7.1% | 3.0% | 6.1% | 5.1% | 6.1% | 9.1% | 7.1% | 100.0% |
| 全体 | 13.5% | 3.9% | 7.4% | 12.4% | 3.1% | 13.9% | 8.7% | 3.4% | 3.1% | 8.0% | 7.6% | 5.4% | 3.7% | 5.9% | 100.0% |

■出身地域

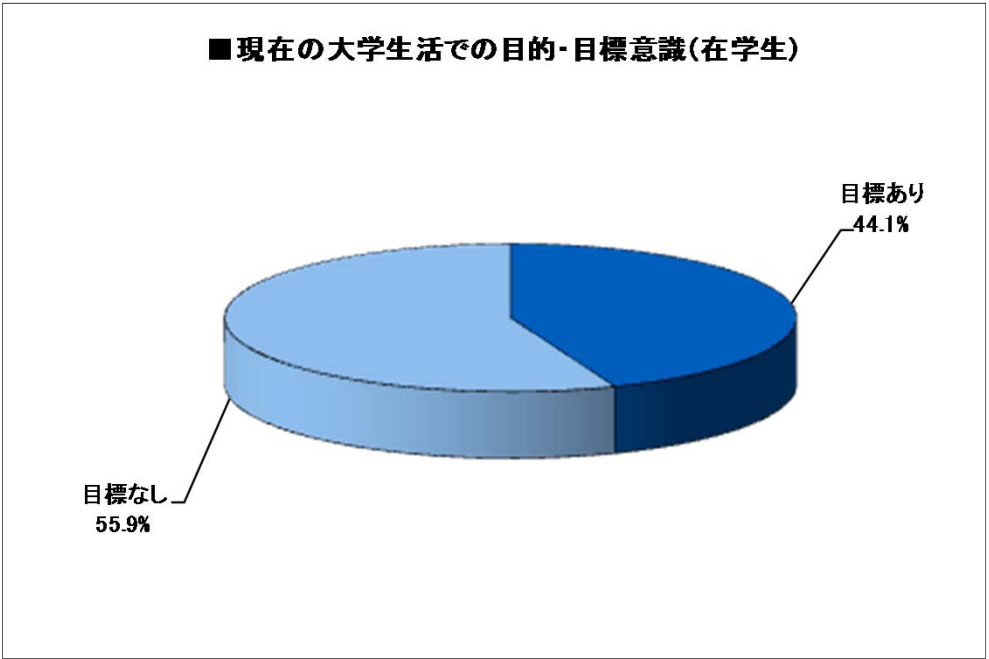
■在学生の出身地域

| | 北海道・東北 | 関東 | 甲信越 | 北陸 | 東海 | 関西 | 中国・四国 | 九州・沖縄 | 全体 |
|------|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 1年次生 | 55 | 64 | 196 | 617 | 217 | 137 | 39 | 19 | 1,344 |
| | 4.1% | 4.8% | 14.6% | 45.9% | 16.1% | 10.2% | 2.9% | 1.4% | 100.0% |
| 2年次生 | 57 | 71 | 188 | 680 | 251 | 153 | 54 | 24 | 1,478 |
| | 3.9% | 4.8% | 12.7% | 46.0% | 17.0% | 10.4% | 3.7% | 1.6% | 100.0% |
| 3年次生 | 57 | 52 | 190 | 576 | 184 | 130 | 60 | 38 | 1,287 |
| | 4.4% | 4.0% | 14.8% | 44.8% | 14.3% | 10.1% | 4.7% | 3.0% | 100.0% |
| 卒業直前 | 61 | 57 | 210 | 651 | 186 | 138 | 51 | 25 | 1,379 |
| | 4.4% | 4.1% | 15.2% | 47.2% | 13.5% | 10.0% | 3.7% | 1.8% | 100.0% |
| 修了直前 | 7 | 5 | 15 | 45 | 20 | 22 | 5 | 3 | 122 |
| | 5.7% | 4.1% | 12.3% | 36.9% | 16.4% | 18.0% | 4.1% | 2.5% | 100.0% |
| 全体 | 237 | 249 | 799 | 2,569 | 858 | 580 | 209 | 109 | 5,610 |
| | 4.2% | 4.4% | 14.2% | 45.8% | 15.3% | 10.3% | 3.7% | 1.9% | 100.0% |

<3-1> 在学中の目的・目標意識

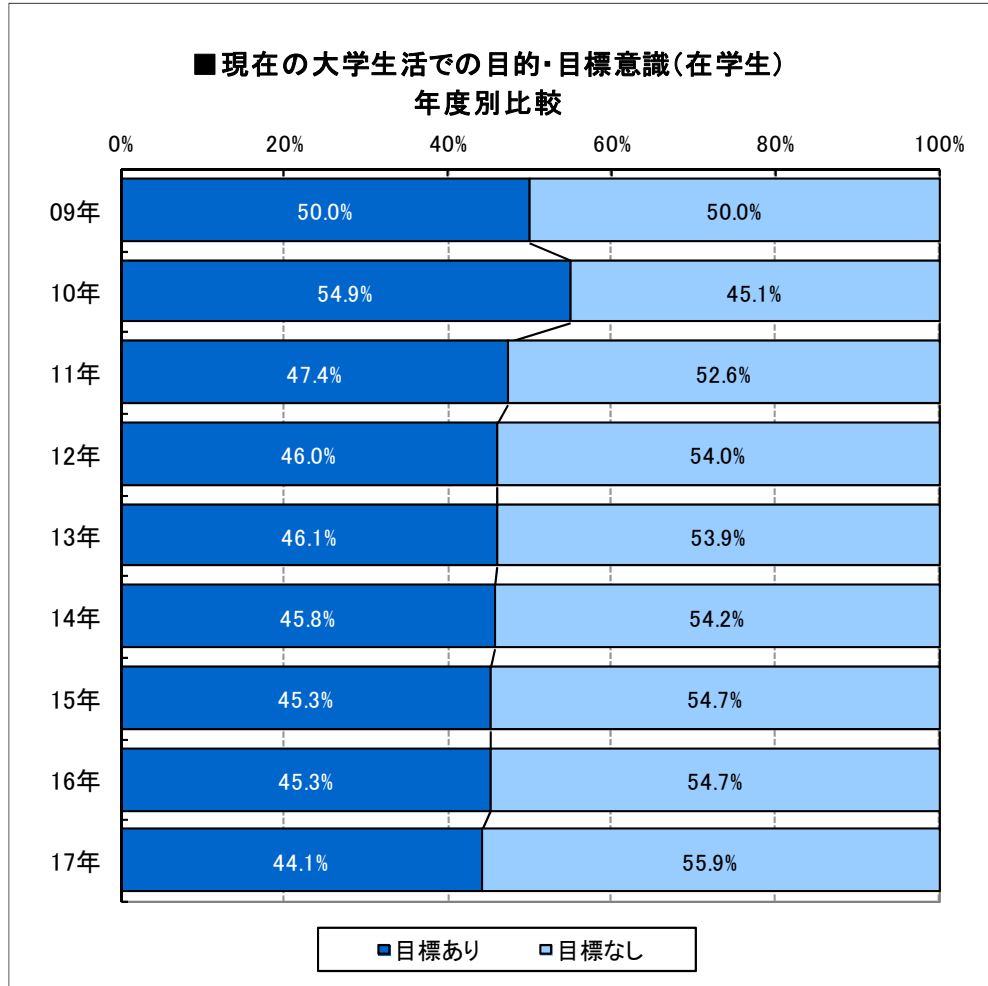
■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？（新生には「大学に入ってこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」）」という問いに対しては、「目標あり」が44.1%で半数に満たず、「目標なし」が55.9%で「目標あり」を11.8ポイント上回った。
- 年度別比較を見ると、10年より「目標あり」が減少する傾向が続いており、今回も前回は1.2ポイント下回った。10年と比較すると10.8ポイントの低下であった。



目標あり(44.1%) < 目標なし(55.9%)

※この質問は「新生」「在学生(卒・修直前を含む)」「卒業生」「修了生」に聞いているが、このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、次項以降のグラフは「新生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。

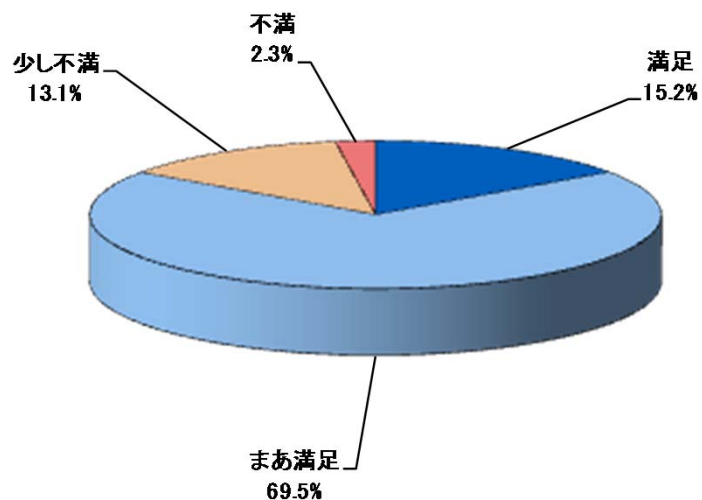


<4-1> KITの総合満足度

■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」では「満足」が15.2%、「まあ満足」が69.5%であり、合わせると84.7%が満足と回答していた。一方、不満を持っているという回答は合計で15.4%であり、満足という回答の方が69.3ポイント多かった。
- 総合満足度は08年までは「今のKITに満足していますか?」と聞いており、09年には質問自体を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 05年から08年にかけては半数程度が満足と答え、その割合はわずかずつ増加していた。10年に聞き方が変わったためか、一気に7割以上が満足しているという回答になっており、12年まではほぼ横這いとなっていた。
- 13年から16年までは満足度の向上が続き、前回は85.9%が満足と回答して過去最高の高さであったが、今回はそれを1.2ポイント下回る結果となった。

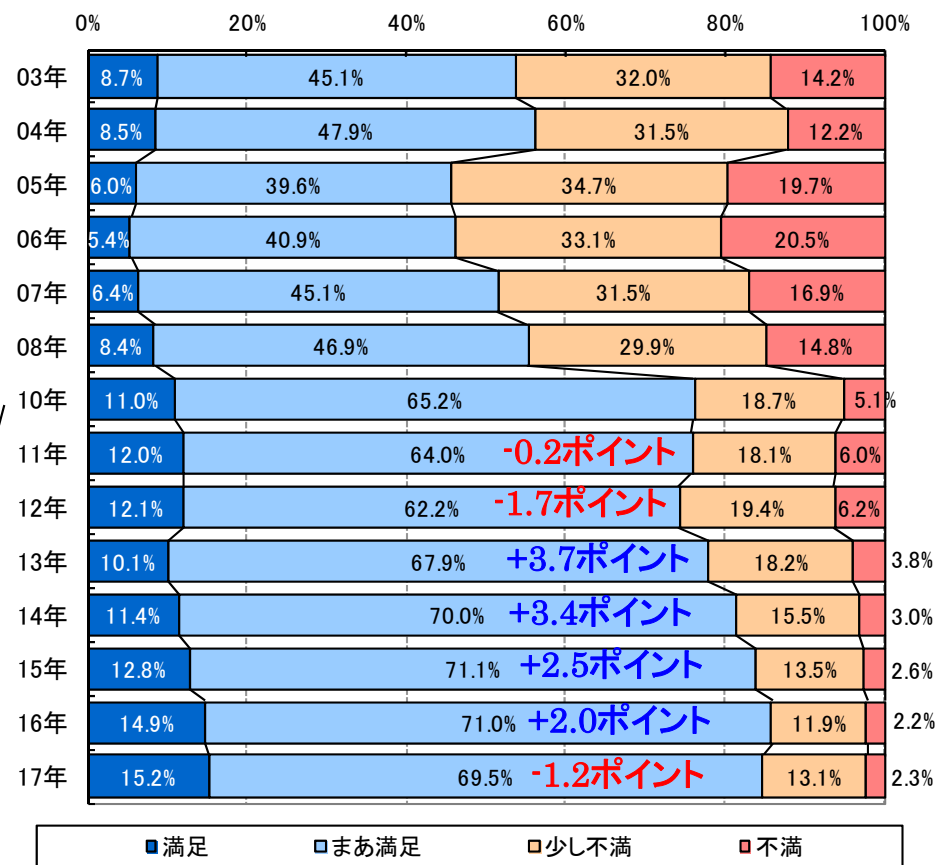
■KIT全体に関する満足度(在学生)



満足している(84.7%) > 不満を持っている(15.4%)

10年から聞き方が
変わっている

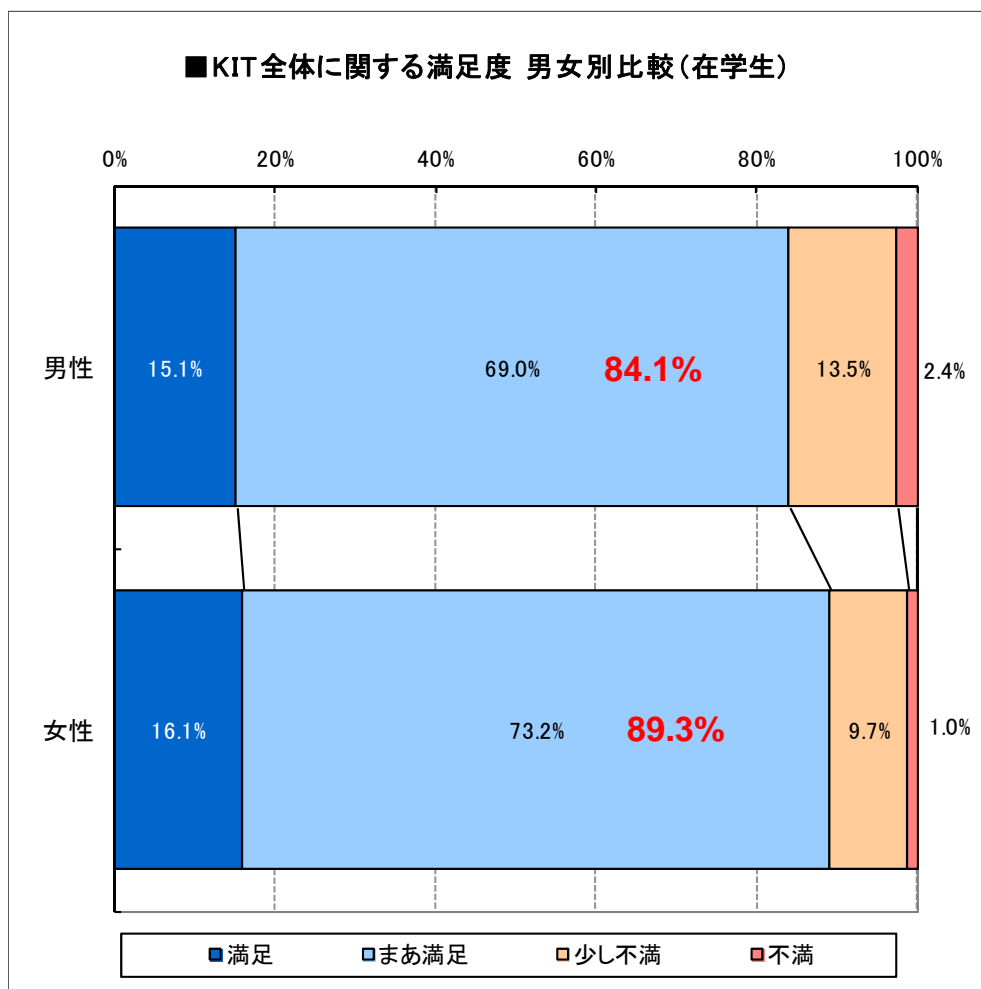
■KIT全体に関する満足度 年度別比較(在学生)



■満足 ■まあ満足 □少し不満 ■不満

■ KIT全体に関する満足度 男女別比較

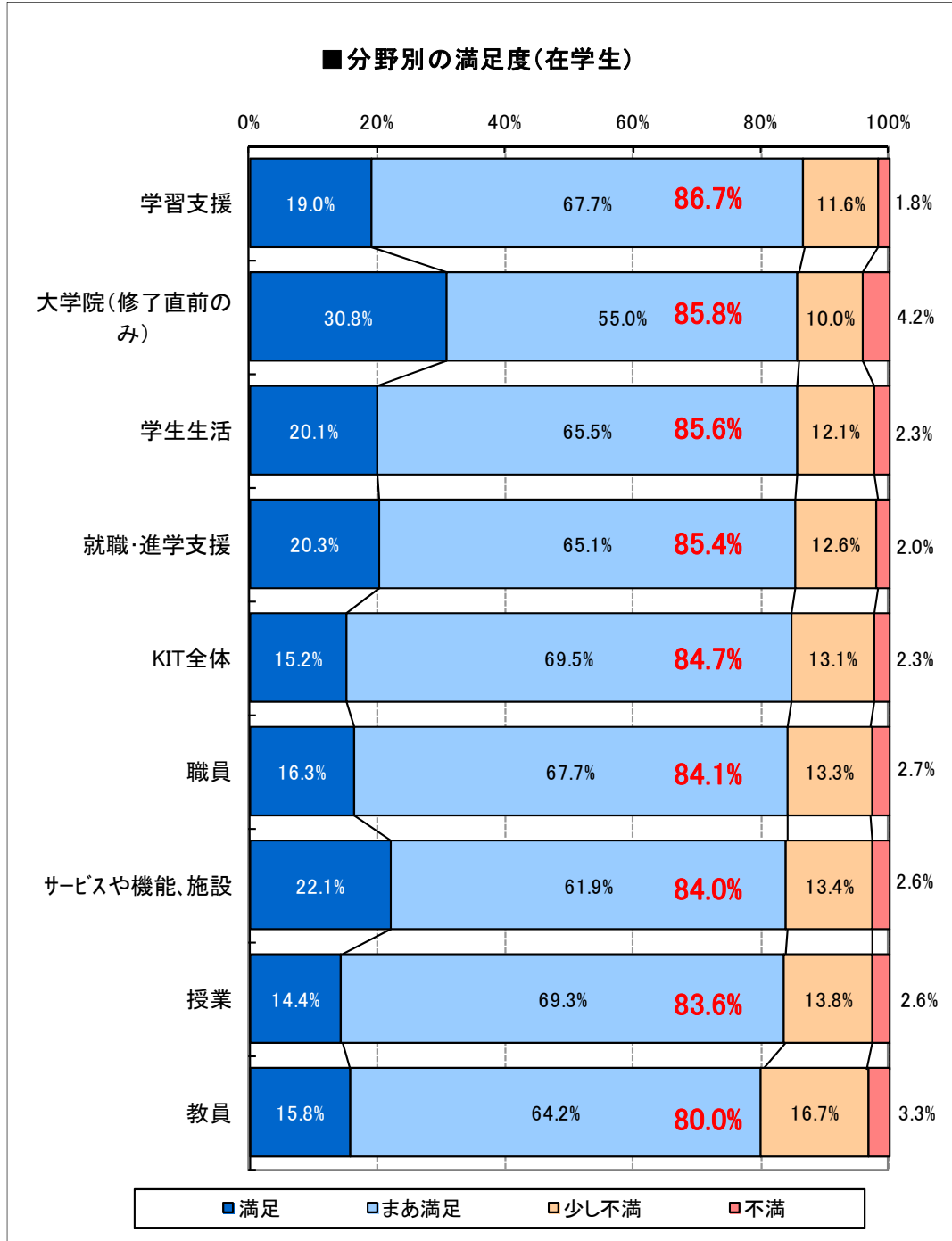
- 男女別に満足度を比較したところ、男性では満足という回答が84.1%、女性では89.3%となって男性を5.2ポイント上回り、女性の方が満足度が高かった。



<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

- 在学生全体の分野別の満足度を見たところ、最も満足度が高かったのは「学習支援」の86.7%であった。次いで、「修了直前」のみに聞いた「大学院」が85.8%、「学生生活」が85.6%と続いており、特に「大学院」は「満足」が30.8%であり、強く満足している学生が多いことがわかった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「教員」の80.0%であり、「学習支援」との差は6.7ポイントと、それほど多くなかった。そして、「授業」が83.6%、「サービスや機能、施設」が84.0%となっており、満足度が低いとは言っても8割以上は満足という回答であった。また、「サービスや機能、施設」に関しては、「満足」が22.1%と多く、強く満足している学生が多いことが確認できた。

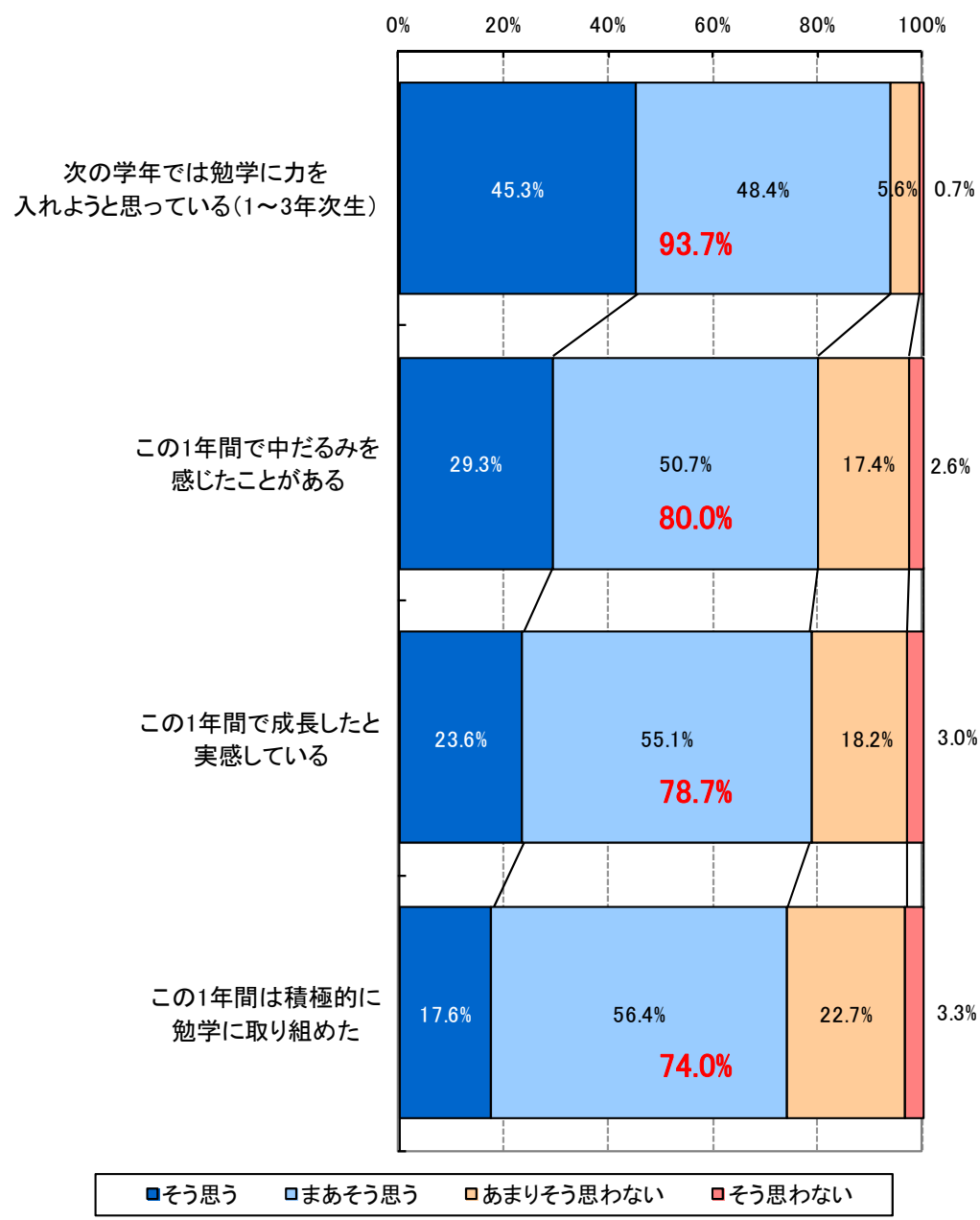


<4-3>この1年間の振り返り

■この1年間の振り返り

- 「この1年間の振り返り」では4つの項目を聞いているが、肯定的な意見が最も多かったのは「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」の93.7%であった。「そう思う」だけでも45.3%であり、次の学年に向けた積極性が感じられる結果となっていた。
- 上記に次いで「この1年間で中だるみを感じたことがある」では80.0%が肯定的な意見であった。この質問では、肯定的であるほど中だるみを感じているということになり、全体の8割が中だるみを感じているということになる。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」の74.0%であり、約3割は積極的ではなかったと答えていた。また、「この1年間で成長したと実感している」では78.7%が肯定的な意見であり、2割は成長を感じるできなかったと答えていた。

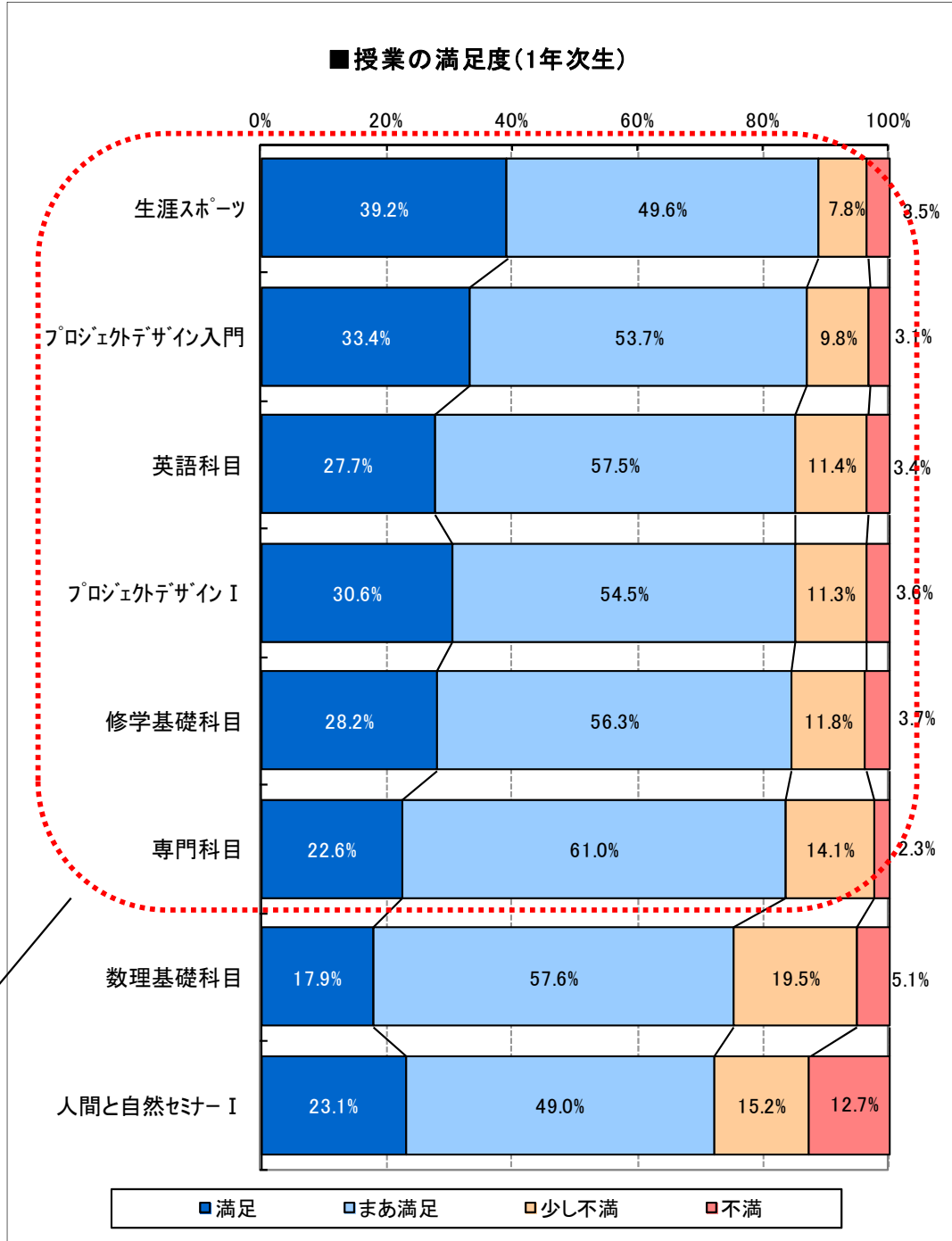
■この1年間の振り返り(在学生)



<5-1> 授業の満足度

■ 授業の満足度 1年次生

- 「1年次生」の授業満足度では「数理基礎科目」と「人間と自然セミナー I」の2科目以外は満足しているという意見が8割を超えていた。
- 最も満足度が高かったのは「生涯スポーツ」であり、「満足」と「まあ満足」の合計は88.8%であった。次いで、「プロジェクトデザイン入門」が87.1%、「英語科目」が85.2%であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナー I」であり、満足という回答は23.1%であった。ただし、「満足」だけを見ると23.1%とやや多めであった。



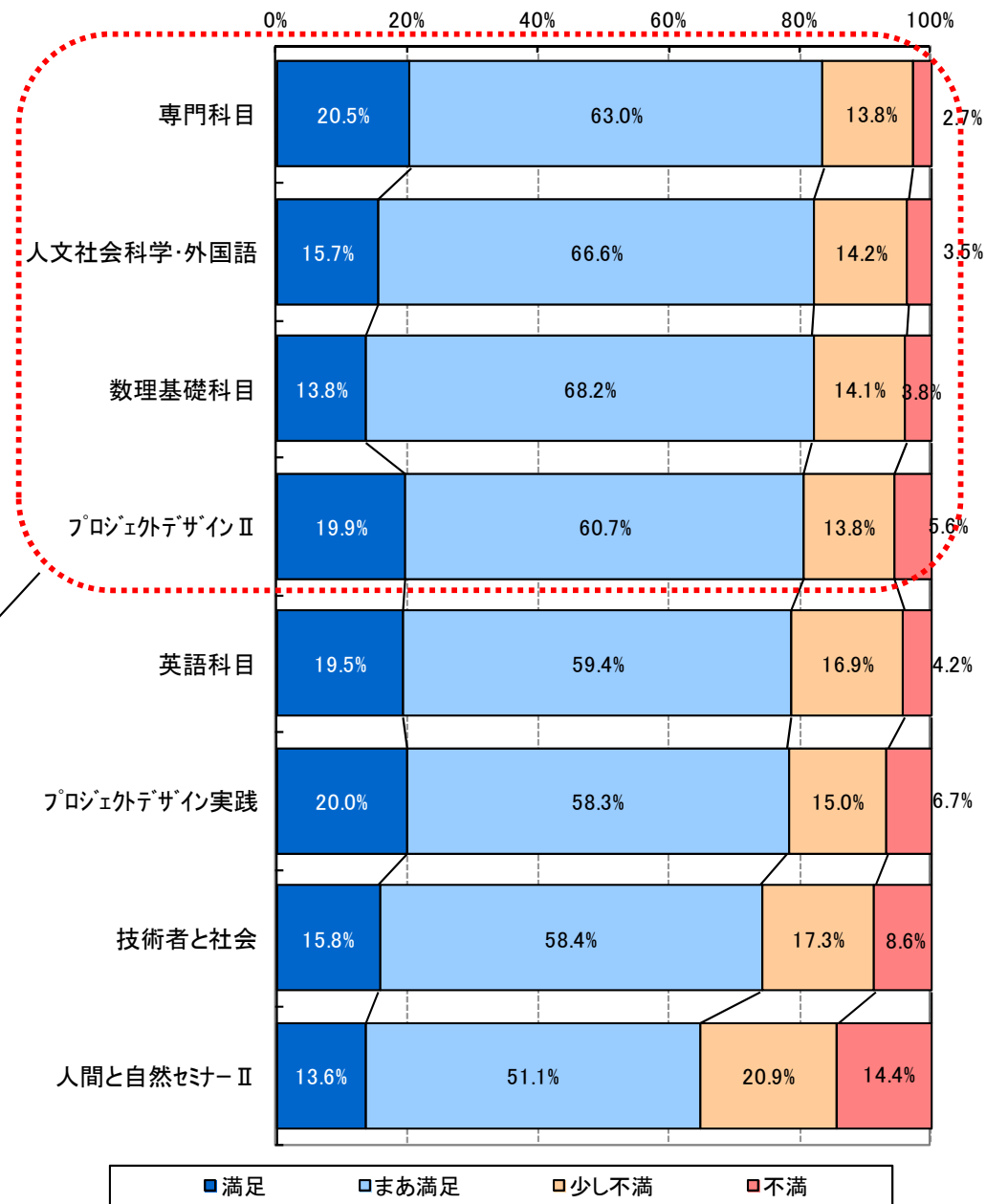
満足している層が8割以上

■授業の満足度 2年次生

- 「2年次生」の授業で満足している割合が8割を超えていたのは「専門科目」(83.5%)、「人文社会科学・外国語」(82.3%)、「数理基礎科目」(82.0%)、「プロジェクトデザインⅡ」(80.6%)の4科目であった。
- 満足という意見が8割に満たなかったものの、上記に次いで「英語科目」が78.9%、「プロジェクトデザイン実践」が78.3%が続いていた。
- 最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナーⅡ」で、満足しているという割合は64.7%であった。

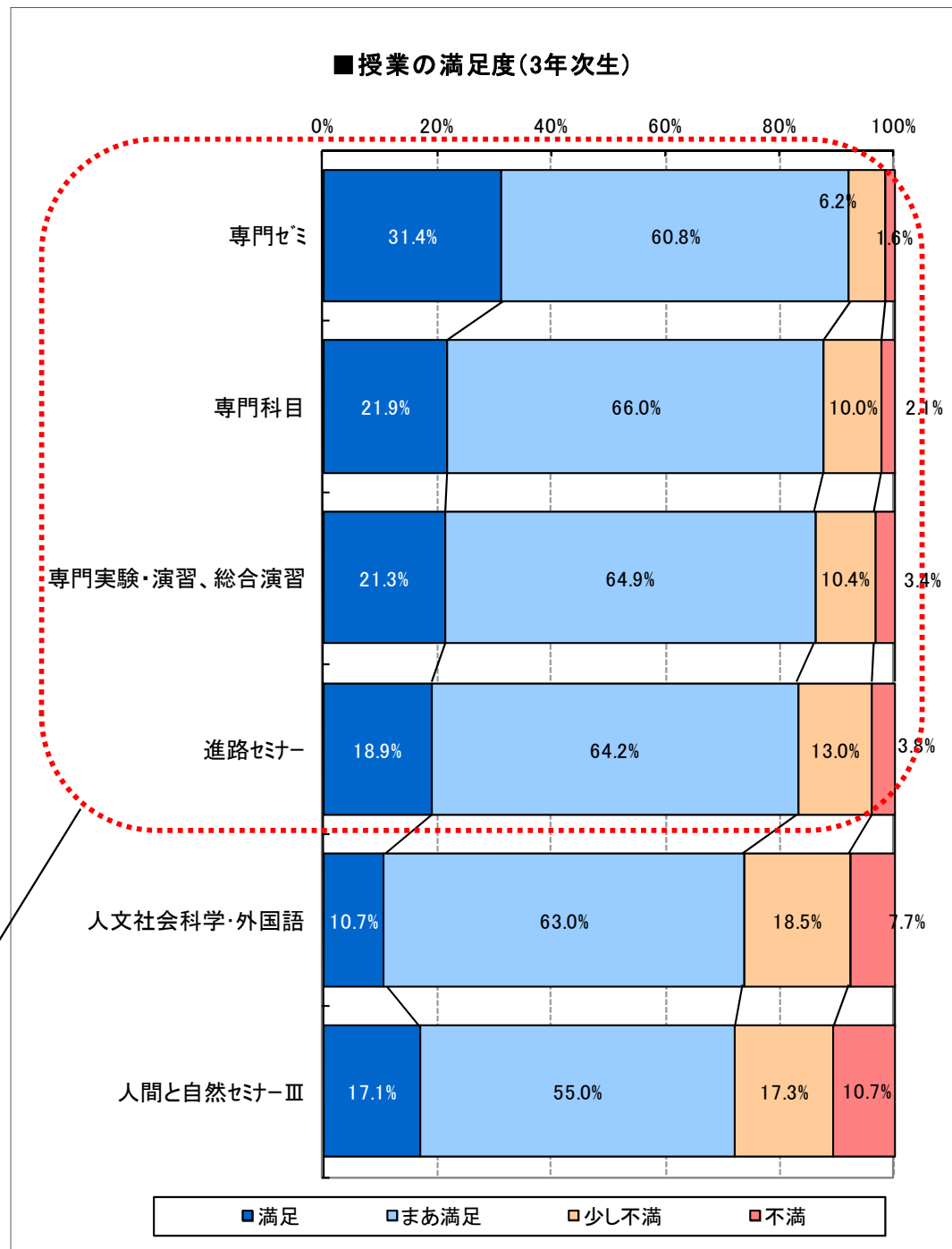
満足している層が
8割以上

■授業の満足度(2年次生)



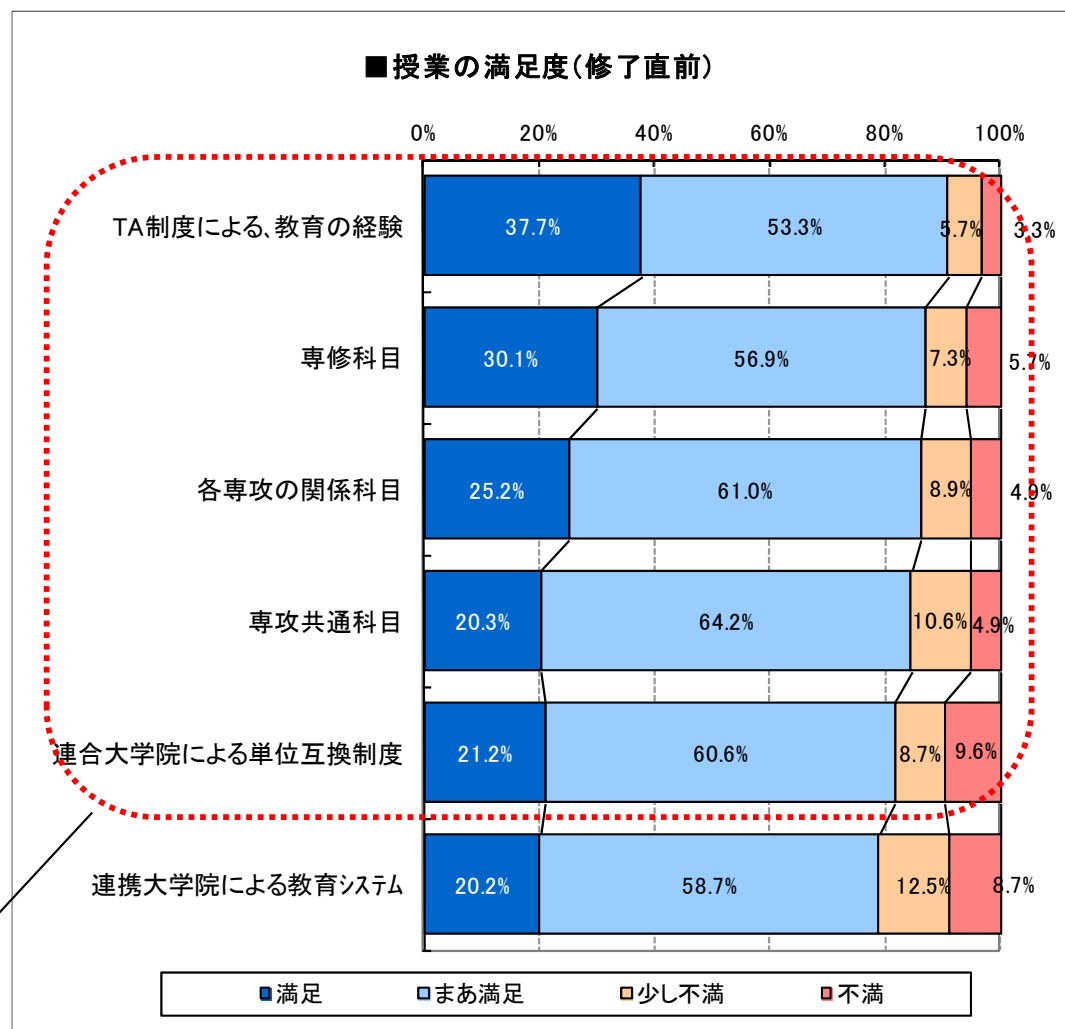
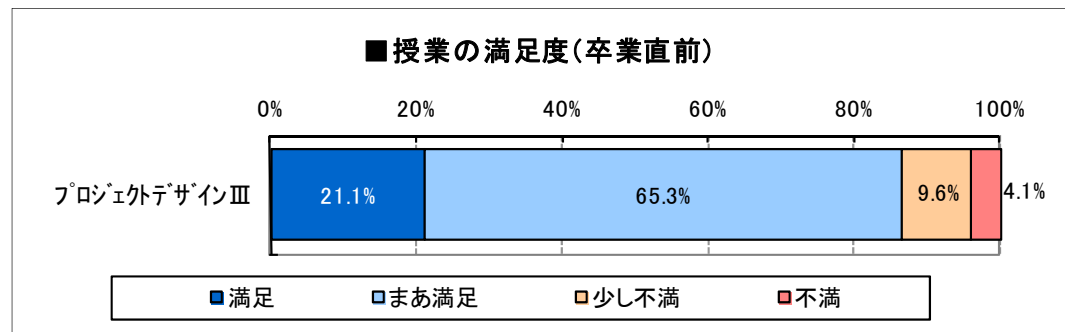
■授業の満足度 3年次生

- 「3年次生」の授業満足度で最も高かったのは「専門ゼミ」の92.2%であり、次いで、「専門科目」が87.9%、「専門実験・演習、総合演習」が86.2%、「進路セミナー」が83.1%であり、ここまでの4科目は満足しているという回答が8割を超えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナーⅢ」の72.1%であったが、決して低い満足度ではなかった。



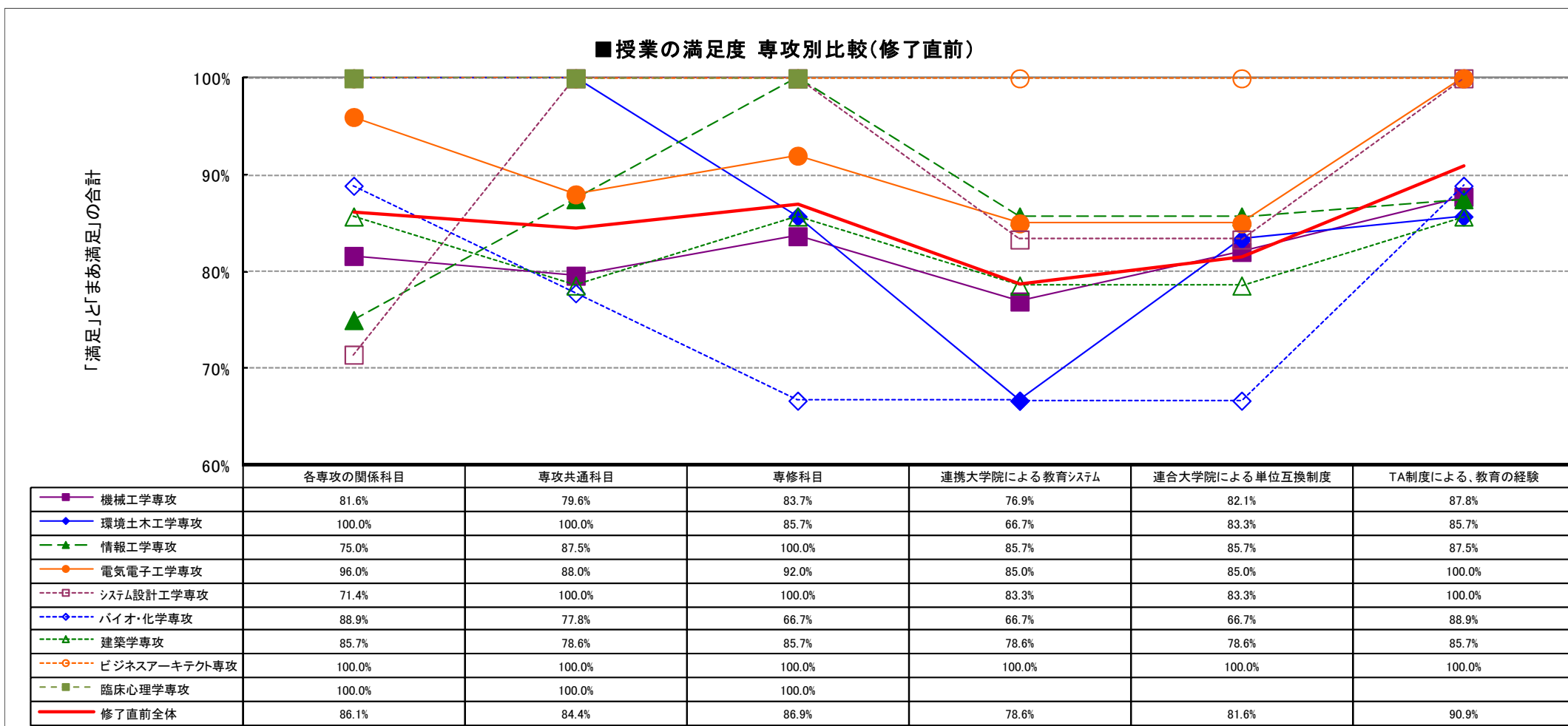
■授業の満足度 卒業・修了直前

- 「卒業直前」に対しては「プロジェクトデザインⅢ」の満足度だけを聞いているが、満足しているという回答は86.4%であった。
- 「修了直前」には6科目の満足度を聞いているが、「連携大学院による教育システム」以外の科目は満足している割合が8割を超えていた。
- 最も満足度が高かったのは「TA制度による、教育の経験」の91.0%であり、次いで、「専修科目」が87.0%、「各専攻の関係科目」が86.2%と続いていた。
- 最も満足度が低かったのは「連携大学院による教育システム」であるが、78.9%は満足という回答であり、決して低いものではなかった。



■授業の満足度の専攻別比較 修了直前

- 「修了直前」は回答者が123名であり、「臨床心理学専攻」は1名、「ビジネスアーキテクト専攻」は2名などと少なかったため、極端な結果になっている面もある。
- 上記以外の専攻を見ると、「電気電子工学専攻」「情報工学専攻」「システム設計工学専攻」の満足度が高めであり、「バイオ・化学専攻」が低めになっていた。

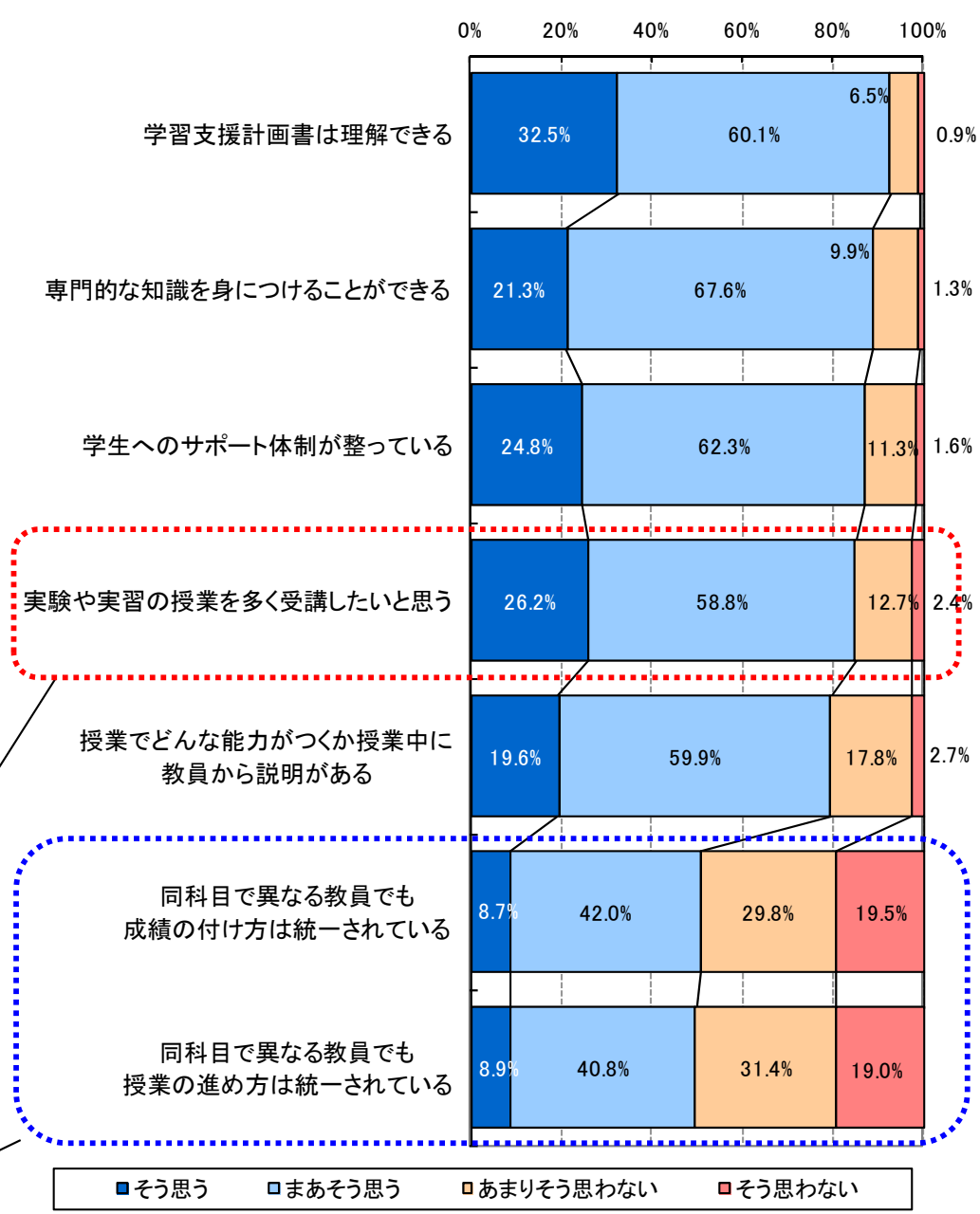


<5-2> 授業の仕組みの評価

■ 授業の仕組み評価

- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く質問と要望を聞く質問が混在している。
- 現状の評価を聞く質問で肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の92.6%であり、次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が88.9%、「学生へのサポート体制が整っている」が87.1%であった。
- 一方、最も評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の49.7%であり、「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」の50.7%と合わせて見ると、同科目で異なる教員の対応に大きな不満を持っていることがわかった
- 要望を聞く質問として、「実験や実習の授業を多く受講したい」と思うかどうかを聞いているが、肯定的な意見が85.0%であり、非常に多くの学生が実験や実習の授業を望んでいる様子がうかがえた。

■ 授業の仕組み評価(在学生)



要望を聞く質問

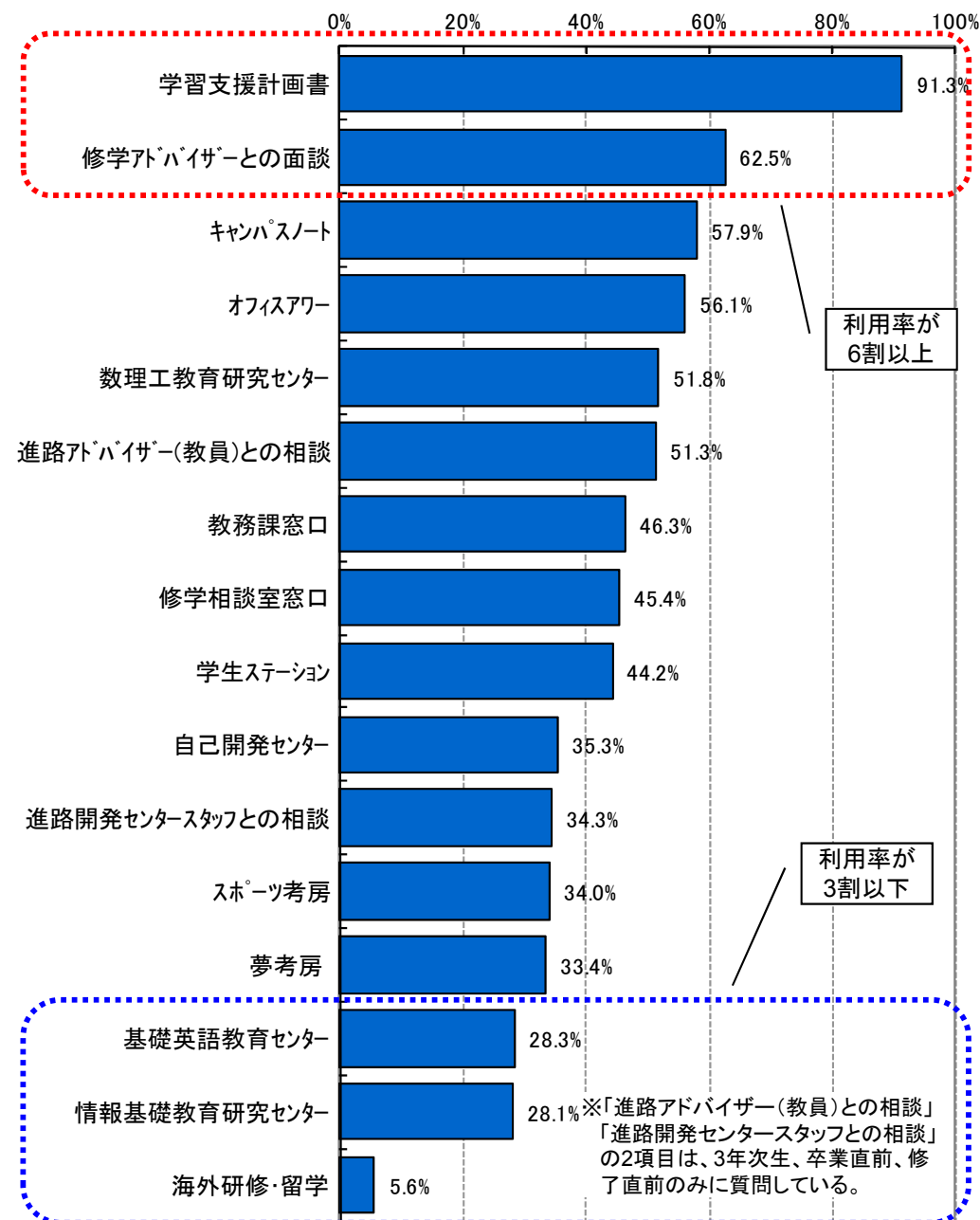
「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満がある

<5-3> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

- 学生サポート・支援制度の利用経験者を見たところ、最も多かったのは「学習支援計画書」の91.3%であった。
- 上記に続いて、「修学アドバイザーとの面談」が62.5%であり、ここまでの2項目は利用者が6割を超えていた。そして、「キャンパスノート」が57.9%、「オフィスアワー」が56.1%と続いていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の5.6%であり、低さが目立っていた。そして、「情報基礎教育研究センター」が28.1%、「基礎英語教育センター」が28.3%と続いております、ここまでの3項目は利用経験者が3割に満たなかった。

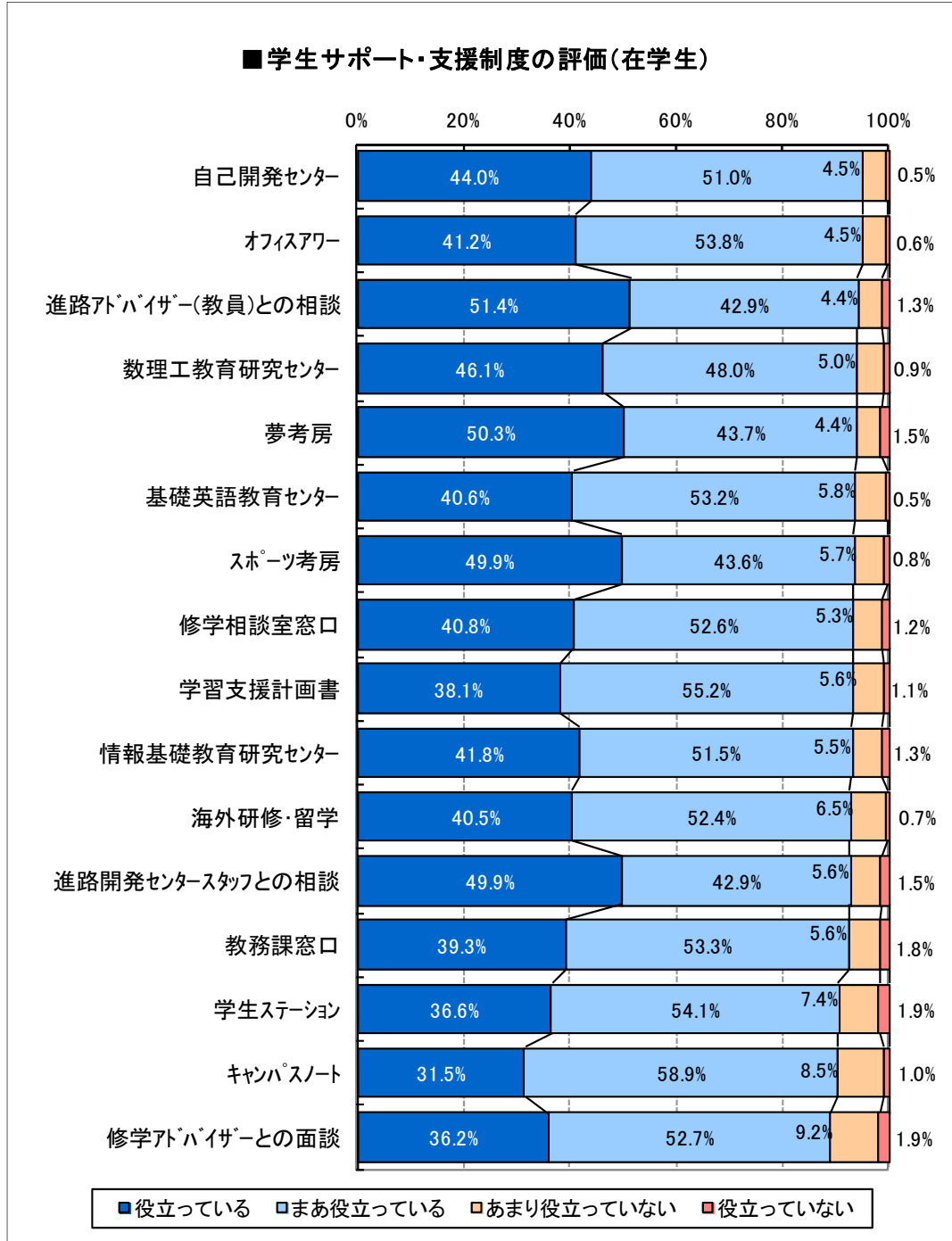
■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合(在学生全体)



<5-4> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

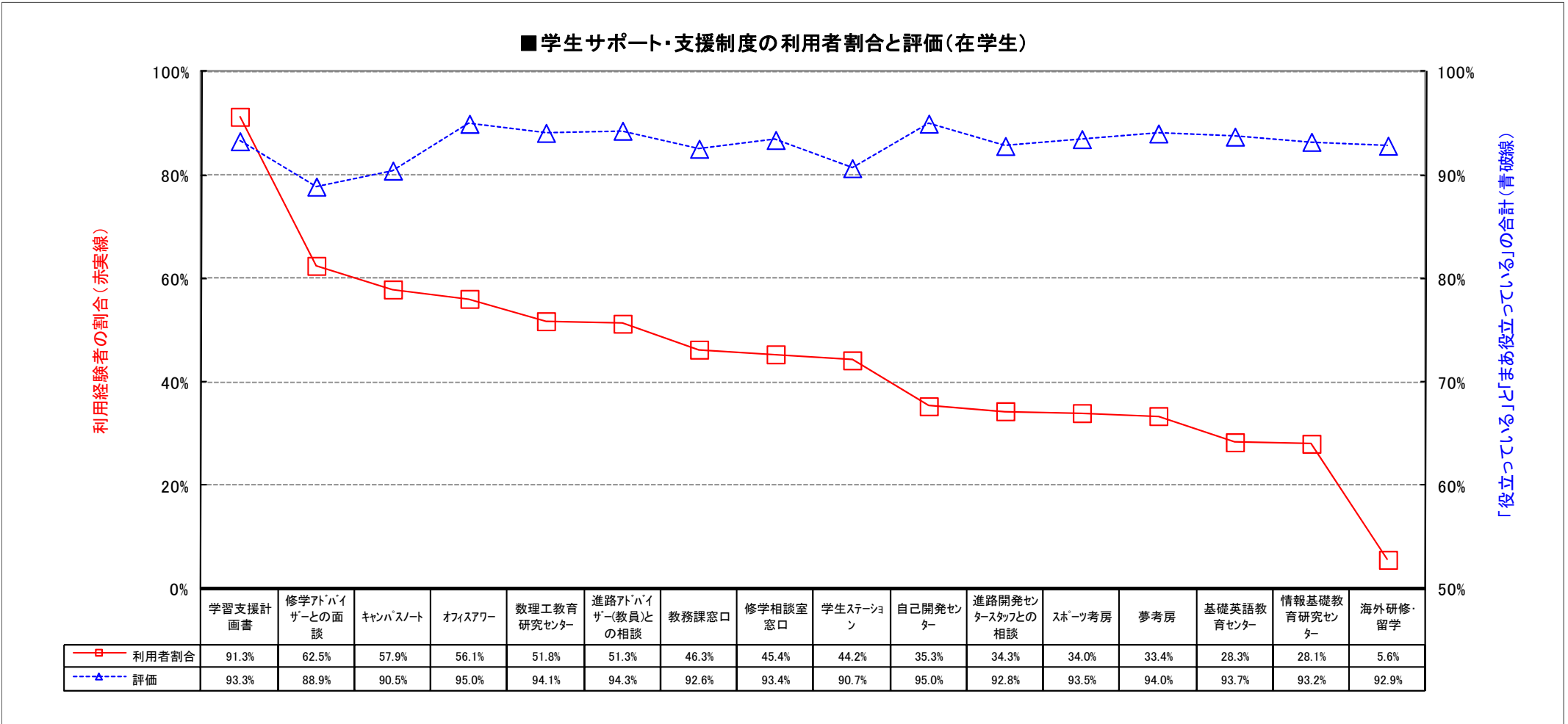
- 前項までの「学生サポート・支援制度」の利用者に対して、機能が役立っているかを聞いた。
- 「役立っている」と「まあ役立っている」の合計を見ると、「修学アドバイザーとの面談」は88.9%であったが、ほぼすべての項目で9割以上が肯定的な評価となっており、学生サポート・支援策の評価は非常に高いと言える。
- 最も評価が高かったのは「自己開発センター」と「オフィスアワー」の95.0%であり、「進路アドバイザー(教員)との相談」が94.3%、「数理工教育研究センター」が94.1%、「夢考房」が94.0%と続いていた。
- 「役立っている」だけを見ると、「進路アドバイザー(教員)との相談」が51.4%、「夢考房」が50.3%、「スポーツ考房」と「進路開発センタースタッフとの相談」が49.9%となっており、強く満足している利用者が多いと言える。



<5-5> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

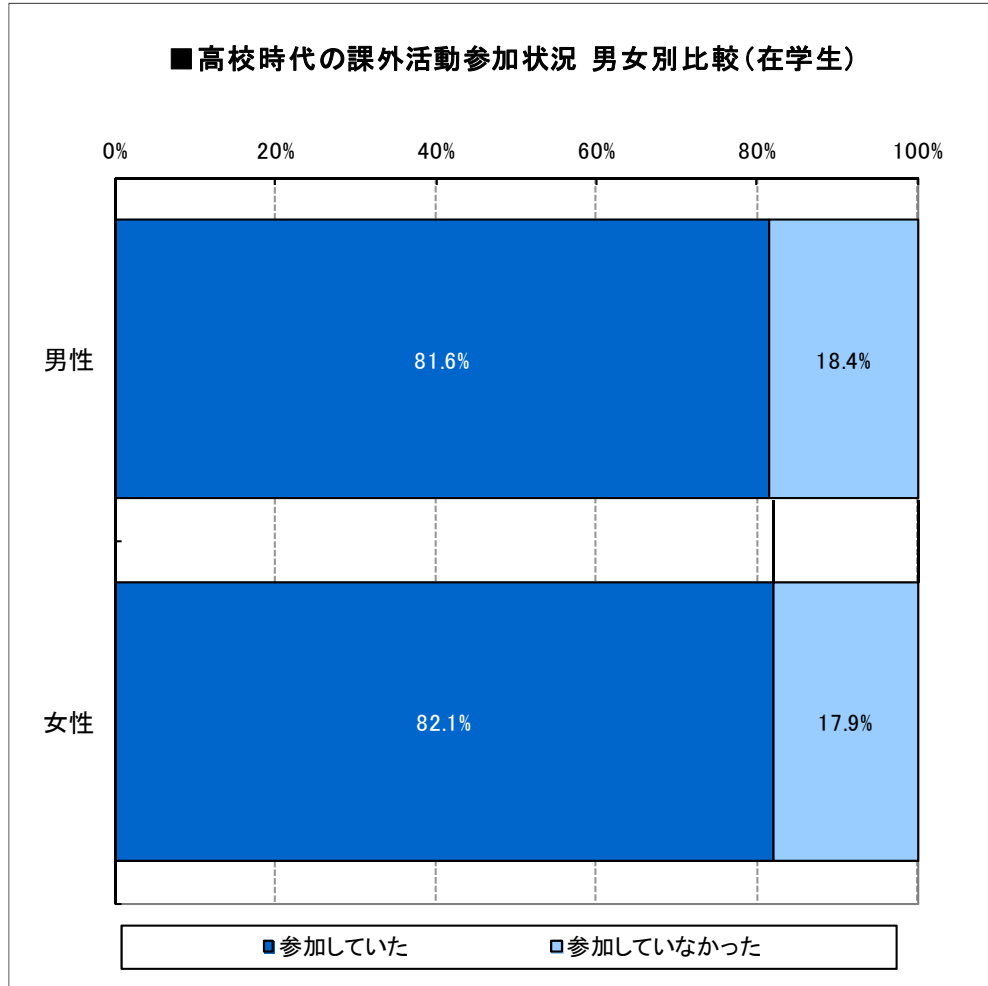
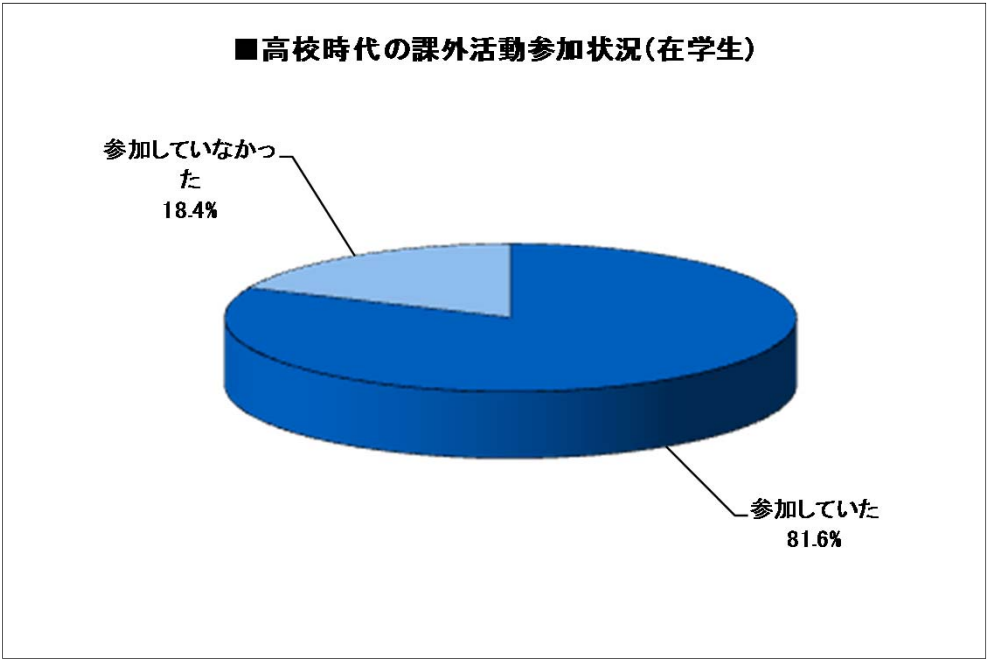
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を下記のように1つのグラフにまとめた。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は、「学習支援計画書」の91.3%から、「海外研修・留学」の5.6%まで非常に大きな差が見られた。一方、評価はほとんどの項目で9割以上が肯定的な評価となっており、利用者が多い少ないに関わらず、各々の評価は非常に高いということがわかった。



<6-1> 高校時代の課外活動への参加状況

■ 高校時代の課外活動参加状況、男女別比較

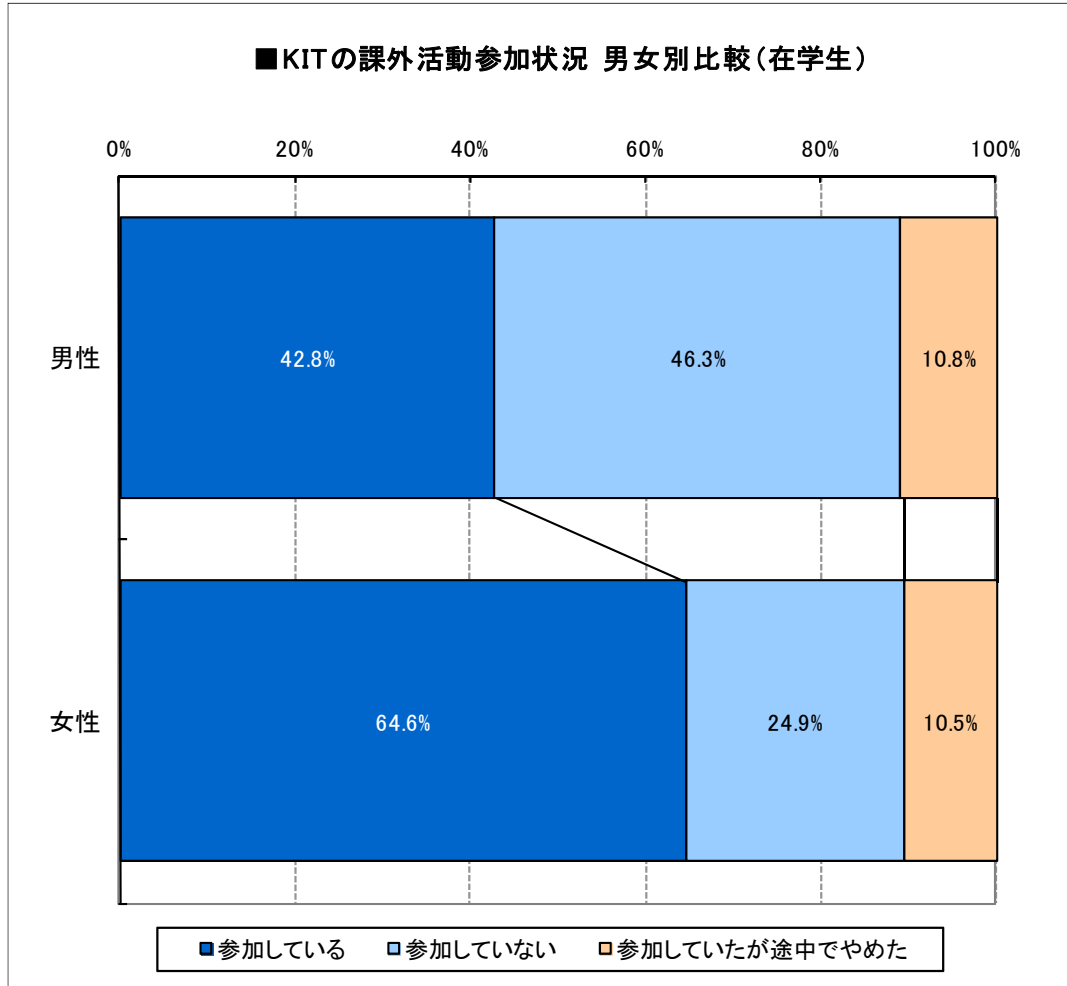
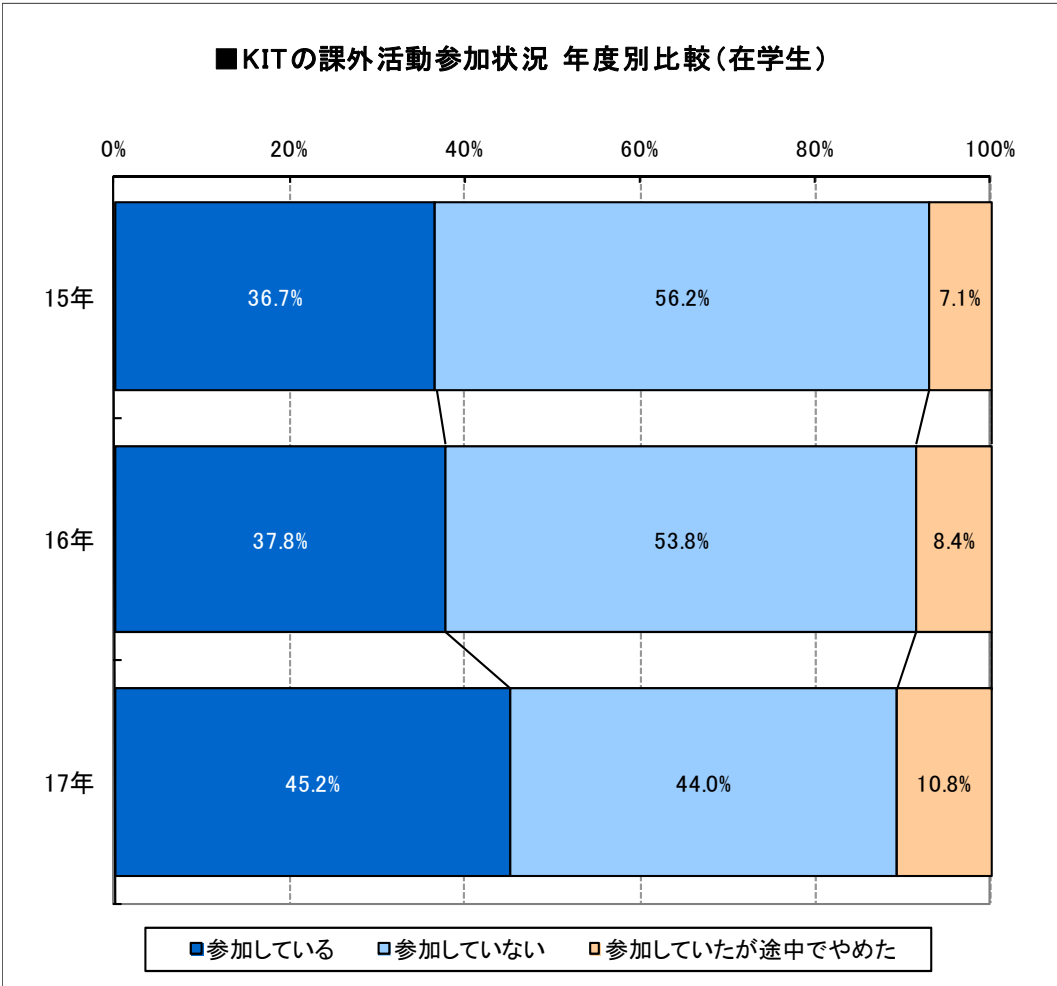
- 高校時代の課外活動参加状況は今回追加した質問であるが、「参加していた」が81.6%、「参加していなかった」が18.4%となっていた。
- 男女別に「参加していた」の割合を比較したところ、「男性」では81.6%、「女性」では82.1%となり、差は0.5ポイントと非常に少なかった。



<6-2> 課外活動への参加状況

■ 課外活動への参加状況、男女別比較

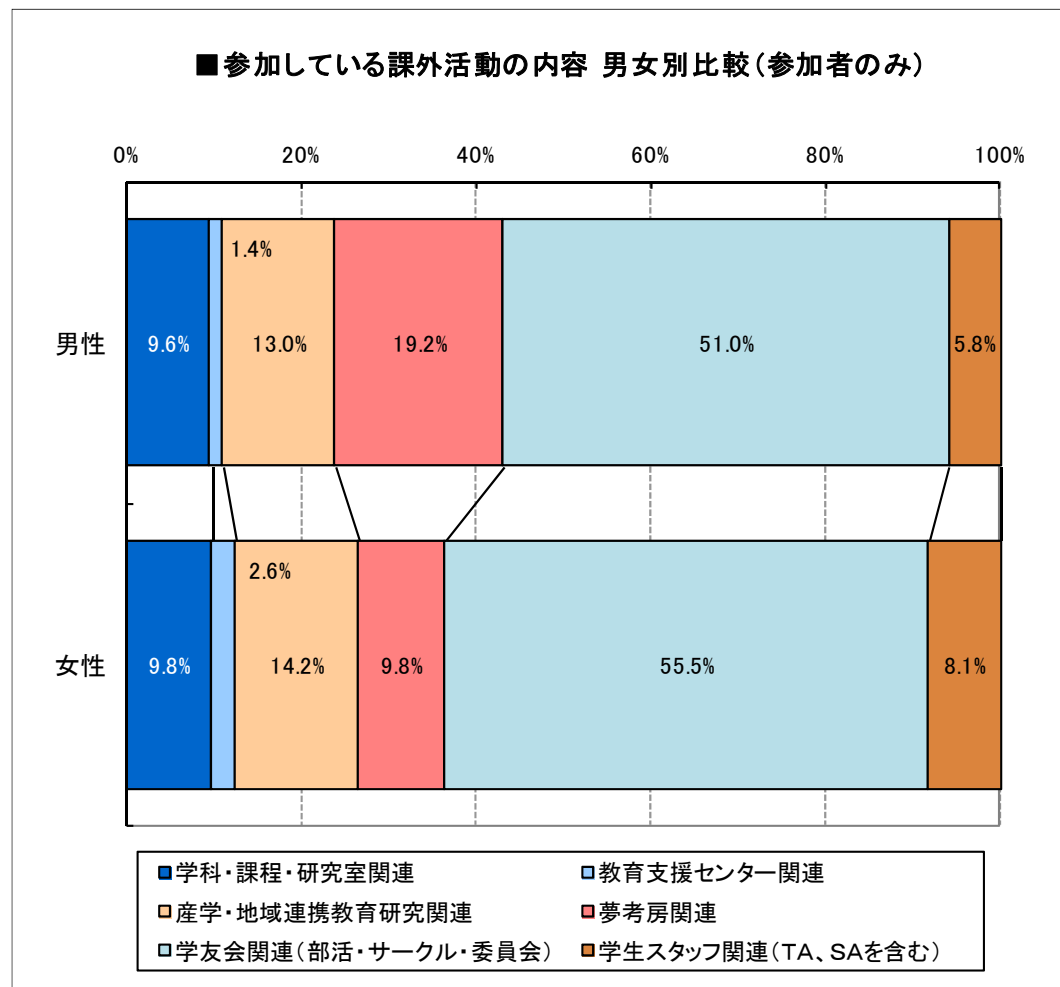
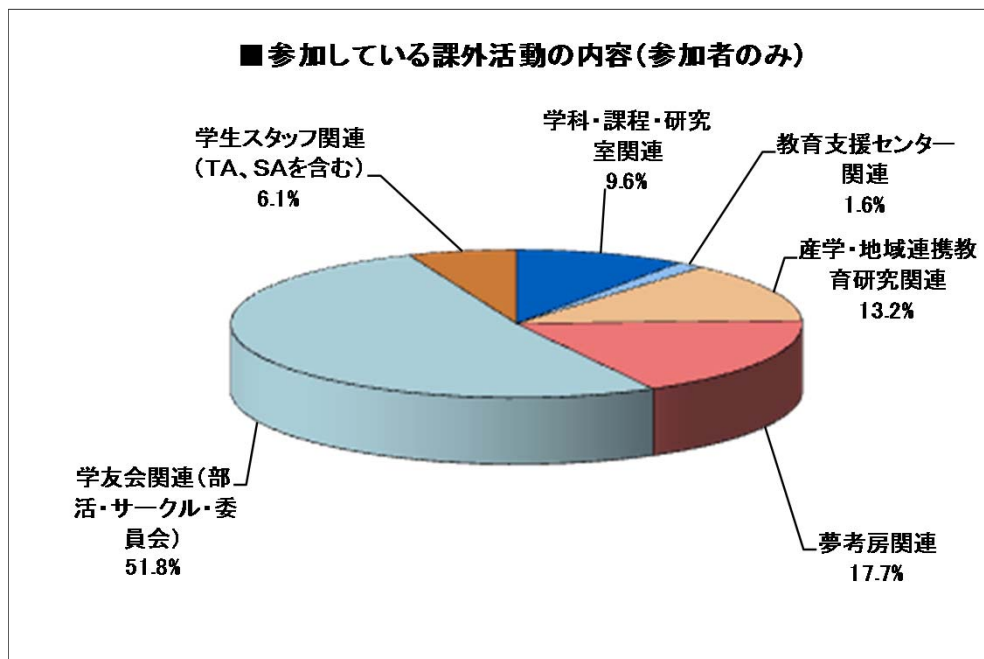
- 大学での課外活動への参加状況を見ると、「参加している」が45.2%であり、「参加していない」が44.0%、「参加していたが途中でやめた」が10.8%であった。
- 前回と比較すると、「参加している」が7.4ポイント増加しており、調査開始の15年から継続的に増加が続いていた。また、「参加していたが途中でやめた」も前回より2.4ポイント増加し、15年から継続的に増加していた。
- 男女別の比較を見ると、「参加していた」は「男性」が42.8%、「女性」が64.6%であり、差は21.8ポイントと非常に大きかった。そして、「参加していたが途中でやめた」は男女の間に差が見られなかった。



<6-3> 課外活動の内容

■ 課外活動の内容、男女別比較

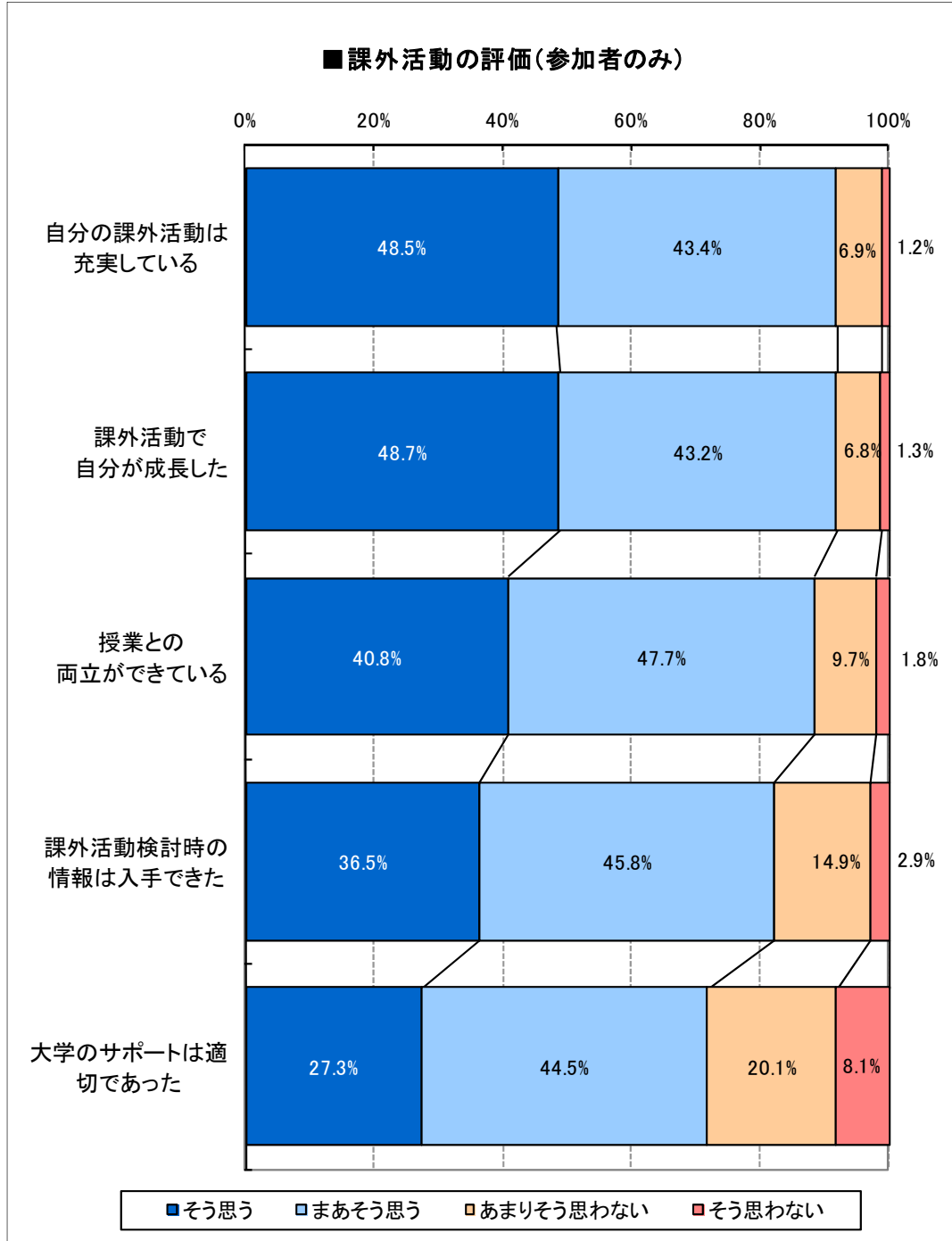
- 前回まで課外活動の内容は自由記述で聞いていたが、今回は選択肢式で聞いた。
- 最も多かったのは「学友会関連(部活・サークル・委員会)の51.8%であり、次いで「夢考房関連」が17.7%、「産学・地域連携教育研究関連」が13.2%と続いていた。
- 男女別に比較したところ、最も大きな差が見られたのは「夢考房関連」であり、「男性」の19.2%に対して、「女性」は9.8%となっていた。そのほかでは「学友会関連(部活・サークル・委員会)」と「学生スタッフ関連(TA、SAを含む)」では「女性」の多さが目立っていた。



<6-4> 課外活動の評価

■ 課外活動の評価

- 「課外活動に参加している」と答えた学生に、活動内容の評価を聞いたところ、「自分の課外活動は充実している」と「課外活動で自分が成長した」では、半数近くが「そう思う」と答えており、肯定的な意見の合計はいずれも91.9%であり、非常に充実している様子がうかがえた。
- 上記以外の項目を見ると、「授業との両立ができている」では88.5%、「課外活動検討時の情報は入手できた」では82.3%、「大学のサポートは適切であった」では71.8%が肯定的な意見であり、大きな問題はなさそうであった。

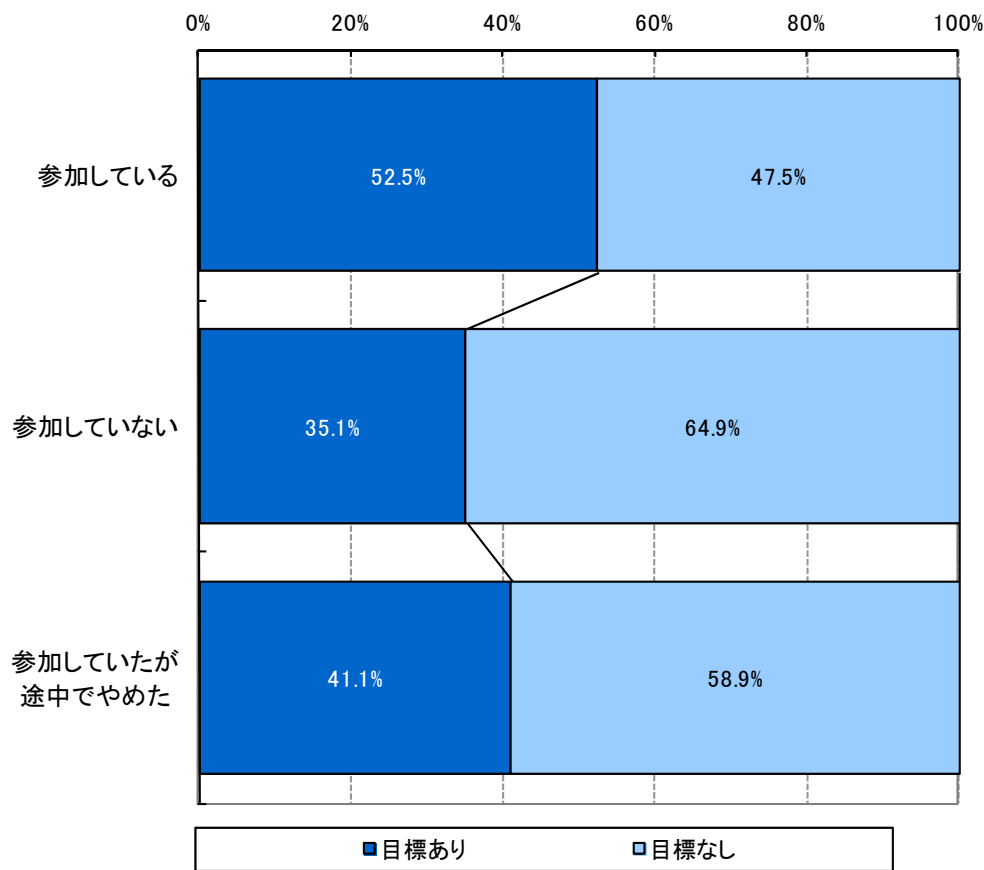


<6-5> 課外活動と他の主要指標との関係

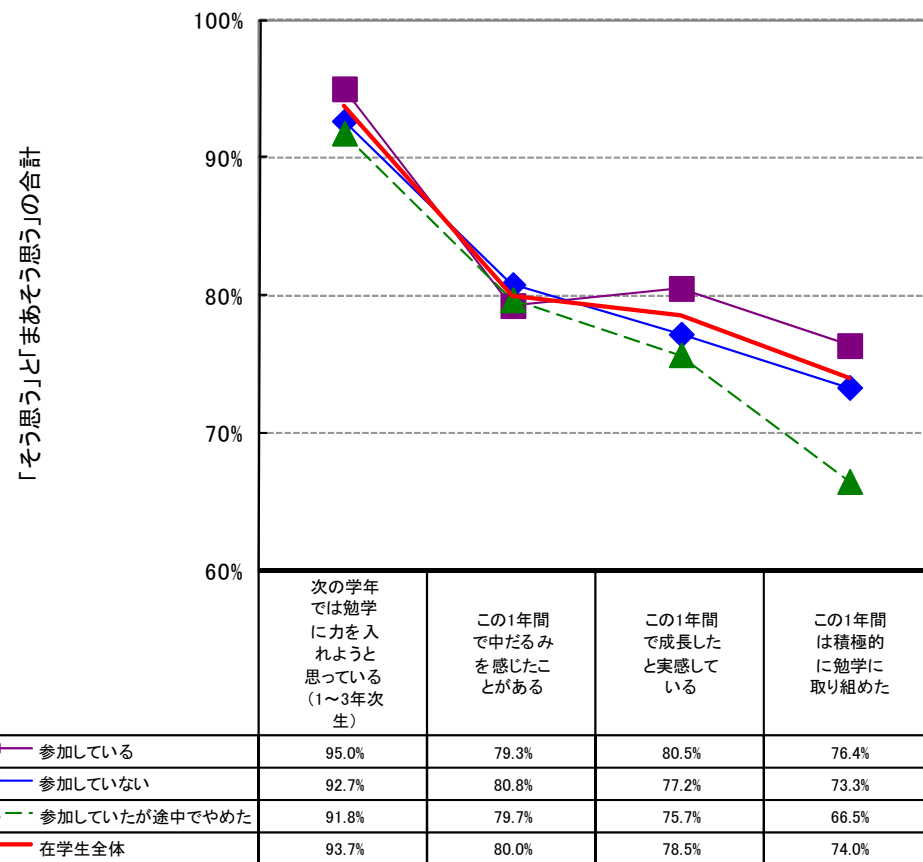
■ 目的・目標意識 1年間の振り返りとの関係

- 課外活動の参加状況の違いによって、学生の考え方や行動にどのような差があるのかを確認した。
- 「課外活動の参加状況」と「目的・目標意識」の関係を見たところ、「参加している」と答えた学生では52.5%が「目標あり」と答えており、「参加していない」の35.1%とは17.4ポイントの差がつき、意識の差が見られた。
- 「1年間の振り返り」との関係を見ると、「次の学年では勉学に力を入れようと思っている」と「この1年間で中だるみを感じることもある」の2項目では大きな差は見られなかったが、「この1年間で成長したと実感している」と「この1年間は積極的に勉学に取り組めた」は課外活動参加者の方が高くなっており、充実が感じられた。また、「参加していたが途中でやめた」層は課外活動にも勉学にも積極的に取り組めていない様子もうかがえた。

■ 目的・目標意識 課外活動参加状況別比較(在学生)



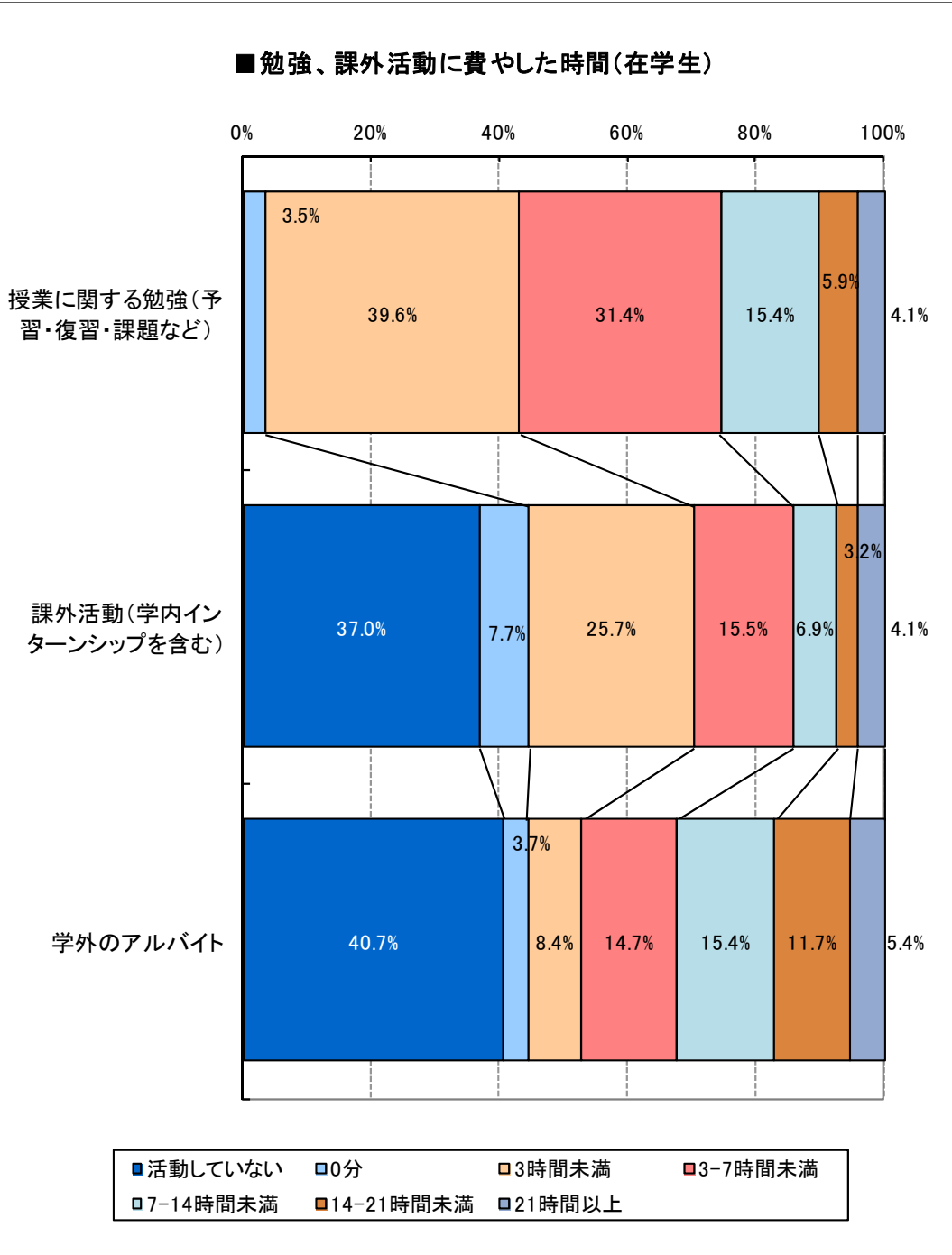
■ 1年間の振り返り 課外活動参加状況別比較(在学生)



<7-1> 勉強、課外活動に費やした時間

■ 勉強、課外活動に費やした時間

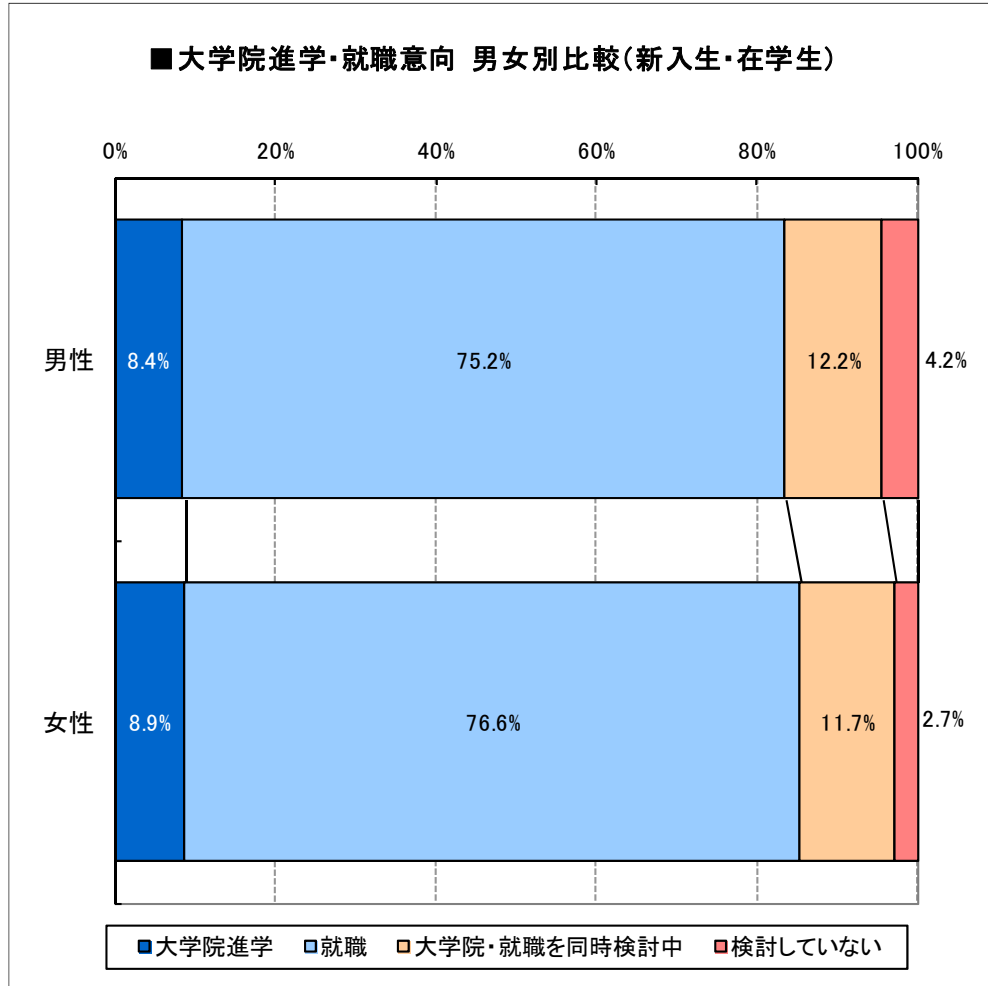
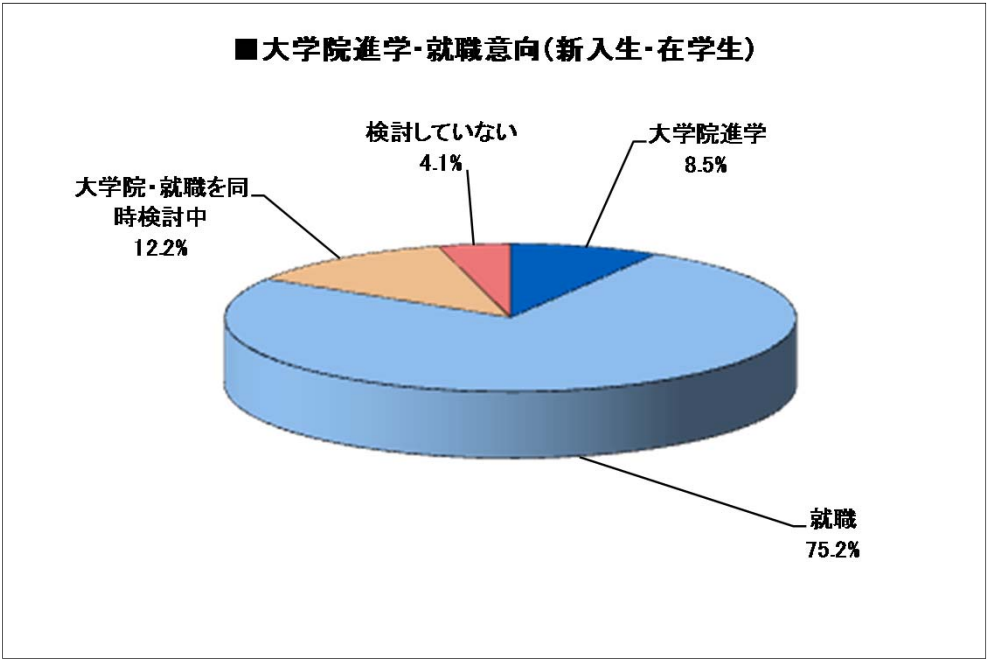
- 勉強、課外活動に費やした時間は今回から加えた質問であるが、3つの項目に対して、普段の1週間の生活の中で費やした時間(1週間の合計)を聞いている。
- 「授業に関する勉強」では「活動していない」という選択肢は設けていないが、「0分」は3.5%、「3時間未満」は39.6%、「3-7時間未満」は31.4%となっており、これ以降の7時間以上(1日に1時間以上)の合計は25.4%であった。
- 「課外活動」では「活動していない」が37.0%、「0分」が7.7%であり、合わせると44.7%であった。そして、「3時間未満」が25.7%、「3-7時間未満」が15.5%であり、活動時間が1日に1時間未満という層は全体の41.2%であった。「21時間以上」は1日に3時間以上となるが、その層は全体の4.1%であった。
- 「学外のアルバイト」では「活動していない」が40.7%、「0分」が3.7%であり、合わせると半数近くが学外のアルバイトをしていないと答えていた。そして、「3時間未満」と「3-7時間未満」の合計(1日に1時間未満)が23.1%、「7-14時間未満」と「14-21時間未満」の合計(1日に1-3時間)が27.1%、「21時間以上」(1日に3時間以上)が5.4%であった。



<8-1>大学院への進学・就職意向

■大学院進学・就職意向、男女別比較

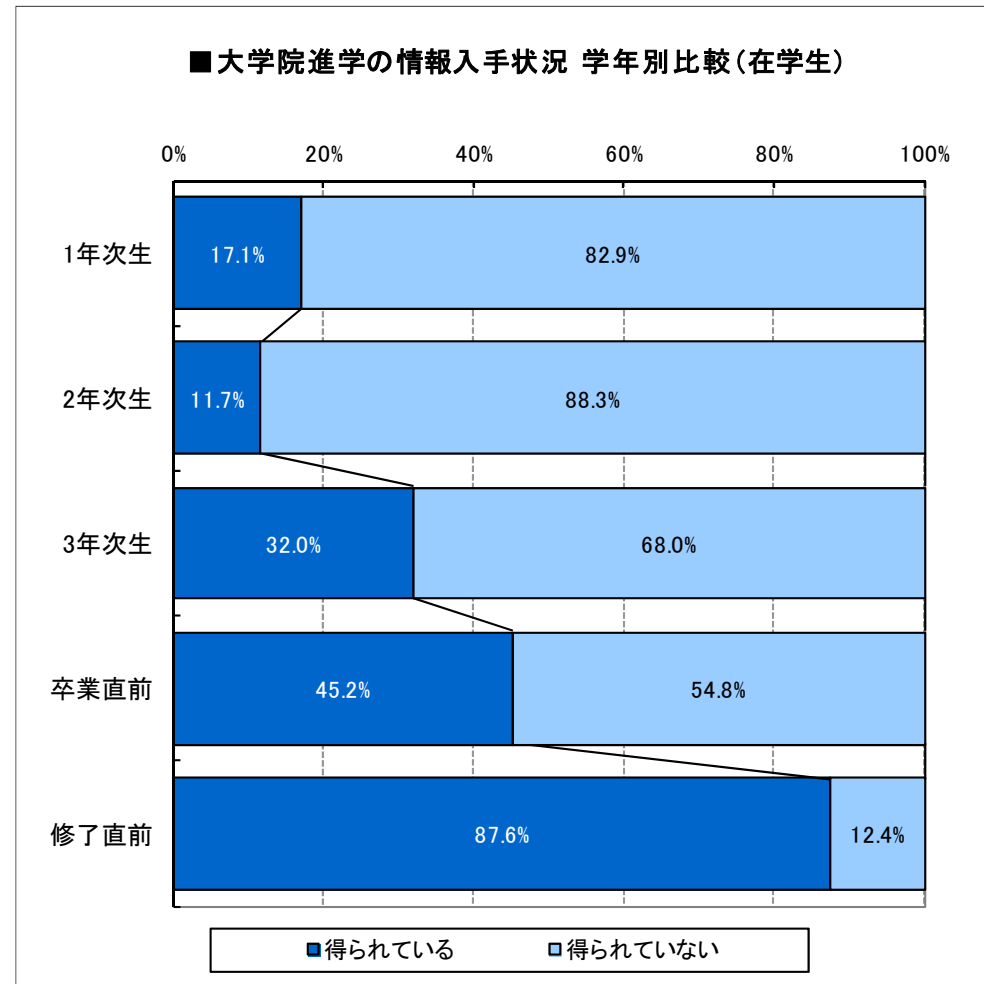
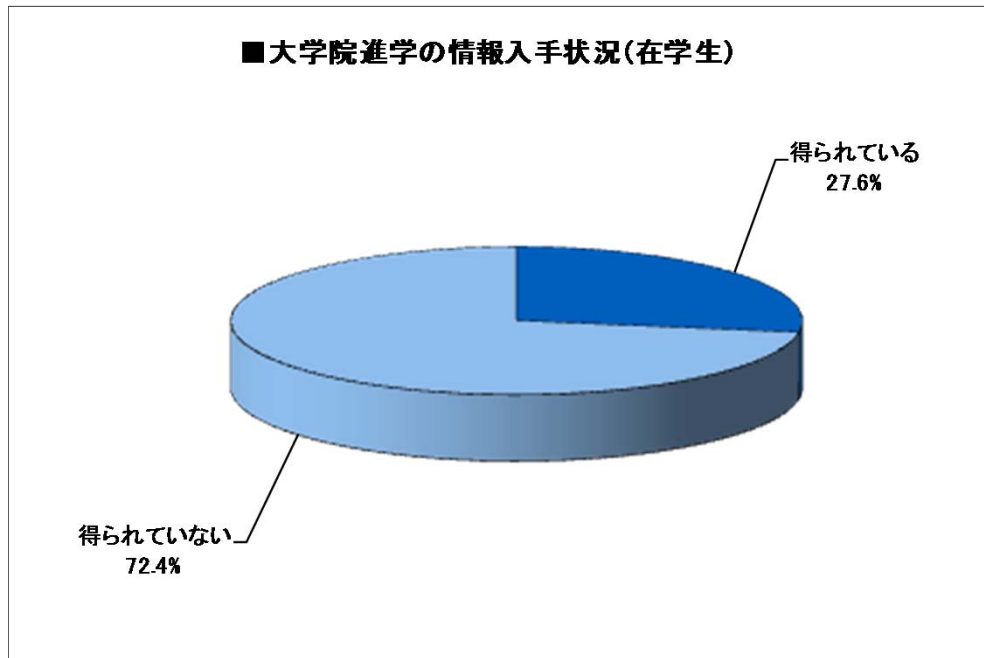
- 「大学院進学・就職意向」は今回から質問を見直しているが、「就職」が75.2%を占めており、「大学院・就職を同時検討中」が12.2%、「大学院進学」が8.5%であった。
- 男女別の差はあまり大きくなかったが、「男性」は「大学院・就職を同時検討中」と「検討していない」が多く「女性」の方が進路が見えているようであった。そして、差は小さいが「女性」は「就職」が多めであった。



<8-2> 大学院進学の情報入手状況

■ 大学院進学の情報入手状況、学年別比較

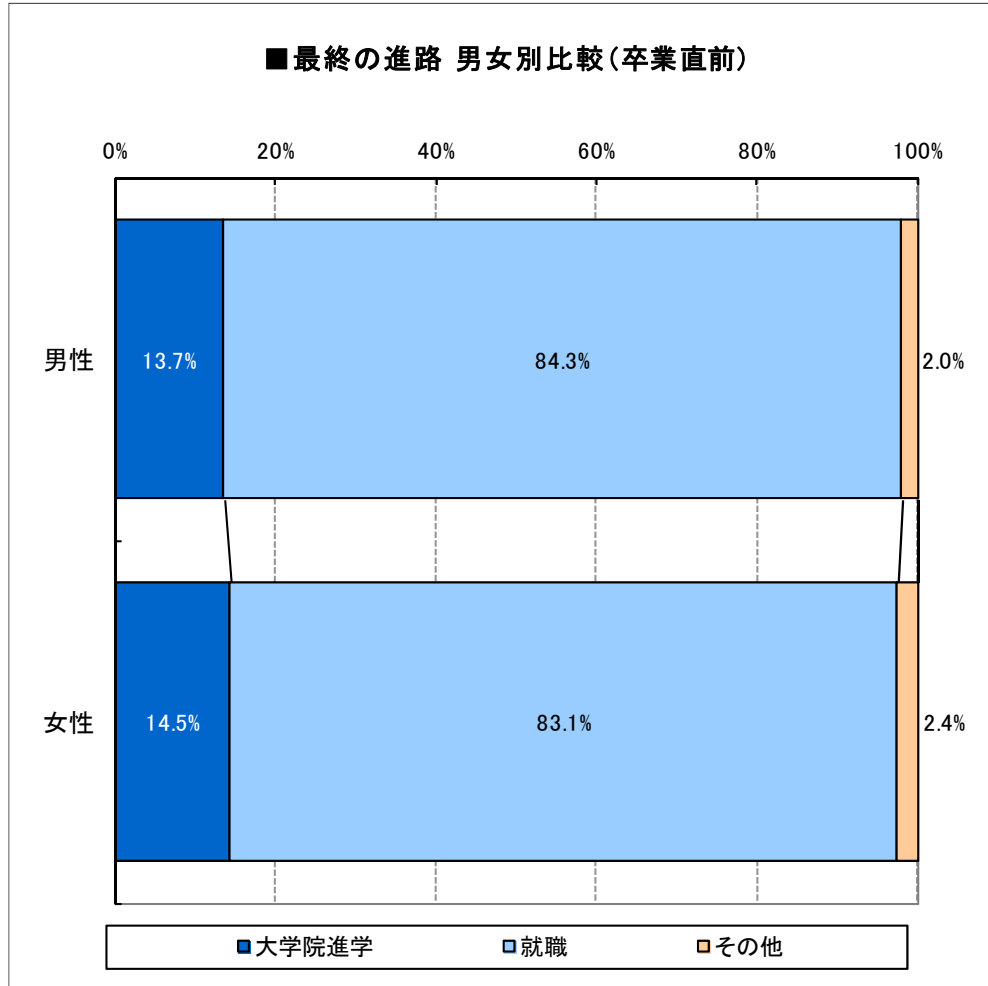
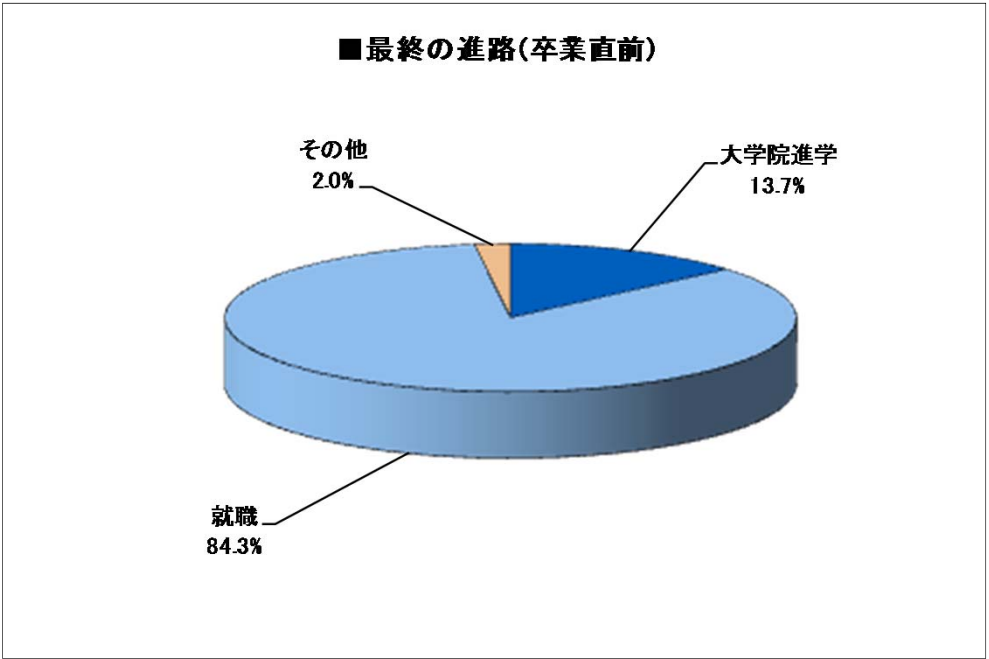
- 「大学院進学への情報は得られていますか？」という質問は、今回より全学年で統一したが、情報が「得られている」の割合は27.6%であり、「得られていない」は72.4%であった。
- 学年別に「得られている」の割合を比較すると、「1年次生」が17.1%、「2年次生」が11.7%であり、それ以降は学年が上がるにつれて増加しており、大学院に進学した「修了直前」では87.6%になっていた。



<8-3> 最終の進路

■最終の進路、男女別比較

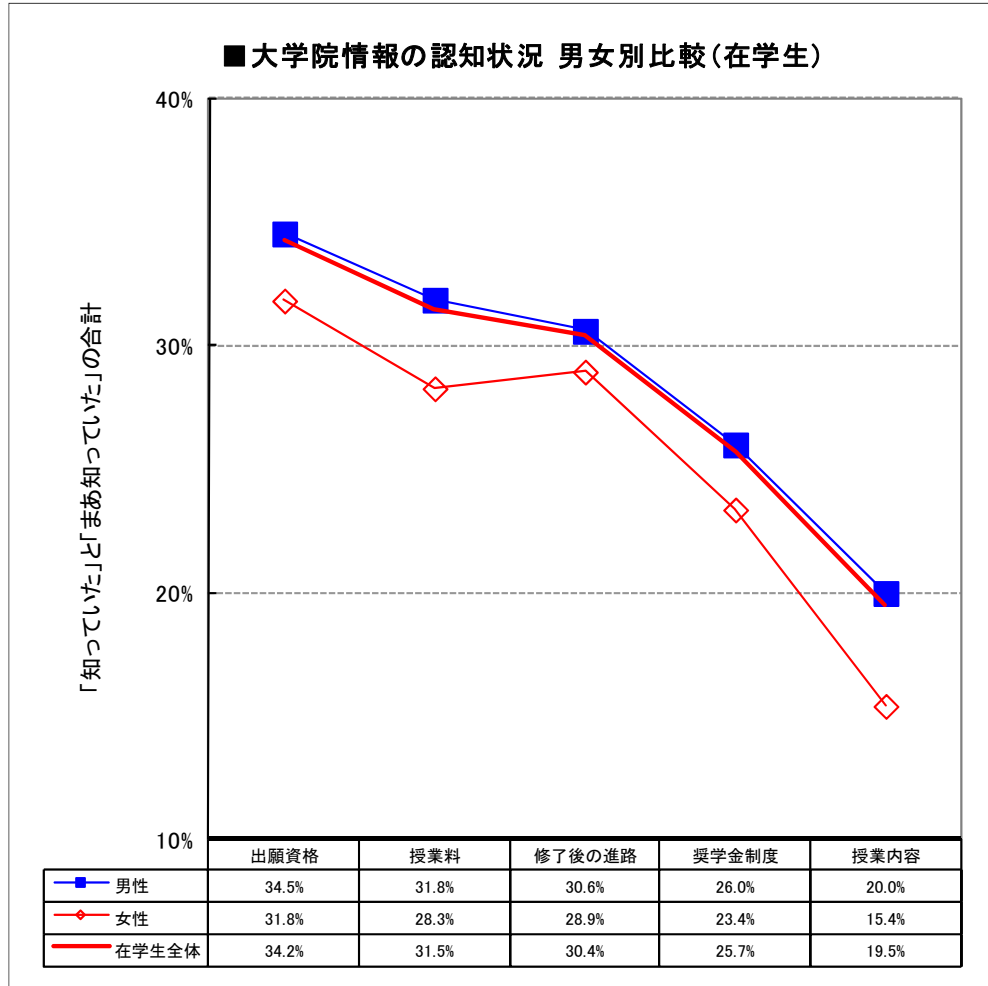
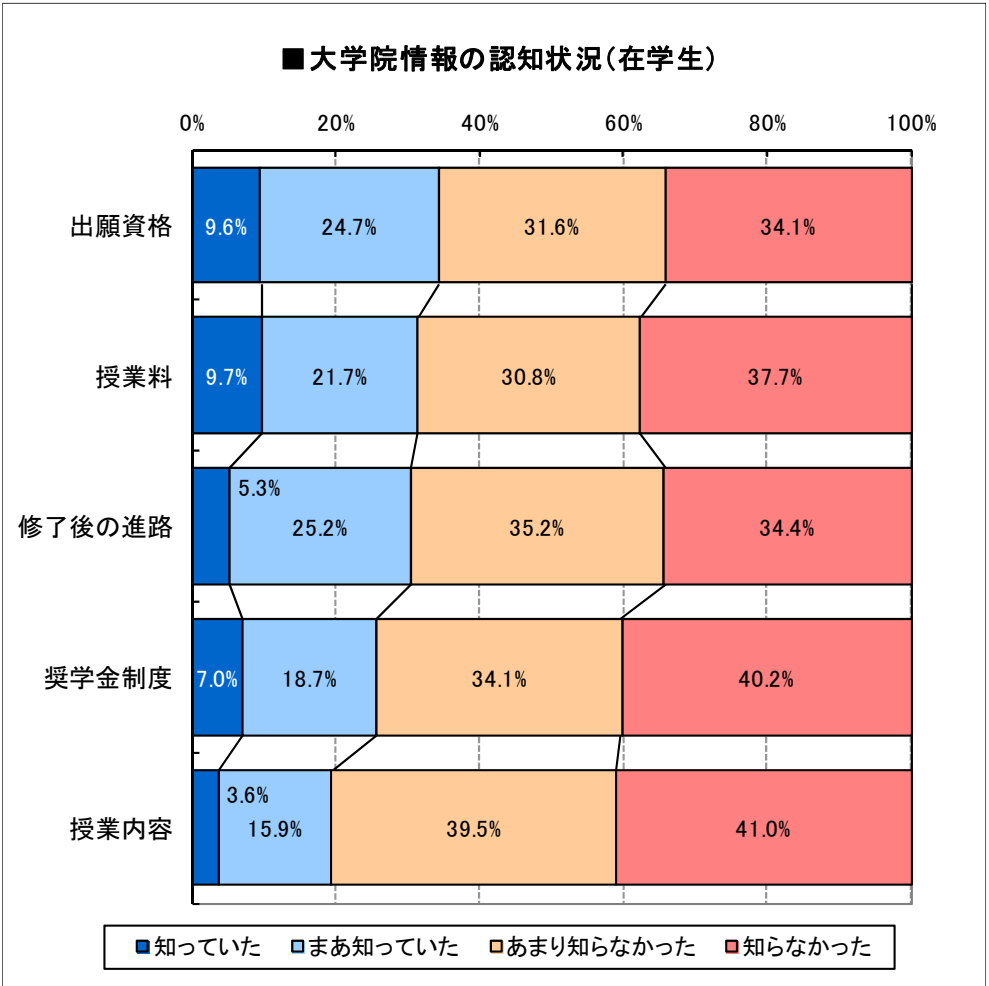
- 「卒業直前」に「最終の進路」を聞いたところ、「大学院進学」が13.7%、「就職」が84.3%、「その他」は2.0%であった。
- 男女別の差は非常に少なく、「大学院進学」は「女性」の方が0.8ポイント多く、「就職」は「男性」の方が1.2ポイント多かった。



<8-4> 大学院情報の認知状況

■ 大学院情報の認知状況、男女別比較

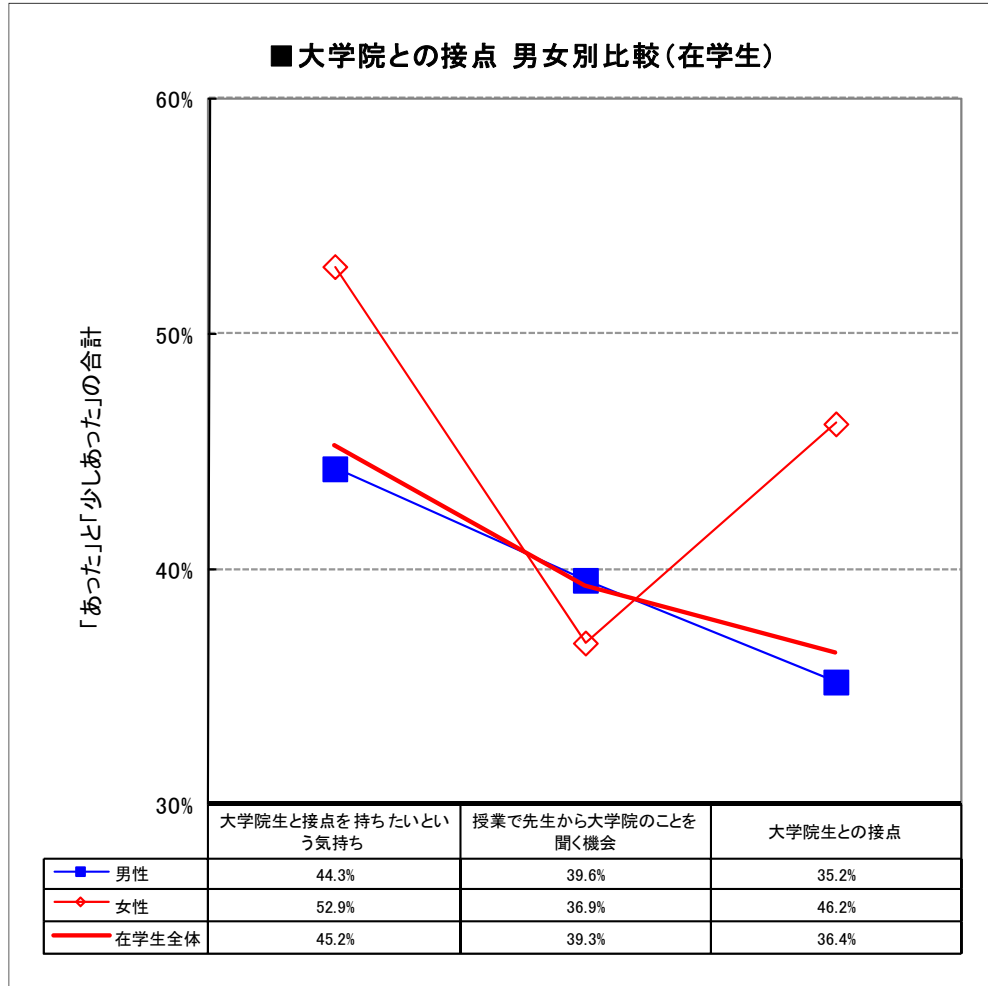
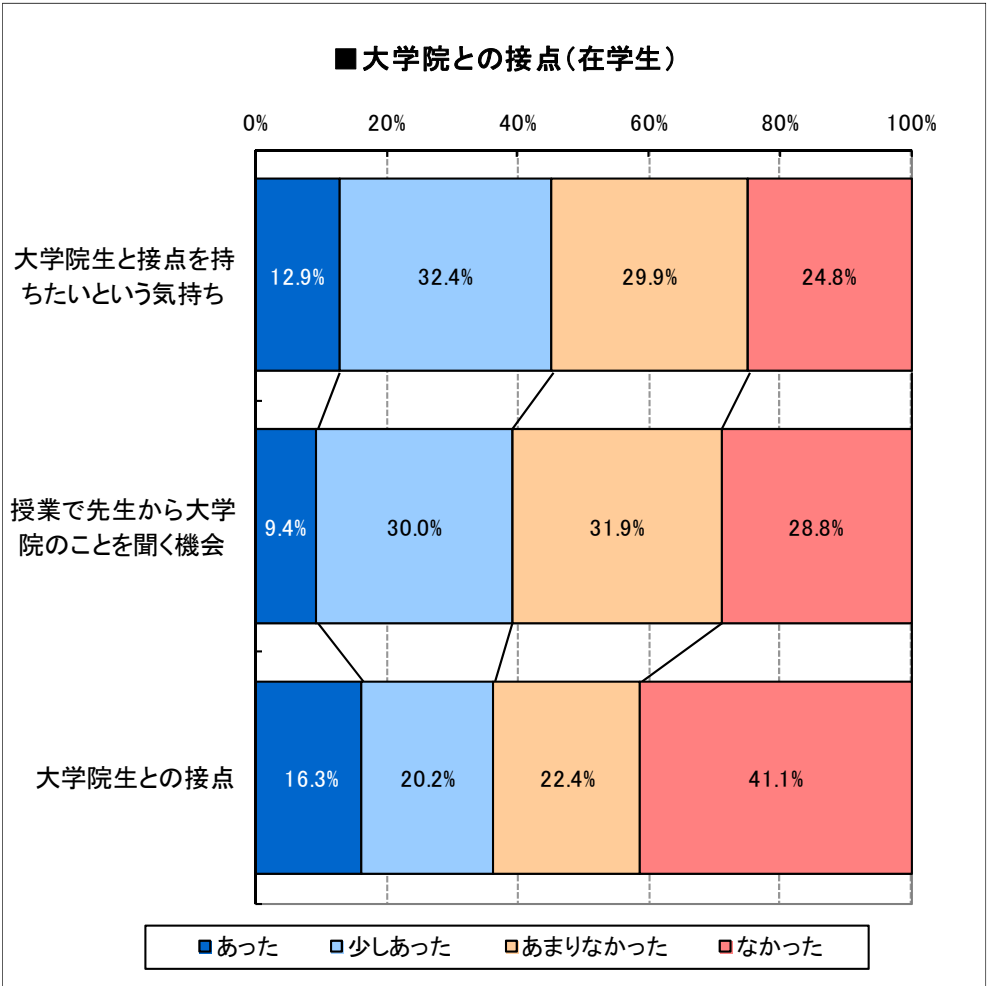
- 「大学院進学に関する情報や現状の認知度」に関しては5つの項目を挙げて聞いているが、「知っていた」と「まあ知っていた」の合計が最も多かったのは「出願資格」の34.3%であり、「授業料」が31.4%、「修了後の進路」が30.5%、「奨学金制度」が25.7%、「授業内容」が19.5%になっており、いずれにしても知らないという回答が多かった。
- 男女別に比較すると、すべての項目で「男性」の認知度の方が高かった。



<8-5> 大学院との接点

■ 大学院との接点、男女別比較

- 今回より普段の学生生活の中での大学院との接点を聞いているが、「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」に関しては45.3%が肯定的な意見であった。次いで、「授業で先生から大学院のことを聞く機会」では39.4%であり、実際に「大学院生との接点(があった)」という回答は36.5%であった。
- 男女で比較すると、「女性」は「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」が強く、実際に「大学院生との接点」も多かった。ただし、「授業で先生から大学院のことを聞く機会」に対する要望は「男性」の方が強かった。

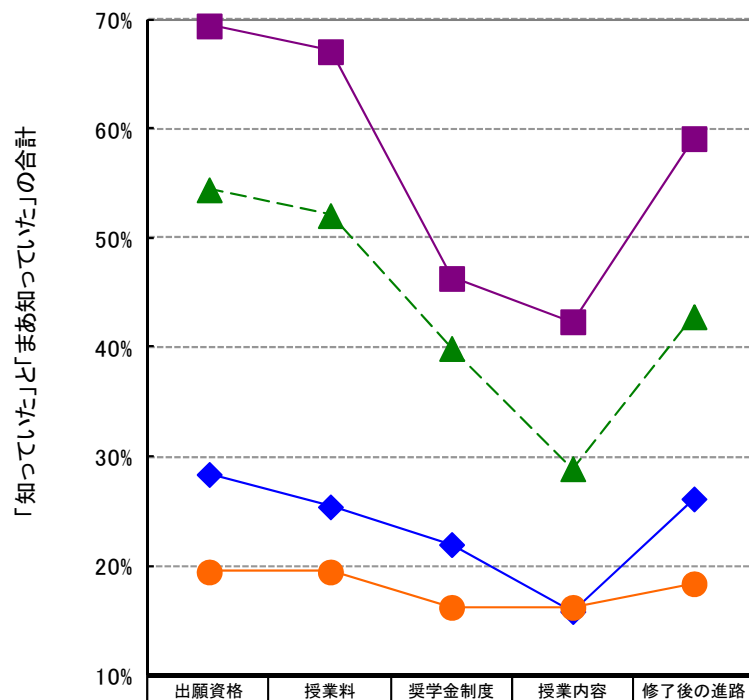


<8-6> 大学院への進学意向による意識の違い

■ 大学院への進学意向による意識の違い

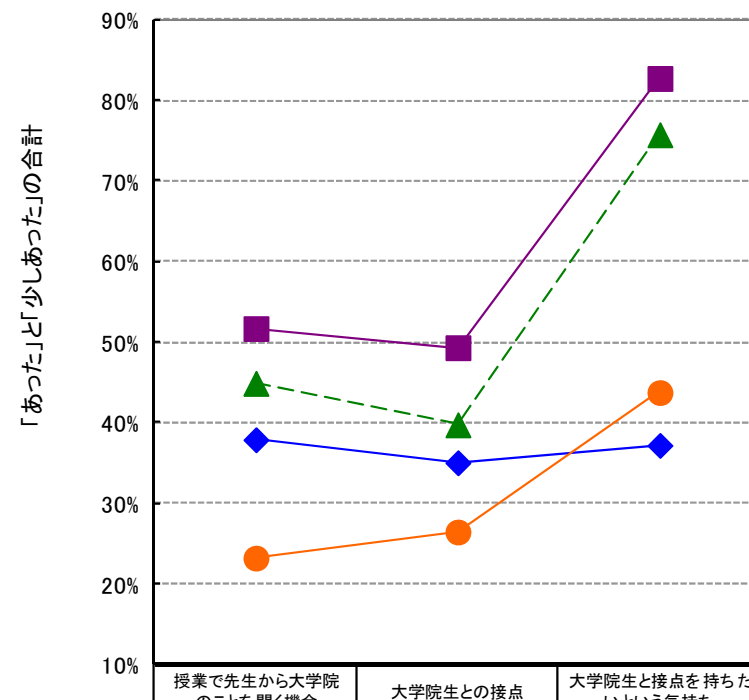
- 「大学院への進学意向」によって「大学院情報の認知状況」にどのような差があるかを確認した。具体的に進学を検討している「大学院進学」と「大学院・就職を同時検討中」では、「出願資格」「授業料」「修了後の進路」の情報は得ているものの、「授業内容」の情報の認知度は低く、「奨学金制度」の情報も行き渡っていないという傾向が見られた。
- 「大学院への進学意向」による「大学院との接点」を確認したところ、「大学院生と接点」の差が特徴的であり、「大学院進学」と「大学院・就職を同時に検討中」が非常に強く大学院生との接点を持ちたいと感じているものの、現実的にはそれほど要望は満たされていないと言えそうであった。

■ 大学院情報の認知状況 大学院への進学意向別比較 (在学生)



| | | | | | |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ■ 大学院進学 | 69.5% | 67.1% | 46.3% | 42.4% | 59.1% |
| ■ 就職 | 28.4% | 25.4% | 22.0% | 15.8% | 26.2% |
| ■ 大学院・就職を同時検討中 | 54.4% | 52.1% | 39.9% | 28.9% | 42.8% |
| ■ 検討していない | 19.5% | 19.5% | 16.2% | 16.2% | 18.4% |

■ 大学院との接点 大学院への進学意向別比較 (在学生)



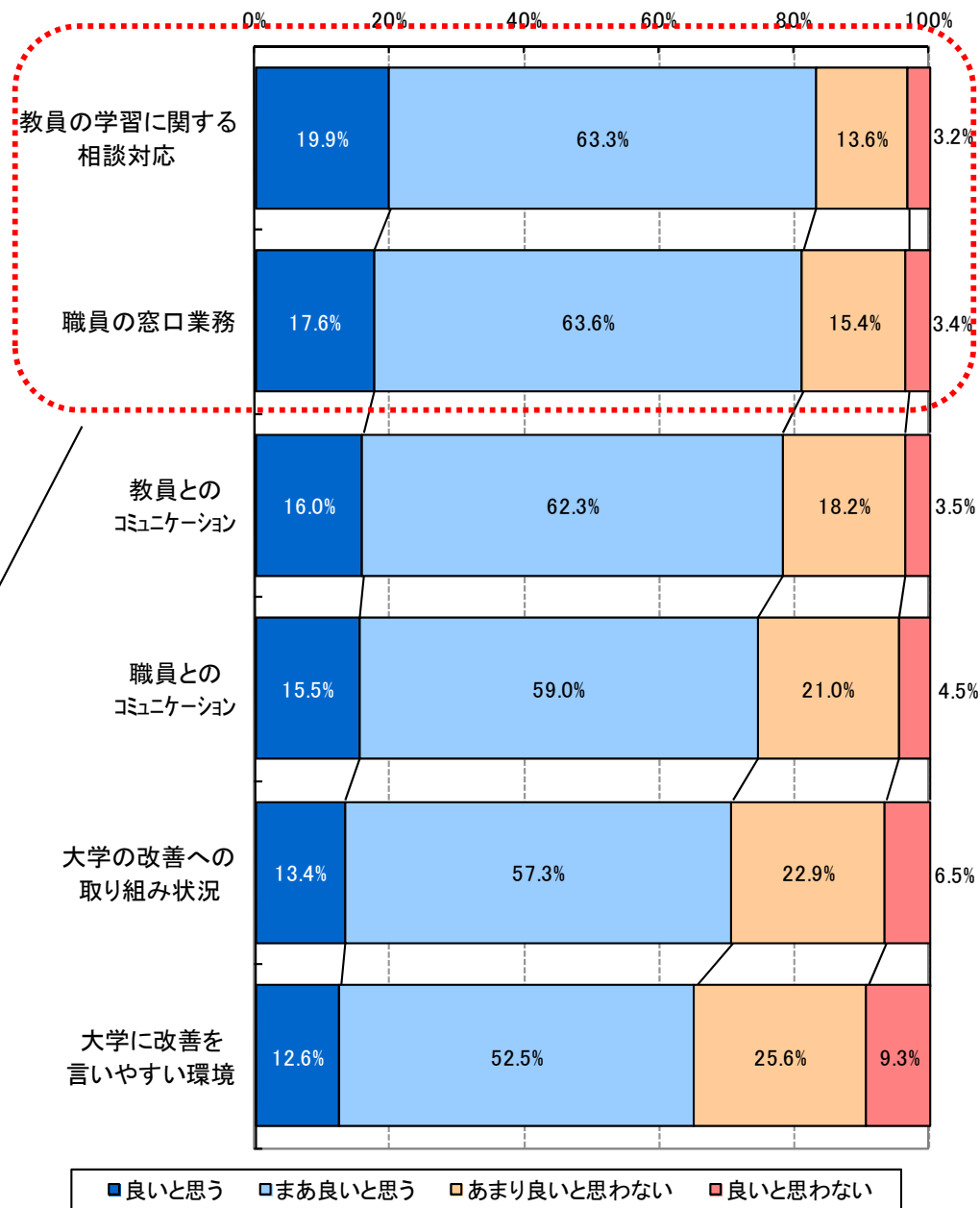
| | | | |
|----------------|-------|-------|-------|
| ■ 大学院進学 | 51.7% | 49.4% | 82.8% |
| ■ 就職 | 37.9% | 35.1% | 37.2% |
| ■ 大学院・就職を同時検討中 | 44.9% | 39.8% | 75.8% |
| ■ 検討していない | 23.2% | 26.5% | 43.8% |

<9-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員と大学の改善への取り組み状況の評価に関して、「良いと思う」と「まあ良いと思う」の合計が最も多かったのは「教員の学習に関する相談対応」の83.2%であった。次いで、「職員の窓口業務」が81.2%であり、この2項目で肯定的な意見が8割を超えていた。「教員とのコミュニケーション」も78.3%が肯定的な意見であり、ほぼ8割が満足していると言える。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」の65.1%であり、否定的な意見が34.9%であった。そして、「大学の改善への取り組み状況」では29.4%、「職員とのコミュニケーション」では25.5%が否定的な意見であった。

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価（在学生全体）

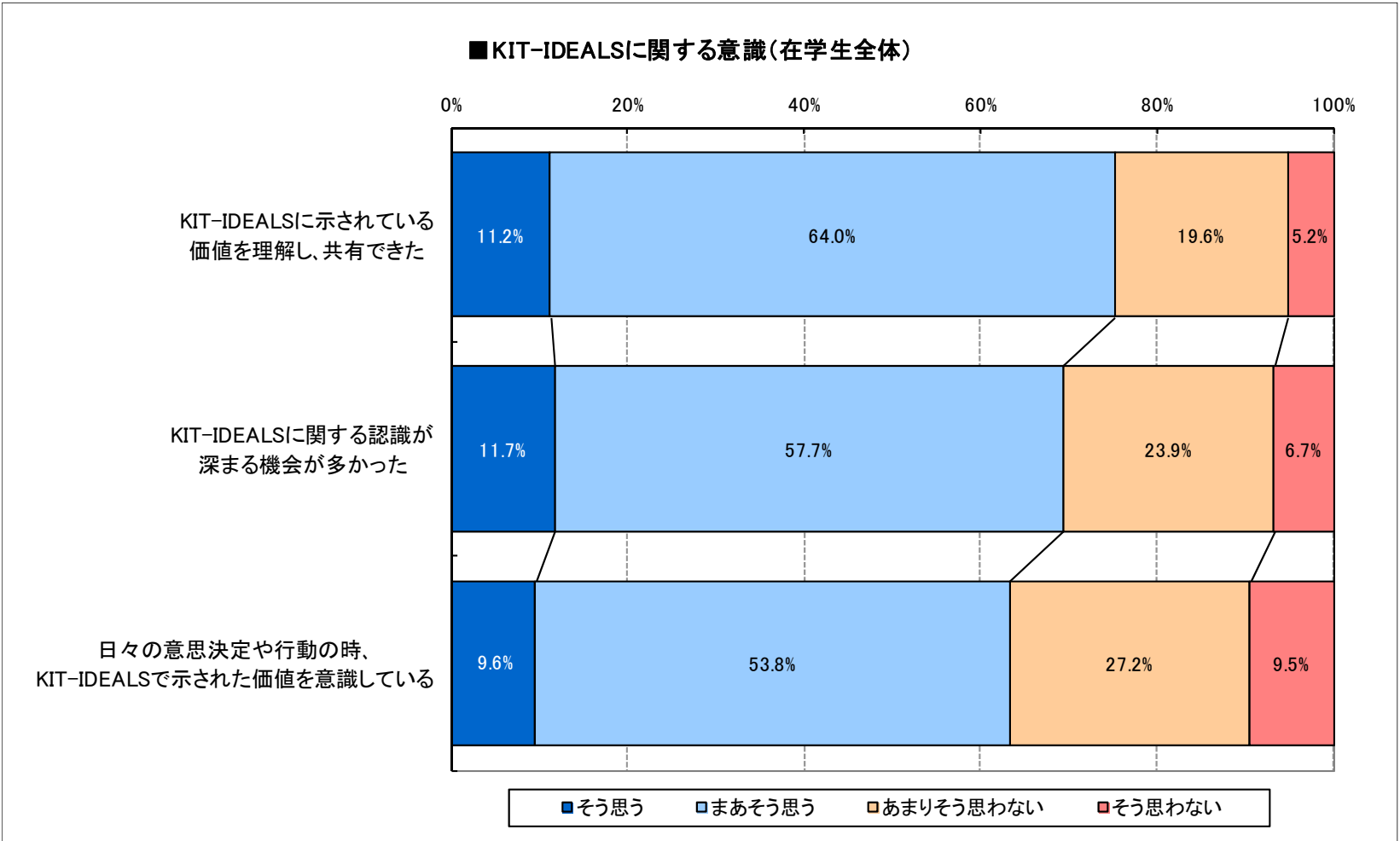


良い評価が
8割以上

<10-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識

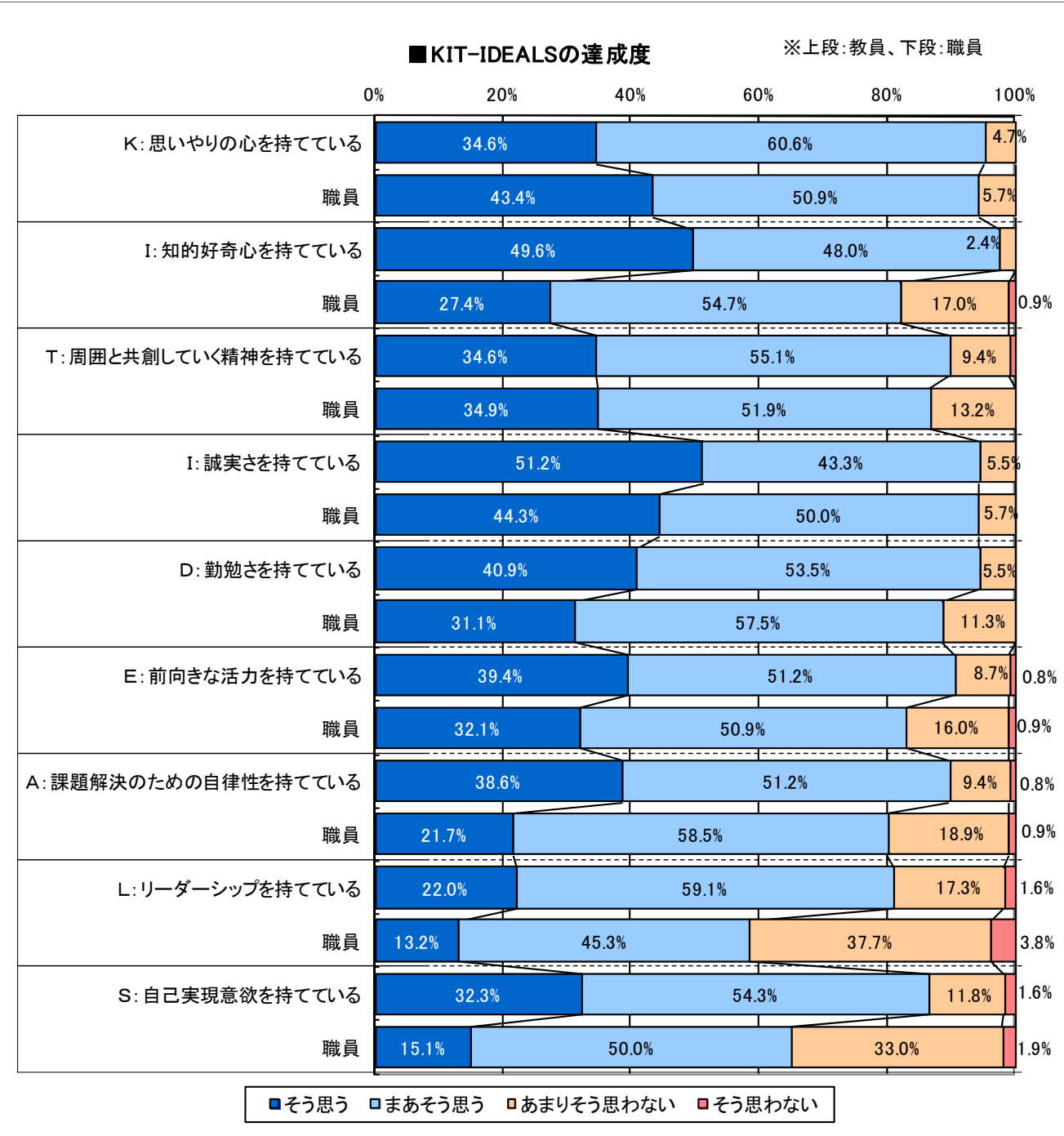
- KIT-IDEALSの3項目で肯定的な意見が最も多かったのは「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」であり、「そう思う」が11.2%、「まあそう思う」が64.0%であり、合わせると75.2%が肯定的な意見となっていた。
- 次いで、「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」では69.4%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」では63.4%が肯定的な意見であった。



<10-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

■教職員のKIT-IDEALSの達成度

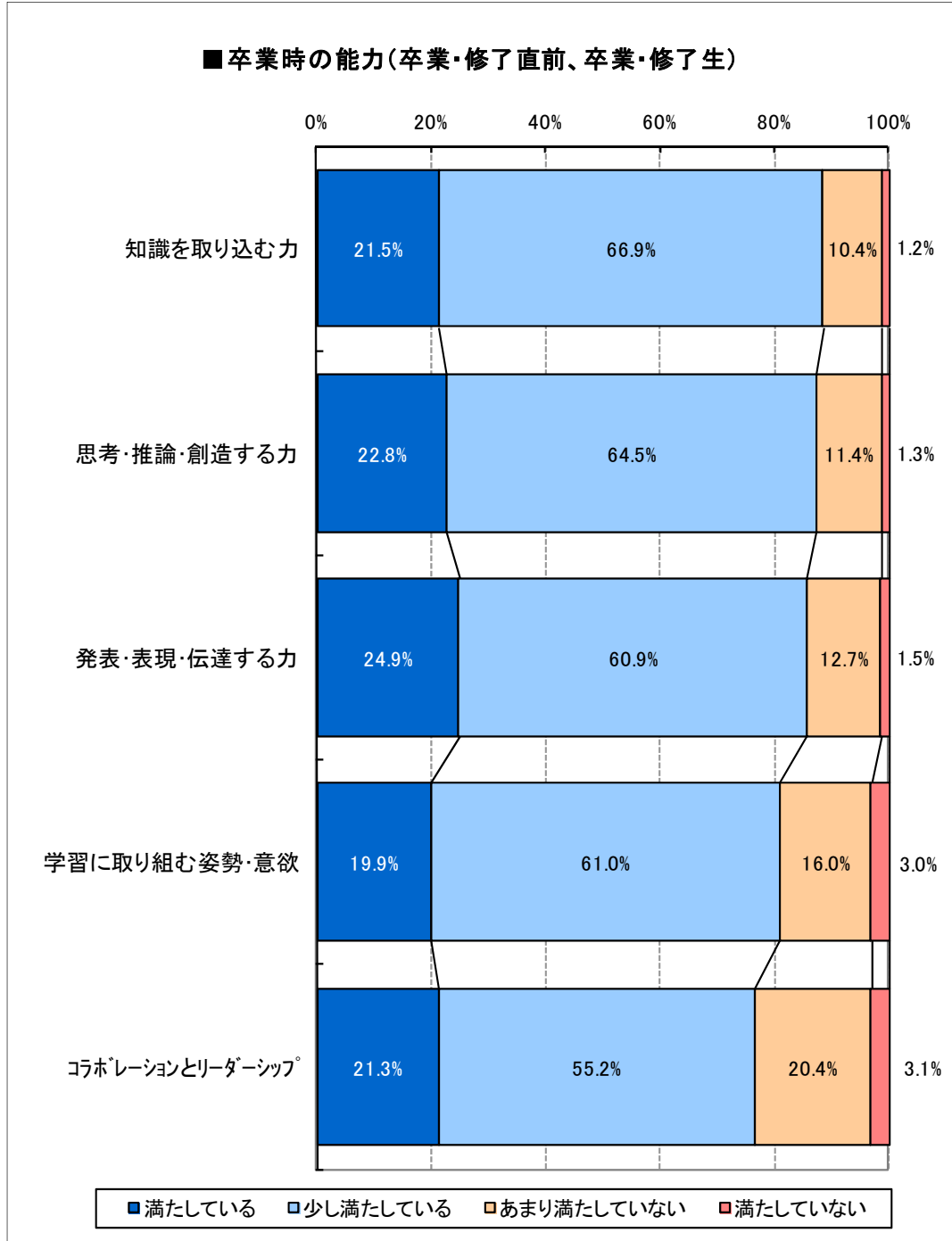
- 「教員」と「職員」には「KIT-IDEALS」の9項目の達成度を聞いている。
- 肯定的な意見の合計で比較すると、ほとんどの項目で8割以上が肯定的な意見であり、達成度は全体的に高いと言える。
- 「教員」では「L:リーダーシップを持っている」で肯定的な意見が81.1%とやや低かったが、すべて肯定的な意見が8割を超えており、KIT-IDEALSの達成度は高かった。中でも「I:知的好奇心を持っている」では97.6%、「K:思いやりの心を持っている」では95.2%が肯定的な意見であり、非常に高い達成度となっていた。
- 「職員」では「L:リーダーシップを持っている」(58.5%)と「S:自己実現意欲を持っている」(65.1%)の達成度が低い点が目立っていたが、他の項目はいずれも肯定的な意見が8割を超えていた。



<11-1>卒業時の能力

■卒業時の能力

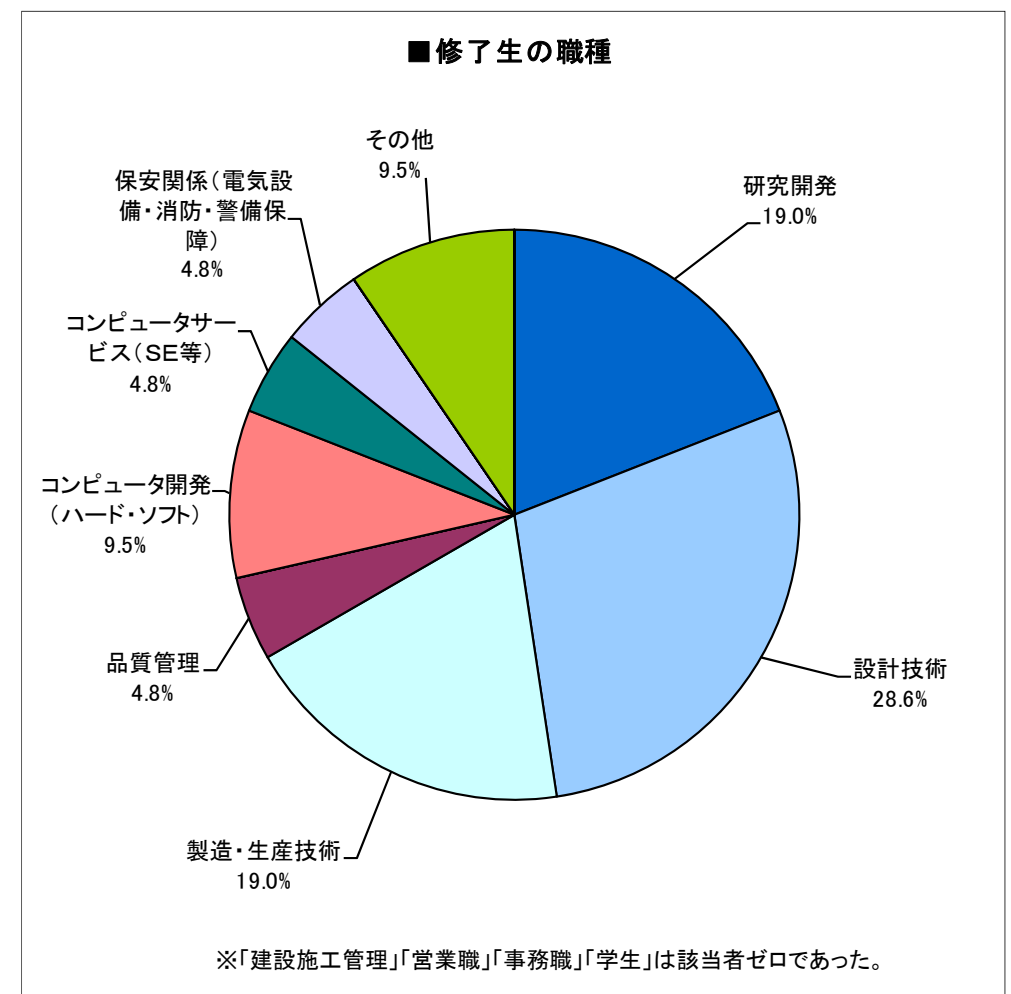
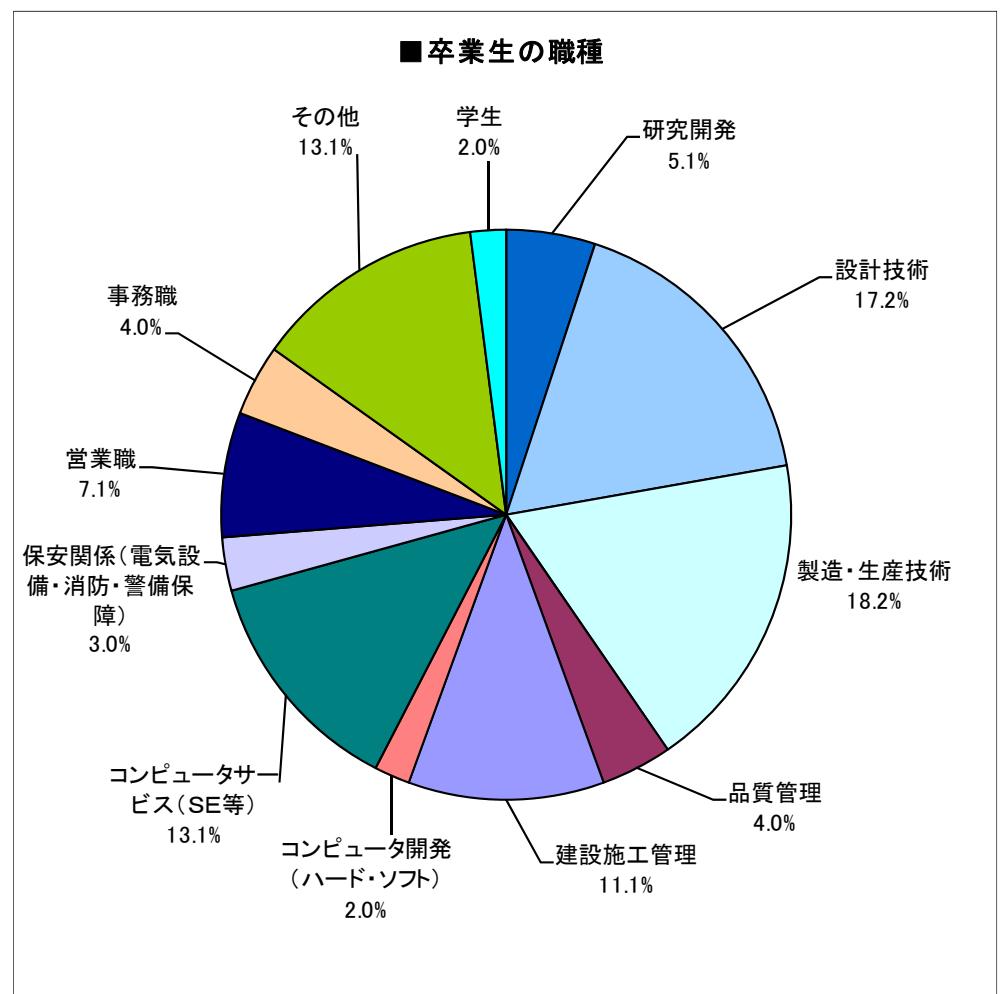
- 「卒業直前」「修了直前」「卒業生」「修了生」に卒業時の自分の能力を自己評価として聞いた。
- 「満たしている」と「少し満たしている」の合計が最も多かったのは「知識を取り込む力」であり、88.4%が肯定的な意見であった。
- 次いで、「思考・推論・創造する力」が87.3%、「発表・表現・伝達する力」が85.8%となっていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」であり、肯定的な意見は76.5%であり、8割に満たなかったのは、この項目だけであった。



<12-1>卒業・修了生の基本属性

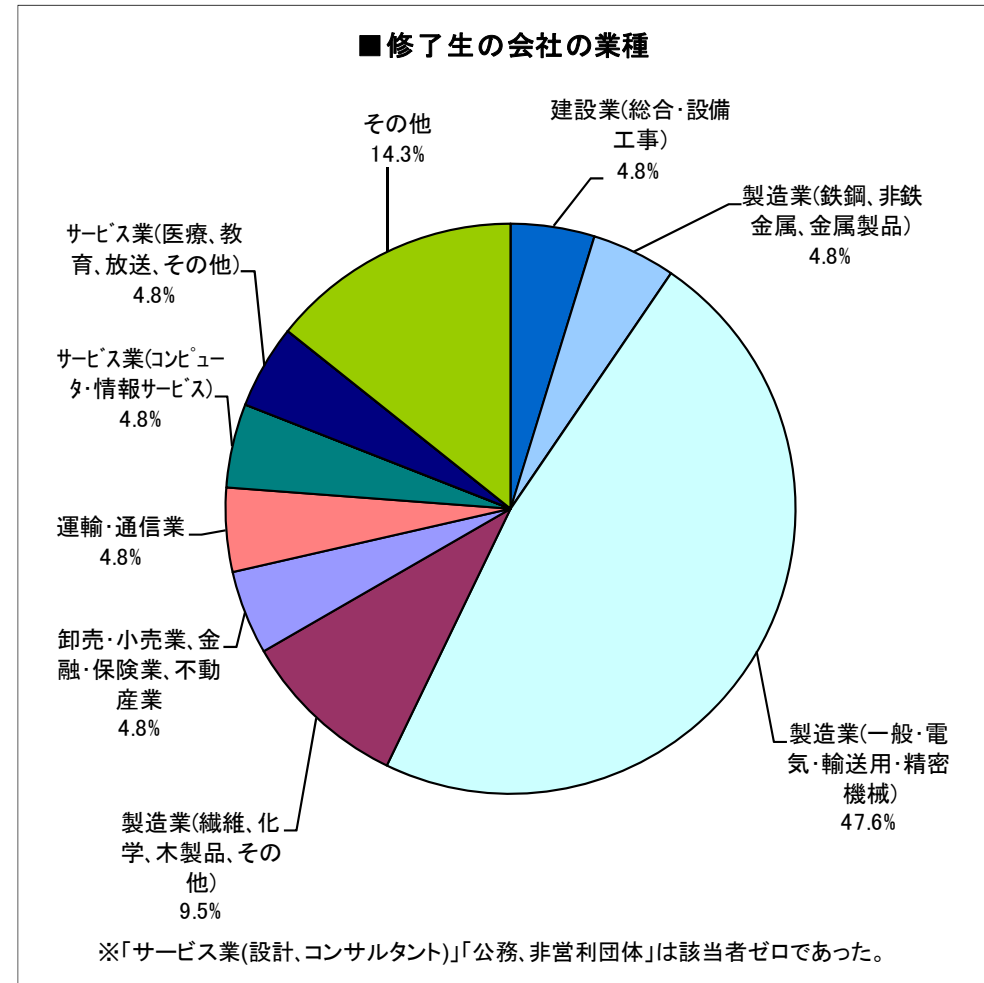
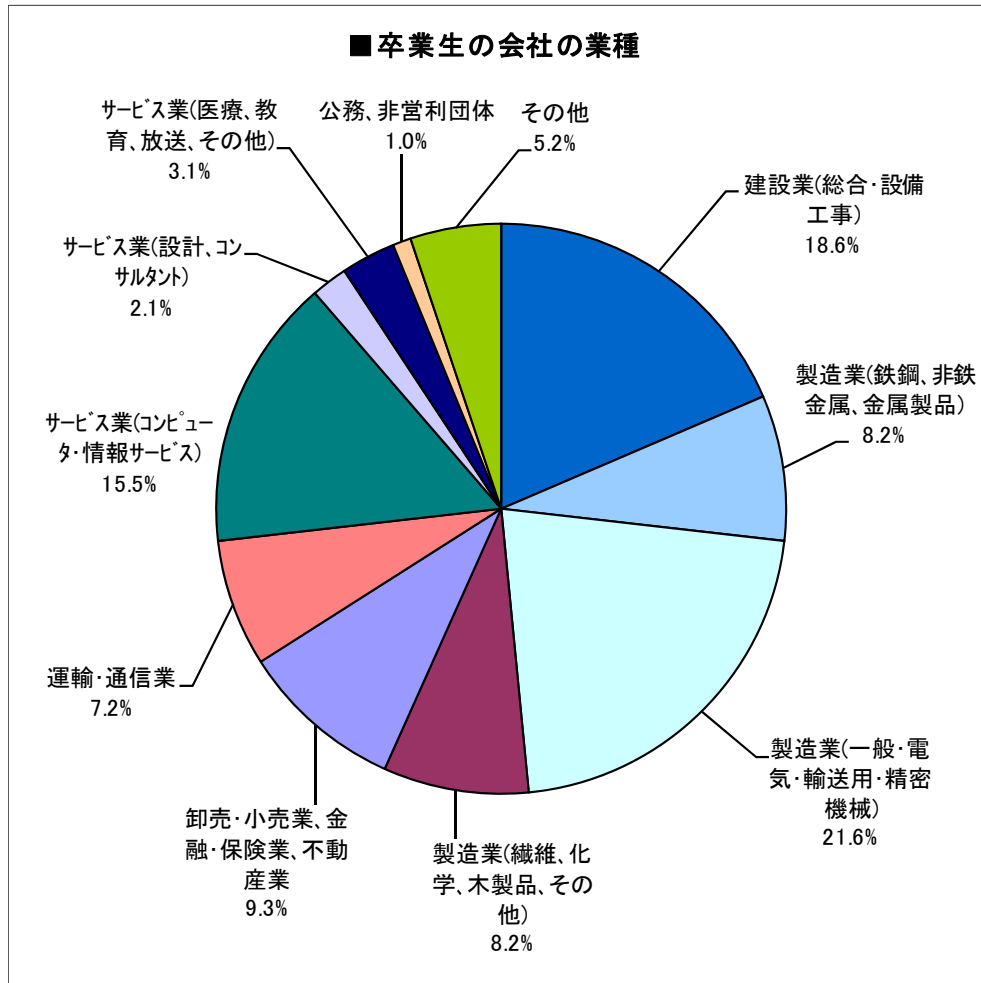
■現在の職種

- 卒業生の職種は、「製造・生産技術」が18.2%で最も多く、「設計技術」が17.2%、「コンピュータサービス(SE等)」が13.1%、「建設施工管理」が11.1%と続いており、「その他」が13.1%となっていた。
- 修了生の職種は、「設計技術」が28.6%と最も多く、「研究開発」と「製造・生産技術」が19.0%、「コンピュータ開発(ハード・ソフト)」が9.5%であり、「その他」も9.5%となっていた。



■現在の会社の業種

- 卒業生の会社の業種は、「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が21.6%で最も多く、次いで、「建設業(総合・設備工事)」が18.6%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が15.5%、「卸売・小売業、金融・保険業、不動産業」が9.3%と続いていた。
- 修了生では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が47.6%と約半数を占めており、次いで、「製造業(繊維、化学、木製品、その他)」が9.5%であり、「その他」が14.3%であった。

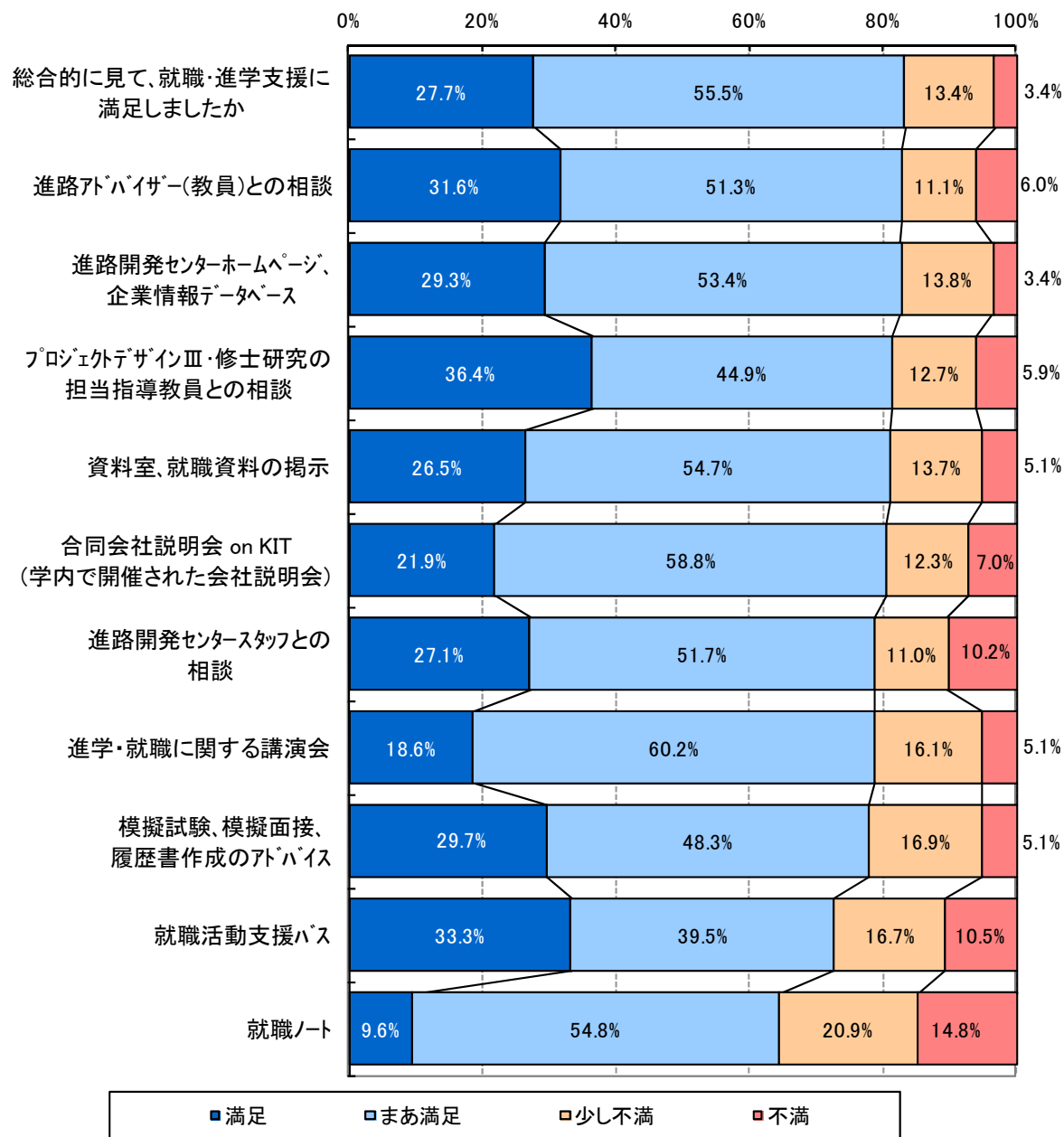


<12-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒業生」「修了生」には就職・進学支援策の満足度を聞いた。まず、全体的な評価である「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」に関しては83.2%が満足していると答えており、不満を持つ割合は16.8%であった。
- 上記以外は具体的なサポート策の評価となるが、最も評価が高かったのは「進路アドバイザー(教員)との相談」であり、82.9%が満足と答えていた。次いで、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が82.7%、「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」が81.3%と続いていた。特に「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」では「満足」が36.4%と多く、強く満足している層が見られた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「就職ノート」の64.4%であり、続いて「就職活動支援バス、就職プラザ」が72.8%となっていたが、「満足」だけを見ると「就職ノート」は9.6%と少なさが目立っており、「就職活動支援バス、就職プラザ」では33.3%と、一部の学生の満足度は高いようであった。

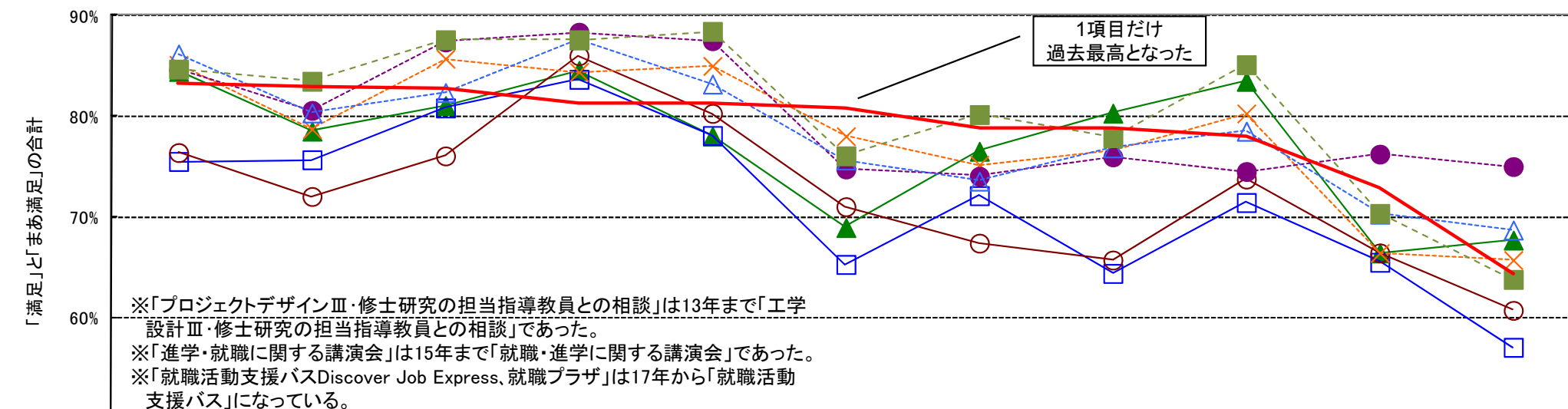
■就職・進学支援の評価(卒業・修了生全体)



■就職・進学支援の評価 年度別比較

- 就職・進学支援の満足度を年度別に見ると、前回は5項目が過去最高となったが、今回はほとんどの項目で前を下回り、全体としては評価が低下したと言える。ただし、以前と比較すると、目立って低いものは少なかった。
- 前回より評価が上がっていたのは4項目であったが、その中で目立っていたのは「合同会社説明会 on KIT」であり、過去最高の評価となっていた。そして、「進学・就職に関する講演会」「就職活動支援バス、就職プラザ」「就職ノート」が前回を上回った。
- 一方、低下が目立っていたのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」であった。満足という回答が8割を超えており、評価としては低くなかったが、年度別の比較では過去最低の評価となっていた。

■就職・進学支援の評価 年度別比較(卒業・修了生全体)

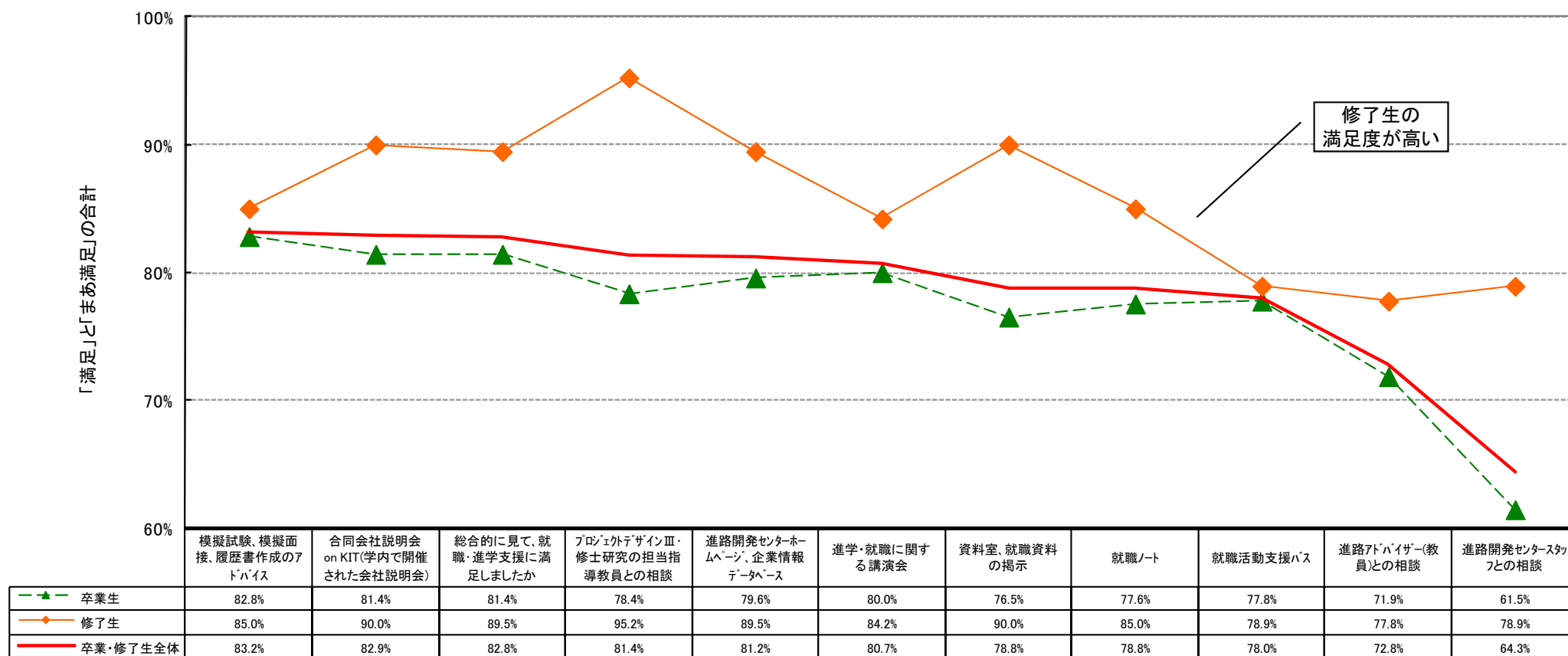


| | 総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか | 進路アドバイザー(教員)との相談 | 進路開発センターホームページ、企業情報データベース | プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談 | 資料室、就職資料の掲示 | 合同会社説明会 on KIT(学内で開催された会社説明会) | 進路開発センタースタッフとの相談 | 進学・就職に関する講演会 | 模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイザー | 就職活動支援バス Discover Job Express、就職プラザ | 就職ノート |
|-----|------------------------|------------------|---------------------------|-----------------------------|-------------|-------------------------------|------------------|--------------|------------------------|-------------------------------------|-------|
| 10年 | 84.4% | 78.5% | 81.1% | 84.6% | 78.0% | 68.9% | 76.5% | 80.3% | 83.5% | 66.4% | 67.7% |
| 11年 | 75.5% | 75.7% | 80.8% | 83.7% | 78.1% | 65.3% | 72.1% | 64.4% | 71.4% | 65.5% | 57.0% |
| 12年 | 76.4% | 72.0% | 76.1% | 86.0% | 80.3% | 71.0% | 67.4% | 65.7% | 73.8% | 66.4% | 60.7% |
| 13年 | 85.1% | 78.7% | 85.7% | 84.4% | 85.0% | 78.0% | 75.2% | 76.6% | 80.3% | 66.4% | 65.7% |
| 14年 | 84.6% | 80.6% | 87.4% | 88.3% | 87.5% | 74.8% | 74.0% | 76.0% | 74.5% | 76.2% | 75.0% |
| 15年 | 86.2% | 80.3% | 82.4% | 87.6% | 83.2% | 75.7% | 73.6% | 76.9% | 78.5% | 70.3% | 68.7% |
| 16年 | 84.7% | 83.5% | 87.6% | 87.6% | 88.4% | 76.1% | 80.2% | 77.9% | 85.1% | 70.3% | 63.8% |
| 17年 | 83.2% | 82.9% | 82.8% | 81.4% | 81.2% | 80.7% | 78.8% | 78.8% | 78.0% | 72.8% | 64.3% |

■就職・進学支援の評価 属性別比較

- 就職・進学支援の評価を属性別に比較したところ、すべての項目で「修了生」の満足度が高かった。
- 「修了生」は回答者数が少なかったため極端な結果となっているが、「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」「資料室、就職資料の掲示」「合同会社説明会 on KIT」の評価が高かった。

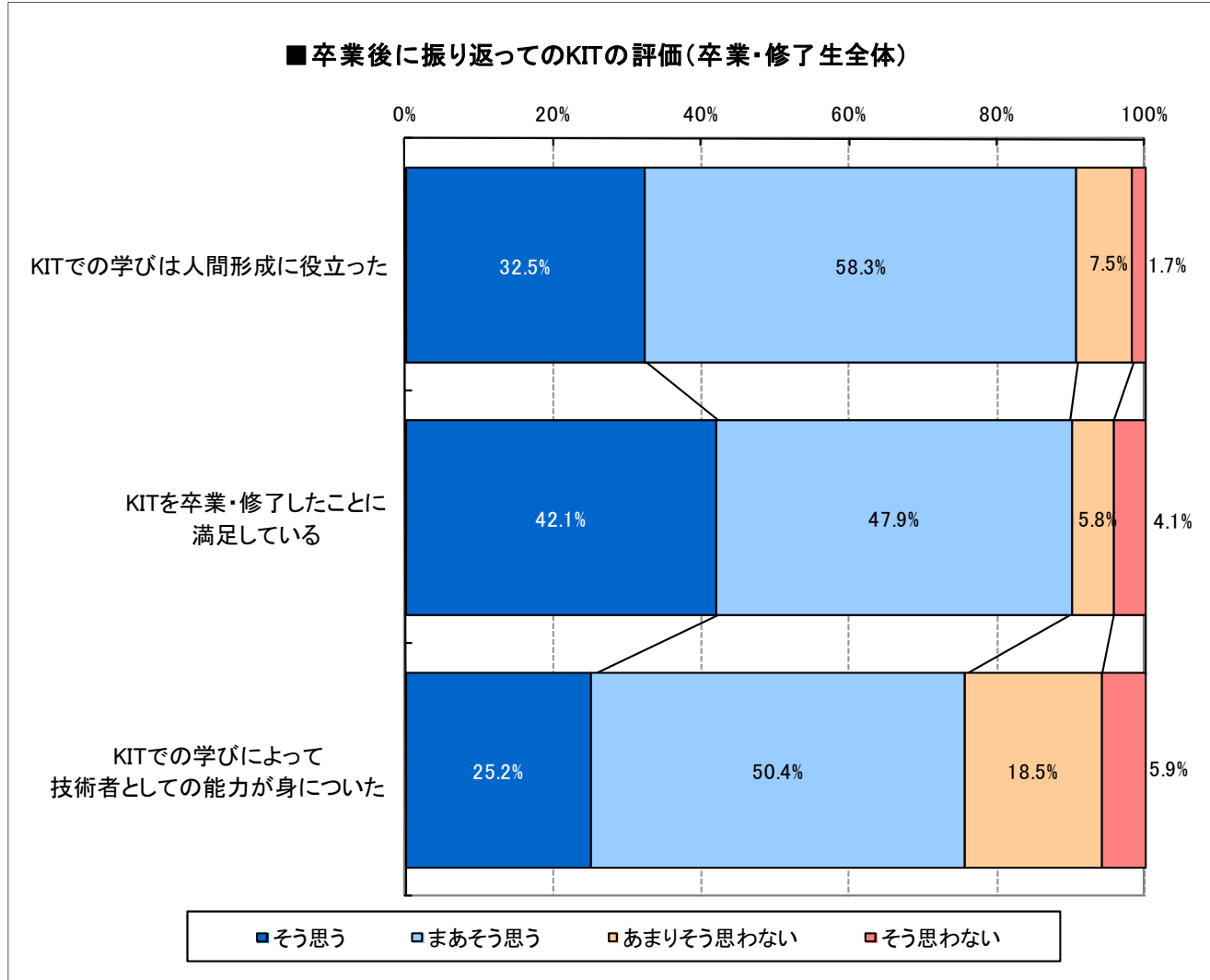
■就職・進学支援の評価 属性別比較(卒業・修了生)



<12-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価

- 「卒業生」「修了生」に、卒業後に振り返ってのKITの評価を聞いたところ、最も肯定的な意見が多かったのは「KITでの学びは人間形成に役立った」であり、90.8%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで、「KITを卒業・修了したことに満足している」では90.0%、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」では75.6%が肯定的な意見であった。
- 肯定的な意見の合計では上記のようになっていたが、「そう思う」だけを見ると、「KITを卒業・修了したことに満足している」が42.1%となっており、KITに対して強く満足しているという意見が多かった。



<13-1>新入生のプロフィール

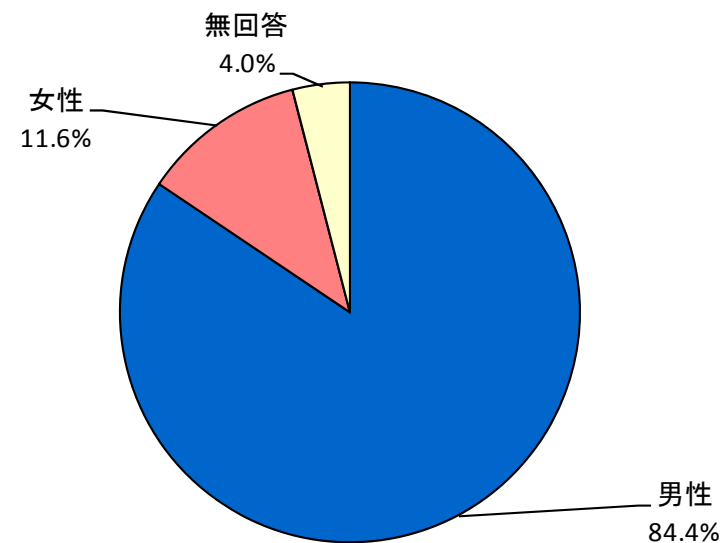
■新入生の学部・学科、性別

- 新入生の所属学部は「工学部」が53.1%、「情報フロンティア学部」が14.4%、「環境・建築学部」が22.3%、「バイオ・化学部」が9.9%であった。
- 学科では「機械工学科」が14.1%で最も多く、「情報工学科」が14.0%、「電気電子工学科」が11.0%と続いていた。
- 今回から性別を聞いているが、「男性」が84.4%、「女性」が11.6%となっていた。

■新入生の学部・学科割合

| 学部 | 学科 | 回答者数 | 割合 | 回答者数 | 割合 |
|------------|-----------|-------|--------|------|--------|
| 工学部 | 機械工学科 | 819 | 53.1% | 217 | 14.1% |
| | 航空システム工学科 | | | 64 | 4.2% |
| | ロボティクス学科 | | | 112 | 7.3% |
| | 電気電子工学科 | | | 170 | 11.0% |
| | 電子情報通信工学科 | | | 40 | 2.6% |
| | 情報工学科 | | | 216 | 14.0% |
| 情報フロンティア学部 | メディア情報学科 | 222 | 14.4% | 159 | 10.3% |
| | 経営情報学科 | | | 30 | 1.9% |
| | 心理情報学科 | | | 33 | 2.1% |
| 環境・建築学部 | 建築デザイン学科 | 344 | 22.3% | 149 | 9.7% |
| | 建築学科 | | | 104 | 6.7% |
| | 環境土木工学科 | | | 91 | 5.9% |
| バイオ・化学部 | 応用化学科 | 153 | 9.9% | 68 | 4.4% |
| | 応用バイオ学科 | | | 85 | 5.5% |
| 無回答 | | 3 | 0.2% | 3 | 0.2% |
| 合計 | | 1,541 | 100.0% | 1541 | 100.0% |

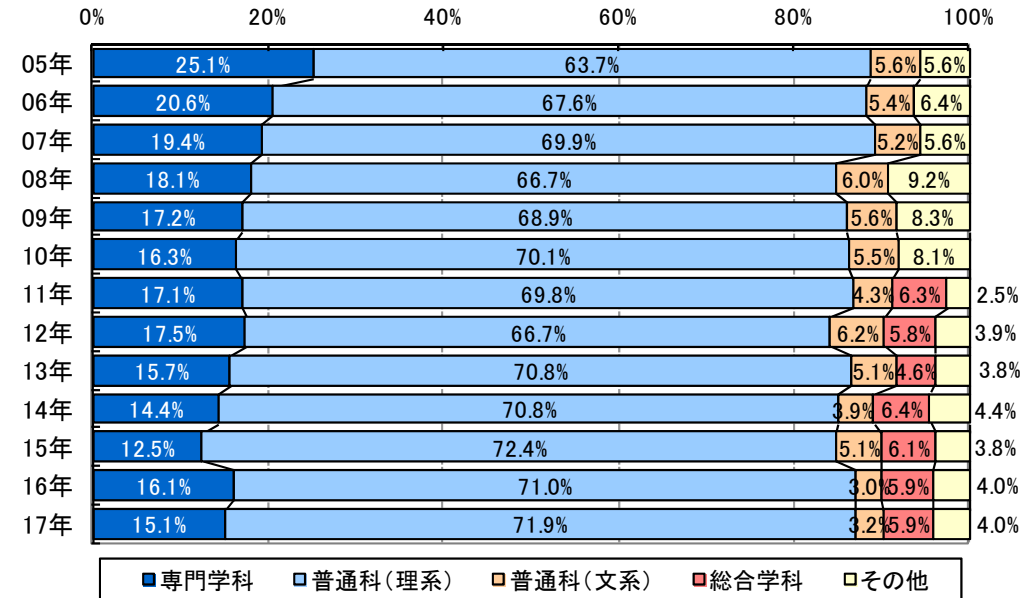
■新入生の性別



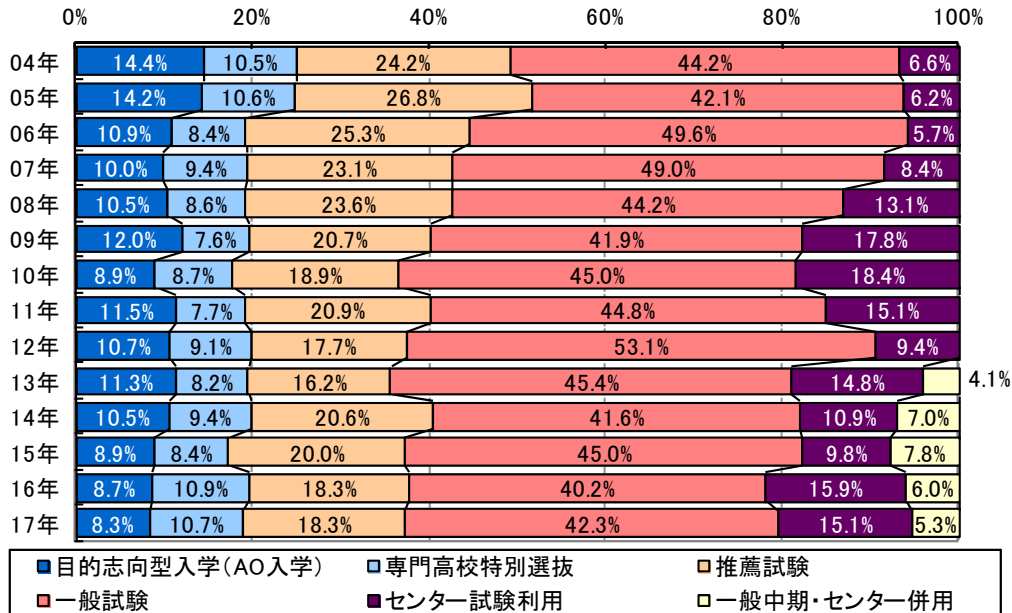
■ 新入生の入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では「一般試験」が42.3%と最も多く、「推薦試験」が18.3%、「センター試験利用」が15.1%と続いていた。以前と比べると大きな変化は見られなかったが、「目的志向型入学(AO入学)」が過去最低となっていた。
- 出身高校の課程では「普通科(理系)」が71.9%で最も多かった。次いで「専門学科」が15.1%、「総合学科」が5.9%で続いていた。以前と比べると大きな変化は見られなかった。
- 入学時の現浪の比較では「現役入学」が92.1%、「浪人後入学」が7.9%であり、前年より少し「現役入学」が増加していた。

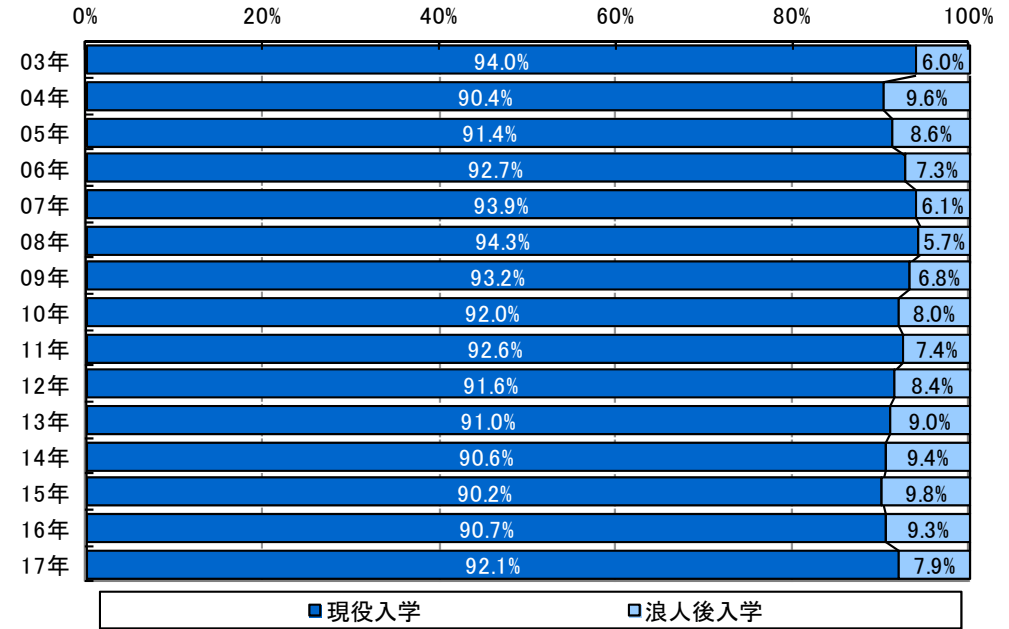
■ 新入生の出身高校課程比較



■ 新入生の入試の種類

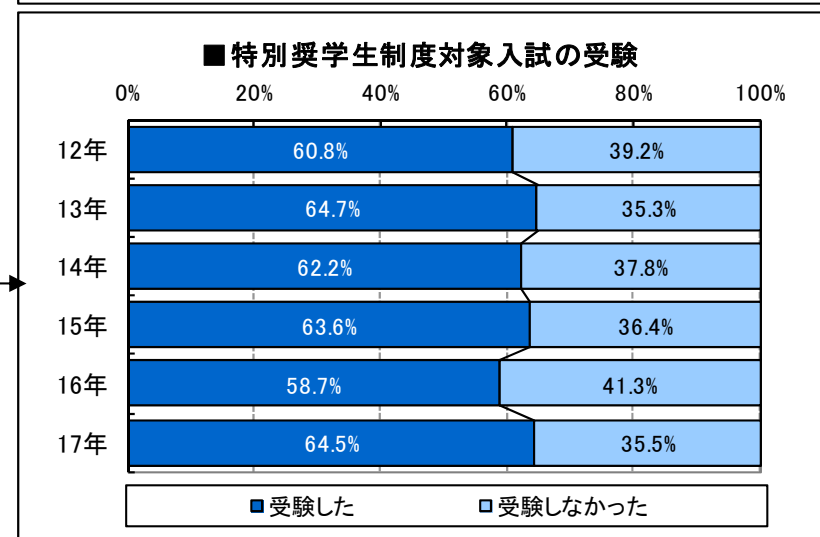
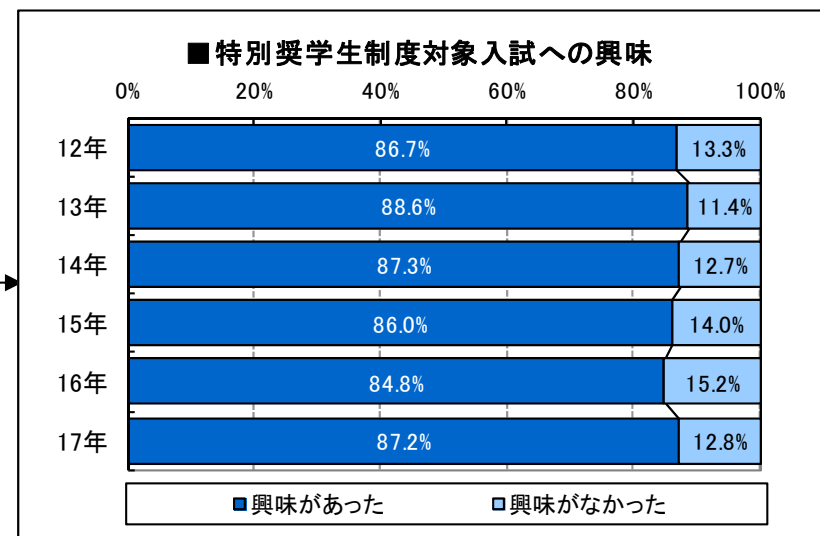
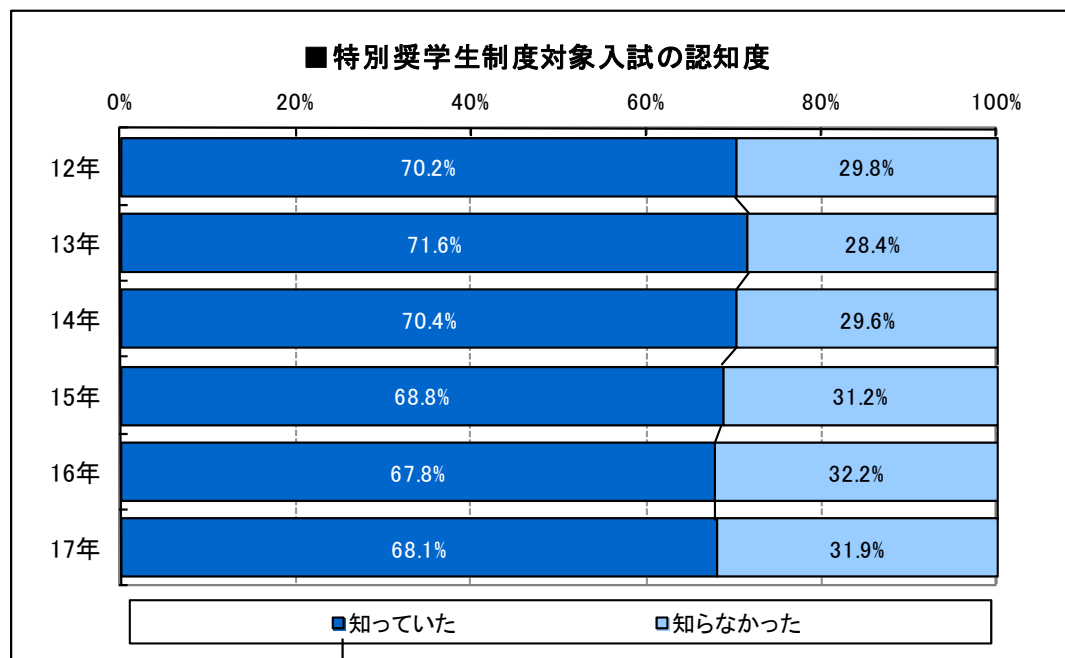


■ 新入生の入学時の現浪比較



■特別奨学生制度対象入試の認知度、興味、受験

- 「特別奨学生制度対象入試」の認知度は、「知っていた」が68.1%であり、前回より0.3ポイント増加していたが、ほぼ横這いが続いていた。
- 「特別奨学生制度対象入試」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試」を聞くと、87.2%が「興味があった」と答えており、前回は2.4ポイント上回り、13年からの低下傾向が止まっていた。
- 上記と同様に「特別奨学生制度対象入試」を「知っていた」と答えた学生に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞いたところ、「受験した」という回答は64.5%で、前回は5.8ポイント上回った。



■過去4年間の出身地一覧

■14年 出身地一覧

| 都道府県 | 人数 | 割合 | 大分類 | 詳細分類 |
|------|-------|-------|-----------|-----------|
| 北海道 | 15 | 0.8% | 東日本 | 北海道・東北 |
| 青森県 | 3 | 0.2% | | |
| 岩手県 | 4 | 0.2% | | |
| 宮城県 | 14 | 0.7% | | |
| 秋田県 | 5 | 0.3% | | |
| 山形県 | 23 | 1.2% | | |
| 福島県 | 7 | 0.4% | | |
| 茨城県 | 9 | 0.5% | | |
| 栃木県 | 11 | 0.6% | | |
| 群馬県 | 18 | 1.0% | | |
| 埼玉県 | 5 | 0.3% | | |
| 千葉県 | 8 | 0.4% | | |
| 東京都 | 8 | 0.4% | | |
| 神奈川県 | 5 | 0.3% | | |
| 新潟県 | 124 | 6.6% | 386 23.9% | 71 4.4% |
| 山梨県 | 10 | 0.5% | | |
| 長野県 | 117 | 6.2% | | |
| 富山県 | 198 | 10.5% | | |
| 石川県 | 399 | 21.2% | | |
| 福井県 | 93 | 4.9% | | |
| 岐阜県 | 57 | 3.0% | | |
| 静岡県 | 80 | 4.2% | | |
| 愛知県 | 67 | 3.6% | | |
| 三重県 | 48 | 2.5% | | |
| 滋賀県 | 39 | 2.1% | 690 42.8% | 64 4.0% |
| 京都府 | 19 | 1.0% | | |
| 大阪府 | 22 | 1.2% | | |
| 兵庫県 | 59 | 3.1% | | |
| 兵庫県 | 7 | 0.4% | | |
| 和歌山県 | 9 | 0.5% | | |
| 鳥取県 | 7 | 0.4% | | |
| 島根県 | 6 | 0.3% | | |
| 岡山県 | 18 | 1.0% | | |
| 広島県 | 12 | 0.6% | | |
| 山口県 | 8 | 0.4% | | |
| 徳島県 | 8 | 0.4% | | |
| 香川県 | 10 | 0.5% | | |
| 愛媛県 | 2 | 0.1% | | |
| 高知県 | 1 | 0.1% | | |
| 福岡県 | 26 | 1.4% | 252 15.6% | 252 15.6% |
| 佐賀県 | 4 | 0.2% | | |
| 長崎県 | 3 | 0.2% | | |
| 熊本県 | 3 | 0.2% | | |
| 大分県 | 2 | 0.1% | | |
| 宮崎県 | 5 | 0.3% | | |
| 鹿児島 | 0 | 0.0% | | |
| 沖縄県 | 7 | 0.4% | | |
| 不明 | 9 | 0.5% | | |
| 合計 | 1,614 | 85.6% | | |

■15年 出身地一覧

| 都道府県 | 人数 | 割合 | 大分類 | 詳細分類 |
|------|-------|-------|-----------|---------|
| 北海道 | 16 | 0.8% | 東日本 | 北海道・東北 |
| 青森県 | 3 | 0.2% | | |
| 岩手県 | 3 | 0.2% | | |
| 宮城県 | 10 | 0.5% | | |
| 秋田県 | 4 | 0.2% | | |
| 山形県 | 16 | 0.8% | | |
| 福島県 | 11 | 0.6% | | |
| 茨城県 | 11 | 0.6% | | |
| 栃木県 | 5 | 0.3% | | |
| 群馬県 | 29 | 1.5% | | |
| 埼玉県 | 6 | 0.3% | | |
| 千葉県 | 5 | 0.3% | | |
| 東京都 | 10 | 0.5% | | |
| 神奈川県 | 7 | 0.4% | | |
| 新潟県 | 129 | 6.8% | 384 23.1% | 63 3.8% |
| 山梨県 | 7 | 0.4% | | |
| 長野県 | 112 | 5.9% | | |
| 富山県 | 185 | 9.8% | | |
| 石川県 | 448 | 23.8% | | |
| 福井県 | 92 | 4.9% | | |
| 岐阜県 | 62 | 3.3% | | |
| 静岡県 | 103 | 5.5% | | |
| 愛知県 | 75 | 4.0% | | |
| 三重県 | 43 | 2.3% | | |
| 滋賀県 | 48 | 2.5% | 725 43.6% | 73 4.4% |
| 京都府 | 33 | 1.7% | | |
| 大阪府 | 21 | 1.1% | | |
| 兵庫県 | 44 | 2.3% | | |
| 兵庫県 | 11 | 0.6% | | |
| 和歌山県 | 13 | 0.7% | | |
| 鳥取県 | 4 | 0.2% | | |
| 島根県 | 10 | 0.5% | | |
| 岡山県 | 12 | 0.6% | | |
| 広島県 | 9 | 0.5% | | |
| 山口県 | 6 | 0.3% | | |
| 徳島県 | 3 | 0.2% | | |
| 香川県 | 7 | 0.4% | | |
| 愛媛県 | 5 | 0.3% | | |
| 高知県 | 2 | 0.1% | | |
| 福岡県 | 16 | 0.8% | 283 17.0% | 77 4.7% |
| 佐賀県 | 1 | 0.1% | | |
| 長崎県 | 1 | 0.1% | | |
| 熊本県 | 1 | 0.1% | | |
| 大分県 | 0 | 0.0% | | |
| 宮崎県 | 2 | 0.1% | | |
| 鹿児島 | 2 | 0.1% | | |
| 沖縄県 | 9 | 0.5% | | |
| 不明 | 12 | 0.6% | | |
| 合計 | 1,664 | 88.2% | | |

■16年 出身地一覧

| 都道府県 | 人数 | 割合 | 大分類 | 詳細分類 |
|------|-------|--------|-----------|---------|
| 北海道 | 16 | 1.0% | 東日本 | 北海道・東北 |
| 青森県 | 4 | 0.2% | | |
| 岩手県 | 6 | 0.4% | | |
| 宮城県 | 5 | 0.3% | | |
| 秋田県 | 3 | 0.2% | | |
| 山形県 | 19 | 1.2% | | |
| 福島県 | 7 | 0.4% | | |
| 茨城県 | 8 | 0.5% | | |
| 栃木県 | 7 | 0.4% | | |
| 群馬県 | 25 | 1.6% | | |
| 埼玉県 | 3 | 0.2% | | |
| 千葉県 | 5 | 0.3% | | |
| 東京都 | 15 | 0.9% | | |
| 神奈川県 | 9 | 0.6% | | |
| 新潟県 | 135 | 8.4% | 396 24.7% | 60 3.7% |
| 山梨県 | 10 | 0.6% | | |
| 長野県 | 119 | 7.4% | | |
| 富山県 | 206 | 12.8% | | |
| 石川県 | 399 | 24.9% | | |
| 福井県 | 112 | 7.0% | | |
| 岐阜県 | 72 | 4.5% | | |
| 静岡県 | 89 | 5.5% | | |
| 愛知県 | 62 | 3.9% | | |
| 三重県 | 33 | 2.1% | | |
| 滋賀県 | 33 | 2.1% | 717 44.7% | 72 4.5% |
| 京都府 | 27 | 1.7% | | |
| 大阪府 | 26 | 1.6% | | |
| 兵庫県 | 55 | 3.4% | | |
| 兵庫県 | 5 | 0.3% | | |
| 和歌山県 | 13 | 0.8% | | |
| 鳥取県 | 4 | 0.2% | | |
| 島根県 | 5 | 0.3% | | |
| 岡山県 | 11 | 0.7% | | |
| 広島県 | 6 | 0.4% | | |
| 山口県 | 4 | 0.2% | | |
| 徳島県 | 9 | 0.6% | | |
| 香川県 | 2 | 0.1% | | |
| 愛媛県 | 3 | 0.2% | | |
| 高知県 | 3 | 0.2% | | |
| 福岡県 | 5 | 0.3% | 256 16.0% | 72 4.5% |
| 佐賀県 | 0 | 0.0% | | |
| 長崎県 | 3 | 0.2% | | |
| 熊本県 | 5 | 0.3% | | |
| 大分県 | 1 | 0.1% | | |
| 宮崎県 | 1 | 0.1% | | |
| 鹿児島 | 3 | 0.2% | | |
| 沖縄県 | 4 | 0.2% | | |
| 不明 | 7 | 0.4% | | |
| 合計 | 1,604 | 100.0% | | |

■17年 出身地一覧

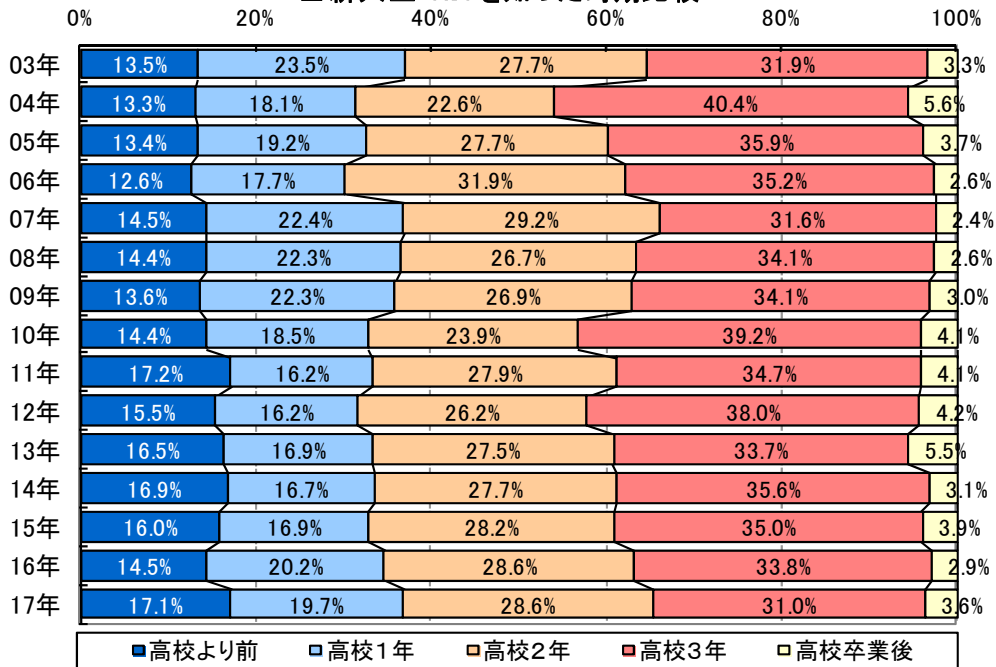
| 都道府県 | 人数 | 割合 | 大分類 | 詳細分類 |
|------|-------|--------|-----------|---------|
| 北海道 | 15 | 1.0% | 東日本 | 北海道・東北 |
| 青森県 | 6 | 0.4% | | |
| 岩手県 | 4 | 0.3% | | |
| 宮城県 | 7 | 0.5% | | |
| 秋田県 | 9 | 0.6% | | |
| 山形県 | 16 | 1.0% | | |
| 福島県 | 6 | 0.4% | | |
| 茨城県 | 9 | 0.6% | | |
| 栃木県 | 10 | 0.6% | | |
| 群馬県 | 24 | 1.6% | | |
| 埼玉県 | 16 | 1.0% | | |
| 千葉県 | 4 | 0.3% | | |
| 東京都 | 6 | 0.4% | | |
| 神奈川県 | 5 | 0.3% | | |
| 新潟県 | 130 | 8.4% | 386 25.0% | 63 4.1% |
| 山梨県 | 7 | 0.5% | | |
| 長野県 | 112 | 7.3% | | |
| 富山県 | 166 | 10.8% | | |
| 石川県 | 438 | 28.4% | | |
| 福井県 | 105 | 6.8% | | |
| 岐阜県 | 67 | 4.3% | | |
| 静岡県 | 63 | 4.1% | | |
| 愛知県 | 73 | 4.7% | | |
| 三重県 | 40 | 2.6% | | |
| 滋賀県 | 47 | 3.0% | 709 46.0% | 74 4.8% |
| 京都府 | 24 | 1.6% | | |
| 大阪府 | 16 | 1.0% | | |
| 兵庫県 | 28 | 1.8% | | |
| 兵庫県 | 6 | 0.4% | | |
| 和歌山県 | 5 | 0.3% | | |
| 鳥取県 | 6 | 0.4% | | |
| 島根県 | 3 | 0.2% | | |
| 岡山県 | 9 | 0.6% | | |
| 広島県 | 10 | 0.6% | | |
| 山口県 | 3 | 0.2% | | |
| 徳島県 | 7 | 0.5% | | |
| 香川県 | 2 | 0.1% | | |
| 愛媛県 | 6 | 0.4% | | |
| 高知県 | 3 | 0.2% | | |
| 福岡県 | 7 | 0.5% | 243 15.8% | 74 4.8% |
| 佐賀県 | 1 | 0.1% | | |
| 長崎県 | 2 | 0.1% | | |
| 熊本県 | 4 | 0.3% | | |
| 大分県 | 0 | 0.0% | | |
| 宮崎県 | 1 | 0.1% | | |
| 鹿児島 | 1 | 0.1% | | |
| 沖縄県 | 1 | 0.1% | | |
| 不明 | 11 | 0.7% | | |
| 合計 | 1,541 | 100.0% | | |

<13-3> KITの認知経路などに関して

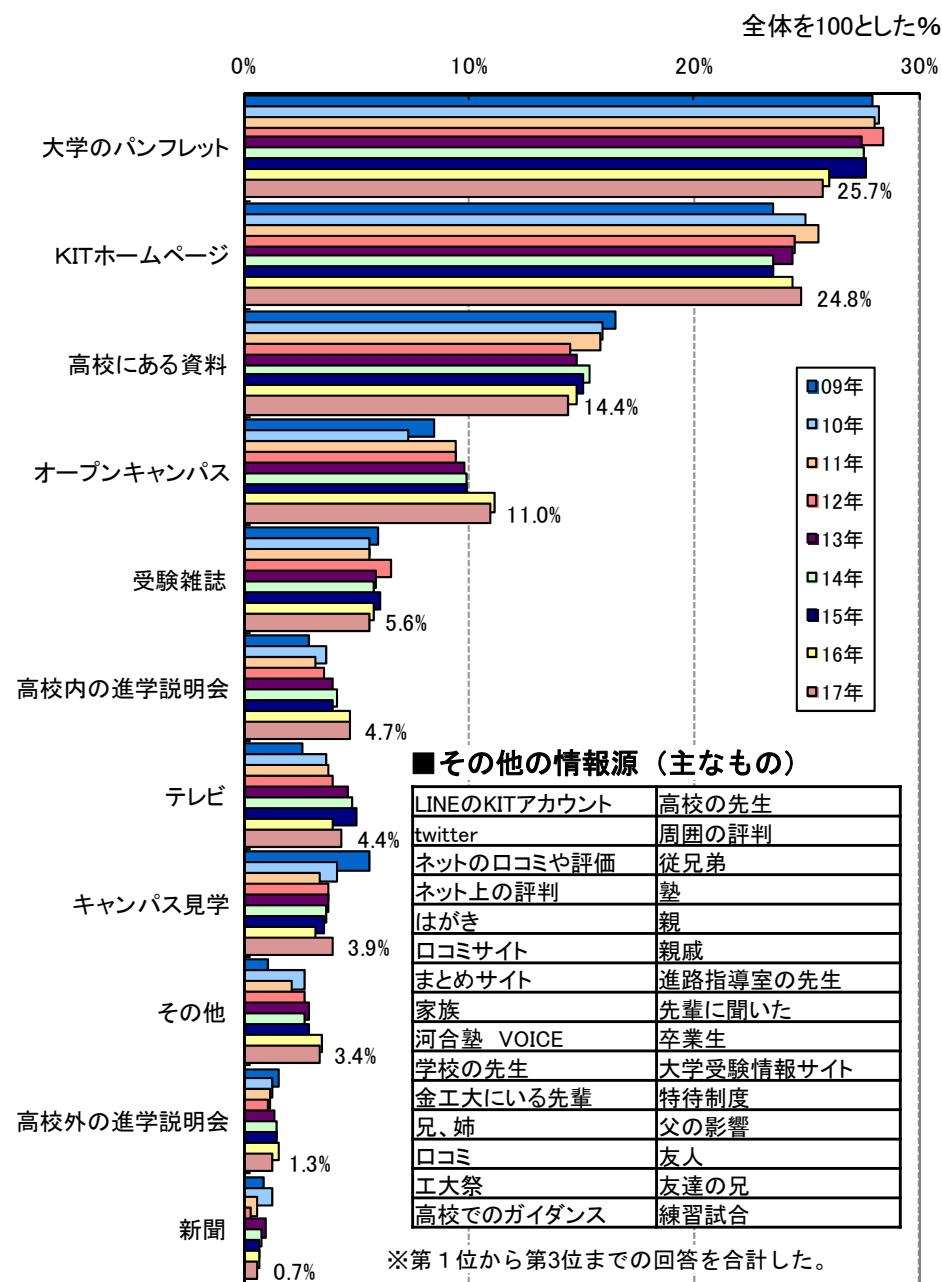
■KITを知った時期と利用した媒体

- KITを知った時期を見ると、「高校3年」が31.0%で最も多く、「高校2年」が28.6%、「高校1年」が19.7%、「高校より前」が17.1%と続いていた。以前と比較すると、「高校より前」が過去最高となるなど、KITを知る時期が早まっている傾向がうかがえた。
- KITを知るために使った媒体は「大学のパンフレット」が25.7%で最も多く、「KITホームページ」が24.8%、「高校にある資料」が14.4%と続いていた。以前と比較すると大きな変化は見られなかったが、「大学のパンフレット」が低下し、「KITホームページ」「オープンキャンパス」の高い状態が続いていた。
- 次のページの「KIT入学を相談した人」では「親・親戚」が49.6%、「高校の担任の先生」が27.5%と続いております、以前と比較して大きな変化は見られなかった。
- 「学科を選択した理由」は「学科で学ぶ内容」が44.3%、「将来性」が21.6%と続いております、前回と比較すると「将来性」の増加が非常に大きく、過去最高となった。

■新入生 KITを知った時期比較

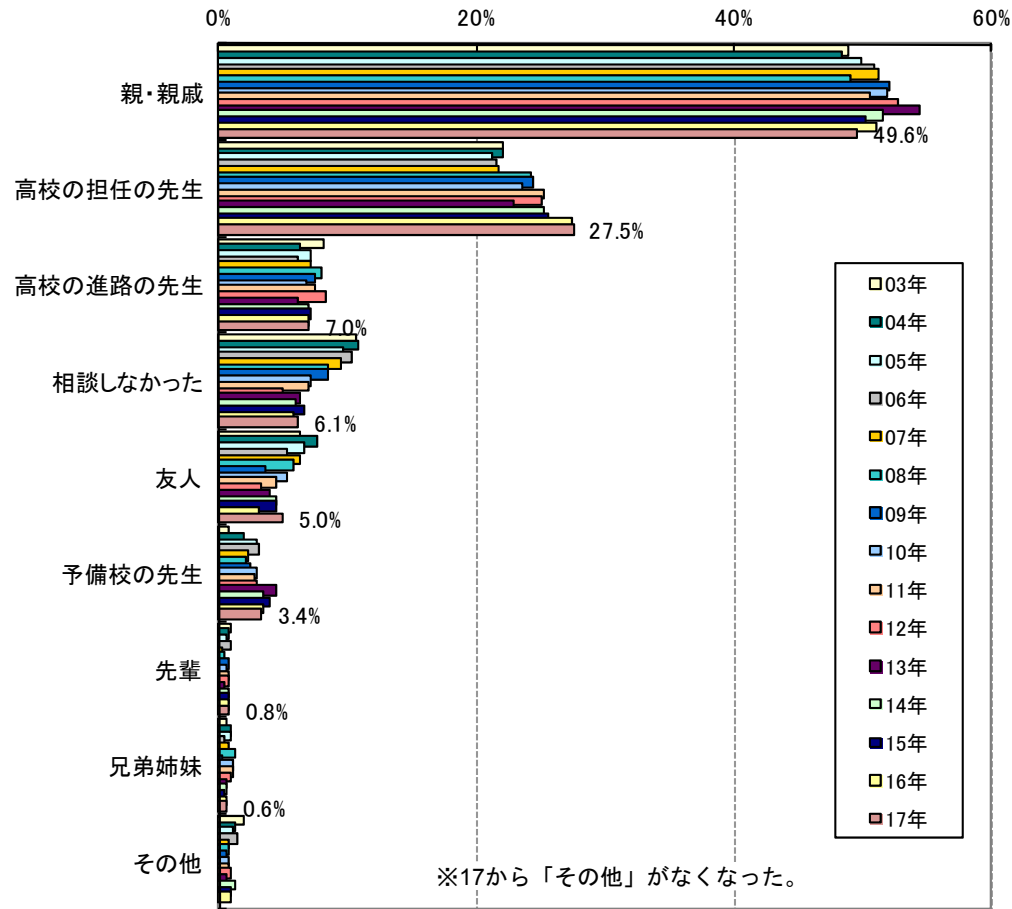


■新入生 KITを知るために使った媒体比較



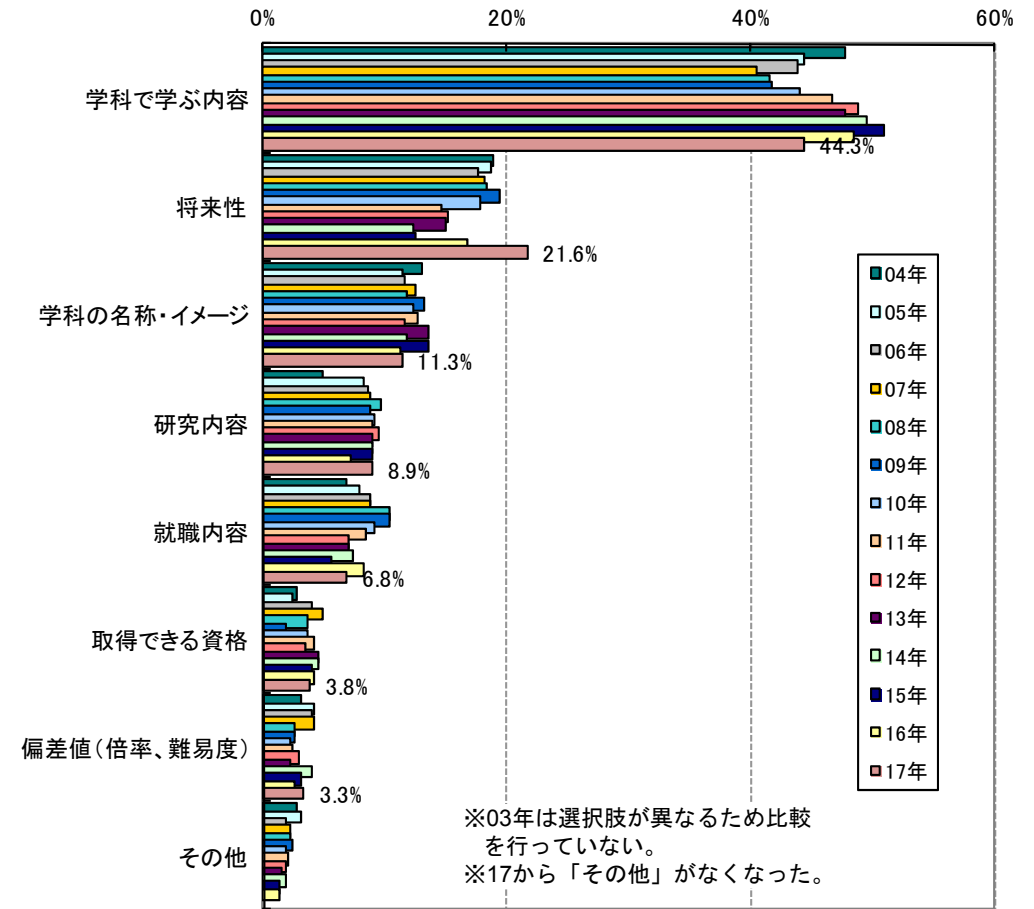
■ 新入生 KIT入学を相談した人

全体を100とした%



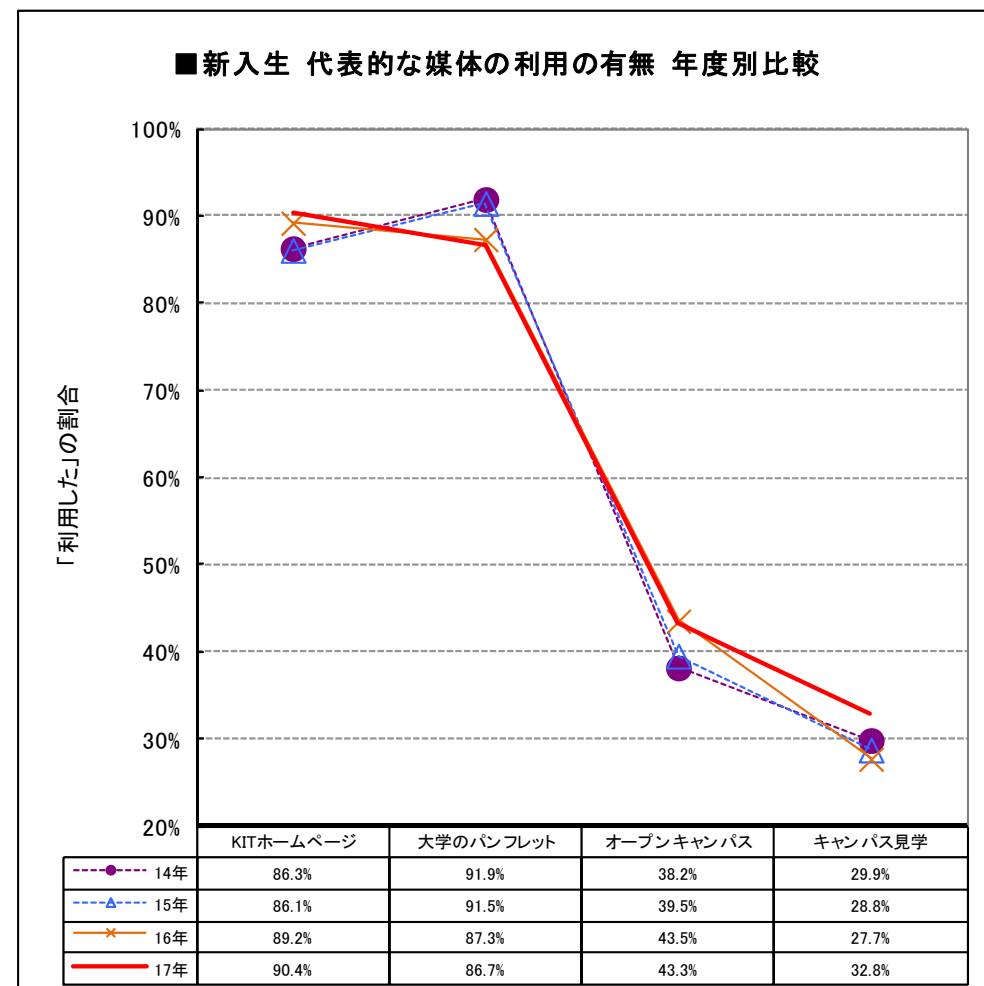
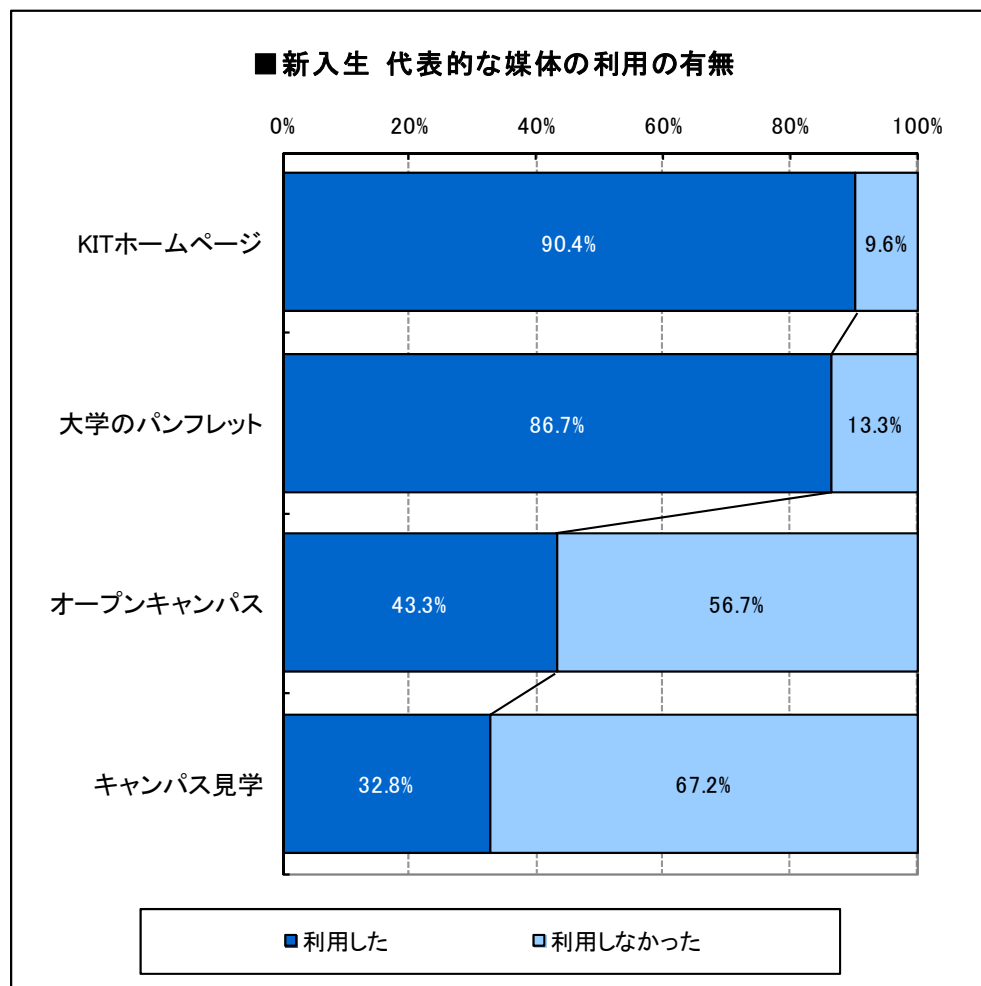
■ 新入生 学科を選択した理由

全体を100とした%



■ 代表的な媒体の利用状況

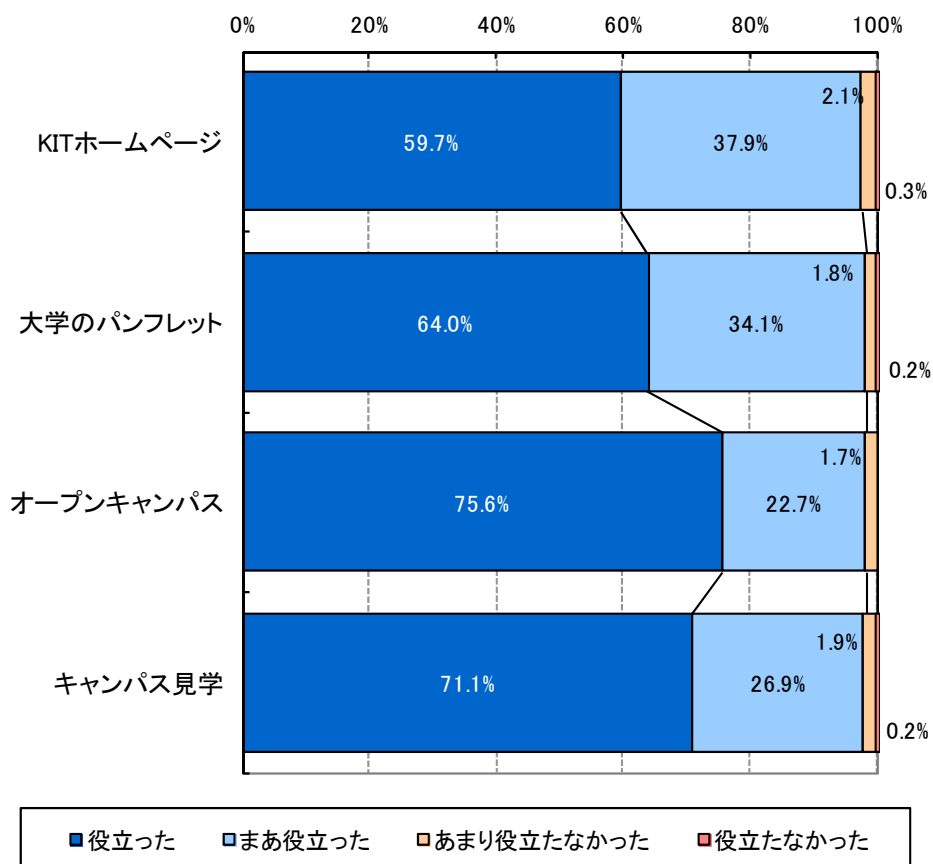
- KITの4つの広報媒体の利用経験を聞いたところ、「KITホームページ」は90.4%、「大学のパンフレット」は86.7%が使っていると答えており、ほとんどの学生がこの2つの媒体を使っているといえる。そして、「オープンキャンパス」が43.3%、「キャンパス見学」が32.8%であった。
- 以前と比較すると、前回(16年)とほとんど同じであったが、「キャンパス見学」が5.1ポイント増加して過去最高となっていた。そして、「KITホームページ」が「大学のパンフレット」を上回る状況は継続していた。



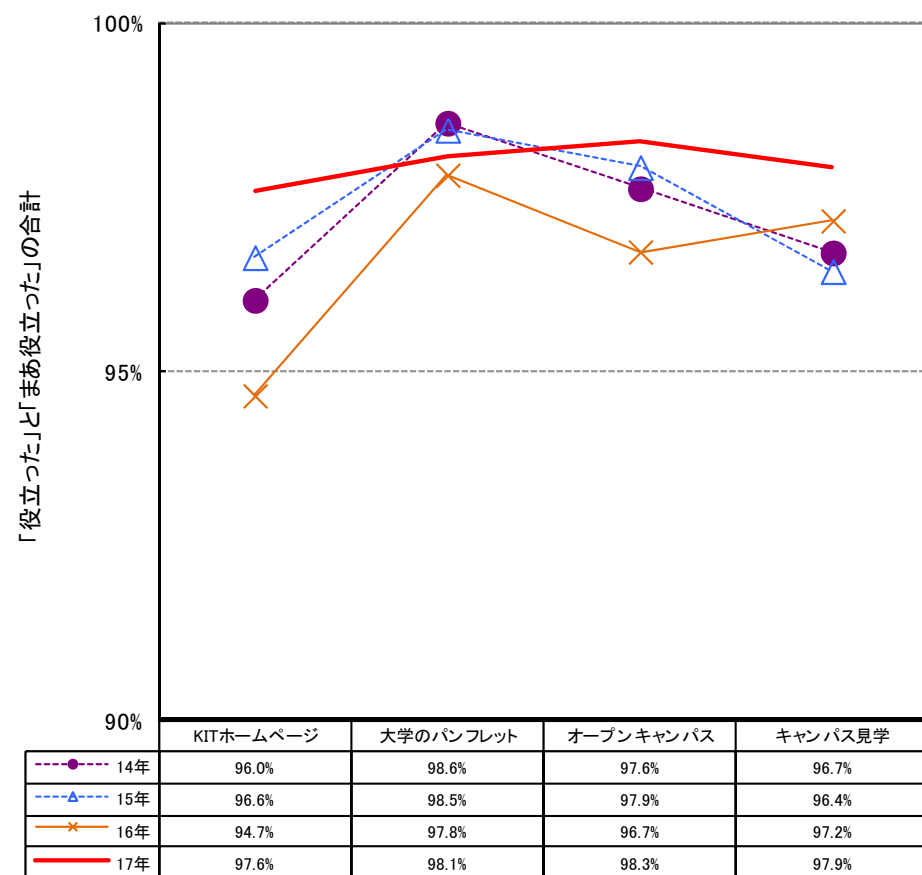
■ 代表的な媒体の評価

- 各媒体の利用者に各々の評価を聞いたところ、肯定的な意見はすべての媒体で100%に近く、非常に高い評価になっていた。
- 「役立った」だけで比較すると、「オープンキャンパス」が75.6%で最も多く、次いで、「キャンパス見学」が71.1%、「大学のパンフレット」が64.0%、「KITホームページ」が59.7%となっていた。
- 以前と比較すると、「大学のパンフレット」以外はすべて過去最高の評価となっていた。特に「KITホームページ」と「キャンパス見学」の評価が高くなっていた。

■ 新入生 代表的な媒体の評価(各媒体の利用者のみ)



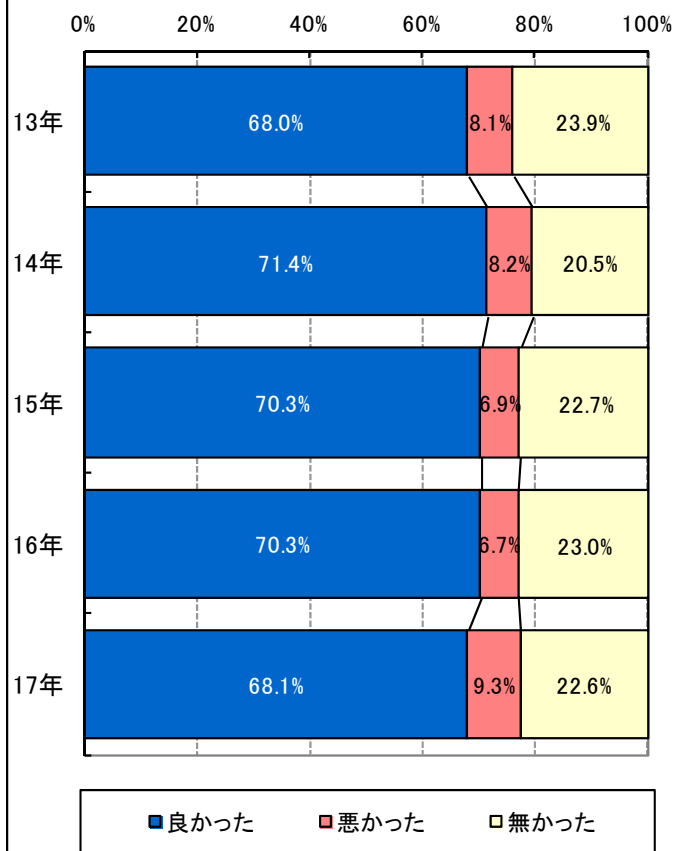
■ 新入生 代表的な媒体の評価 年度別比較



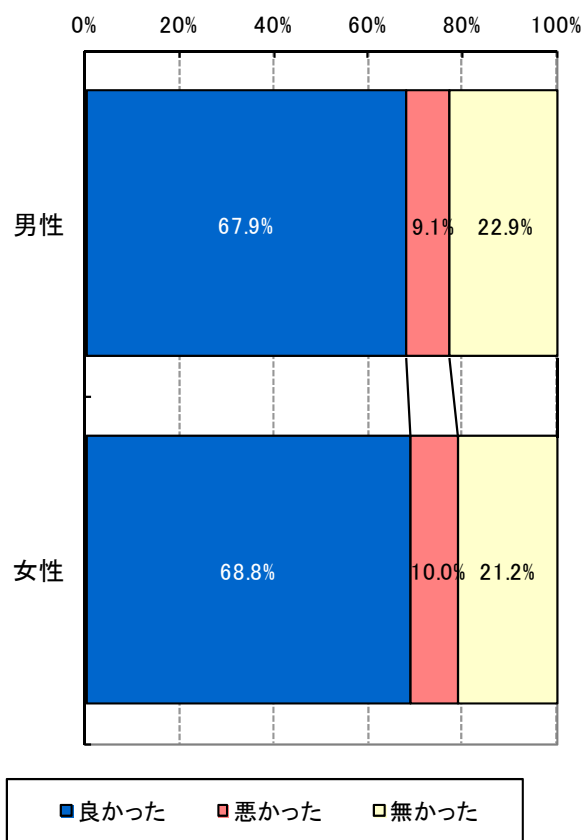
■入学前のKITのイメージ

- 新入生には入学前のKITのイメージを聞いているが、「良かった」が68.1%、「悪かった」が9.3%、「無かった」が22.6%となっており、良いイメージを持って入学してくる新入生が7割を占めていたものの、以前と比べると「悪かった」の割合が過去最高となっていた。
- 男女別に比較すると、「良かった」の割合は「男性」で67.9%、「女性」で68.8%であった。そして、「悪かった」「無かった」を見ても、男女の間にほとんど差は見られなかった。
- 入学前のKITのイメージを学科別に比較したところ、「良かった」は「ロボティクス」が80.8%で最も多く、「建築デザイン」が72.9%、「メディア情報」が72.1%と続いていた。そして、「悪かった」は「経営情報」が17.9%で最も多く、「機械」が13.0%、「電子情報通信」が11.8%で続いていた。「無かった」も学科による差が大きく、最も多かったのは「応用バイオ」の37.8%で、最も少ない「ロボティクス」(13.5%)との差は24.3ポイントの差になっていた。

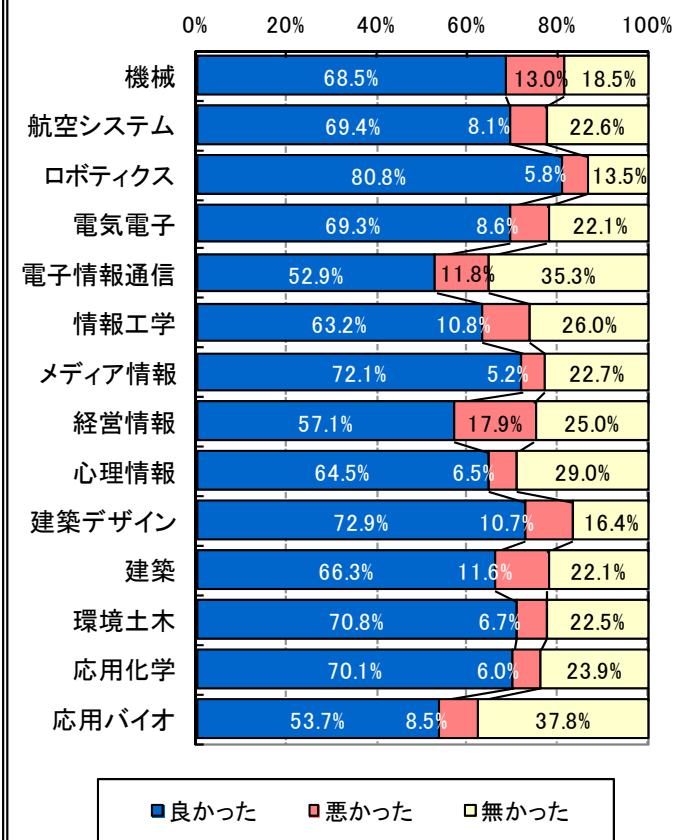
■新入生 入学前のKITのイメージ



■新入生 入学前のKITのイメージ 男女別比較



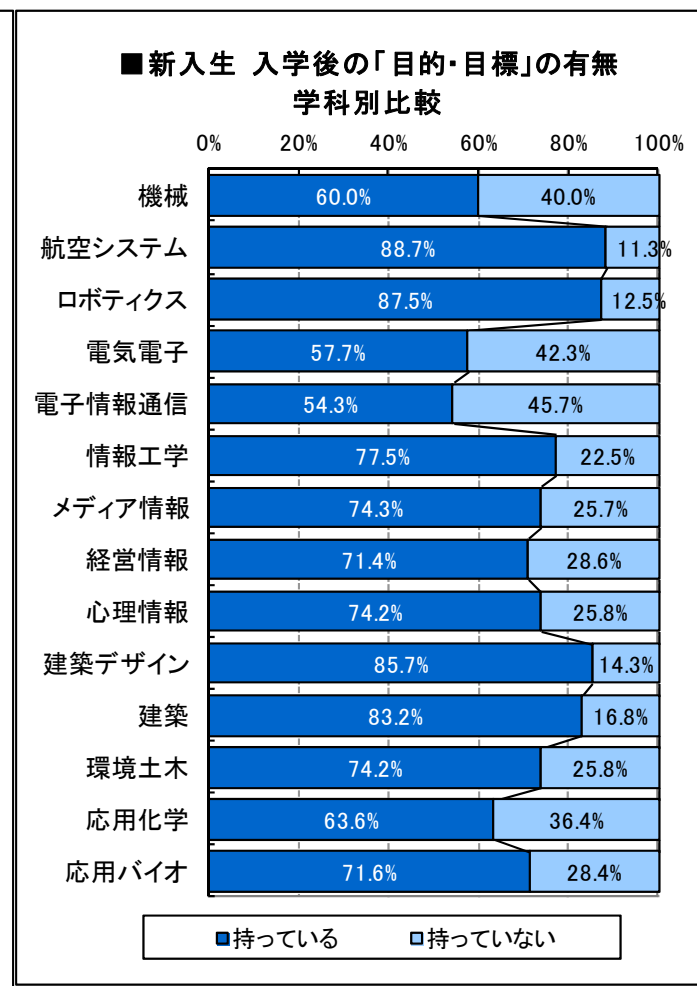
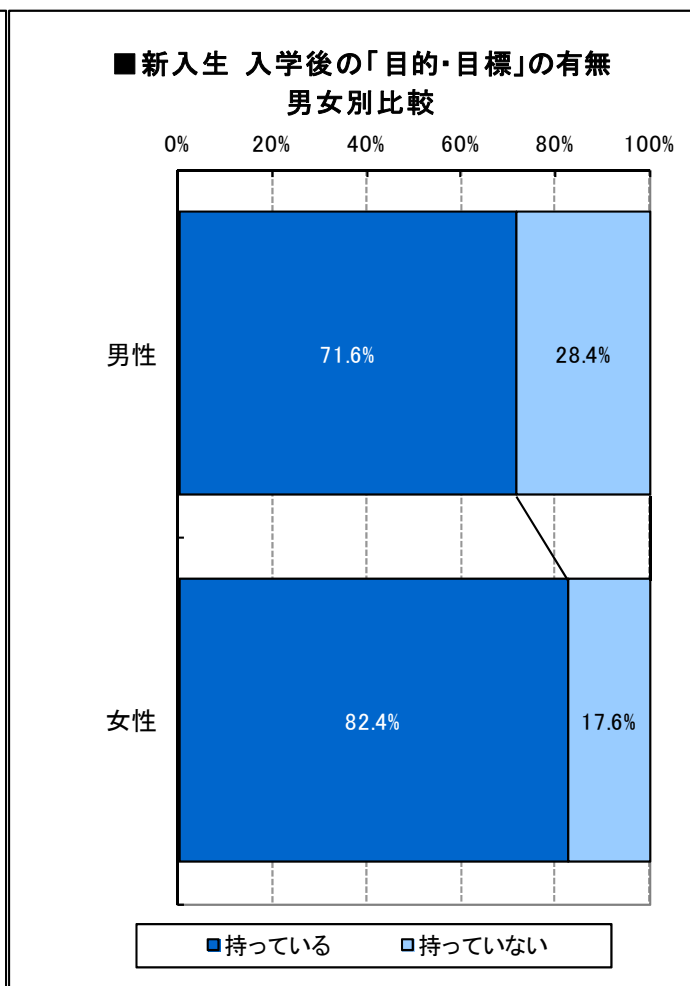
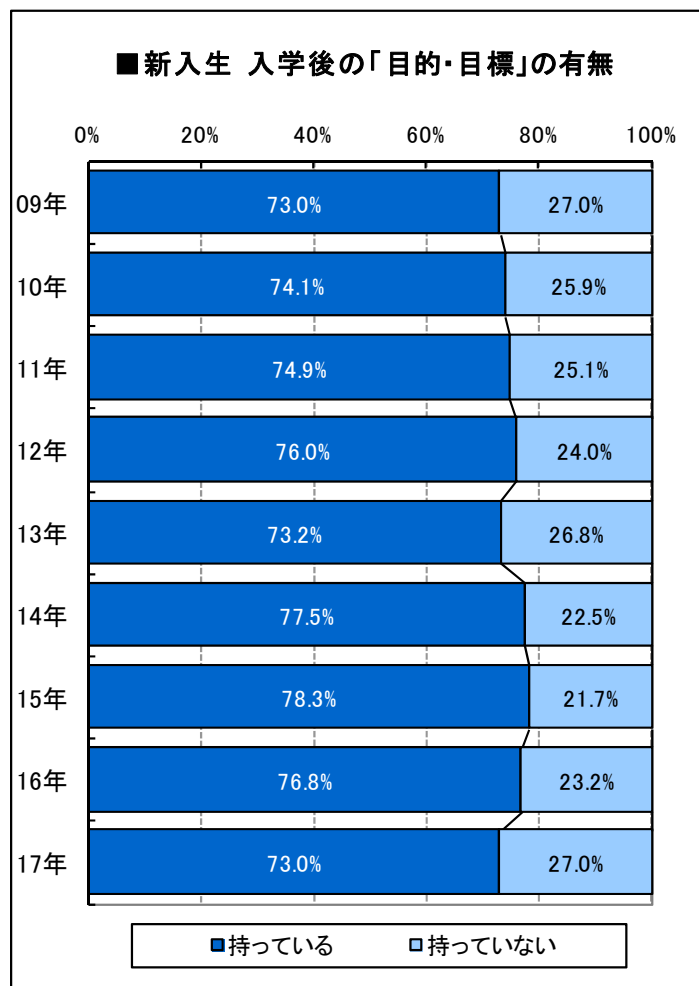
■新入生 入学前のKITのイメージ 学科別比較



<13-4>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

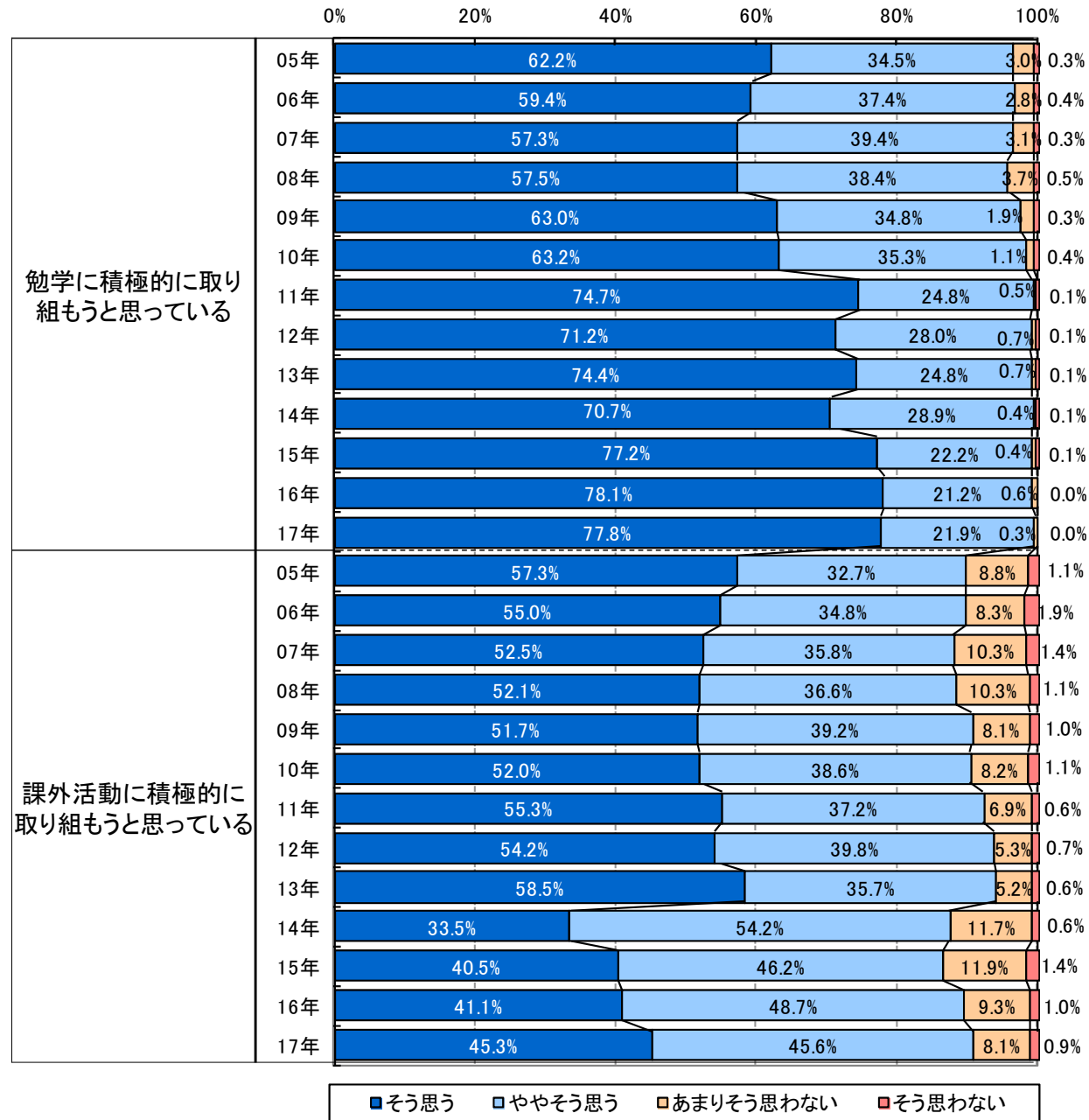
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」と聞いたところ、「持っている」が73.0%で、前回より3.8ポイント低下し、09年と並んで過去最低となっていた。
- 男女別に「持っている」の割合を比較すると、「男性」は71.6%、「女性」は82.4%であり、「女性」の方が10.8ポイント多かった。
- 「目的・目標あり」の割合を学科別に比較すると、「航空システム」が88.7%で最も多く、「ロボティクス」が87.5%、「建築デザイン」が85.7%、「建築」が83.2%で続いていた。一方、最も少なかったのは「電子情報通信」の54.3%であり、「航空システム」とは34.4ポイントの差があった。そして、「電気電子」が57.7%、「機械」が60.0%と低めであった。



■KITへの期待、心構え

- 13年までの「勉強に積極的に取り組もうと思っている」という質問文は、14年からは「勉学に積極的に取り組もうと思っている」と聞いており、同様に「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っている」という質問文は、14年から「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」と、少しニュアンスを変えて聞いている。
- 「勉学に積極的に取り組もうと思っている」という問いに対しては、「そう思う」が77.8%、「ややそう思う」が21.9%であり、合わせると99.7%になり、ほぼ全員が勉学に積極的に取り組みたいと答えていた。
- 「課外活動に積極的に取り組もうと思っている」という問いに対しては、「そう思う」が45.3%、「ややそう思う」が45.6%であり、合わせると90.9%が課外活動に積極的に取り組もうと考えていた。14年に質問文が変わっているが、それ以降は「そう思う」の割合が増加を続けており、課外活動に対する積極性も増してきているといえる。

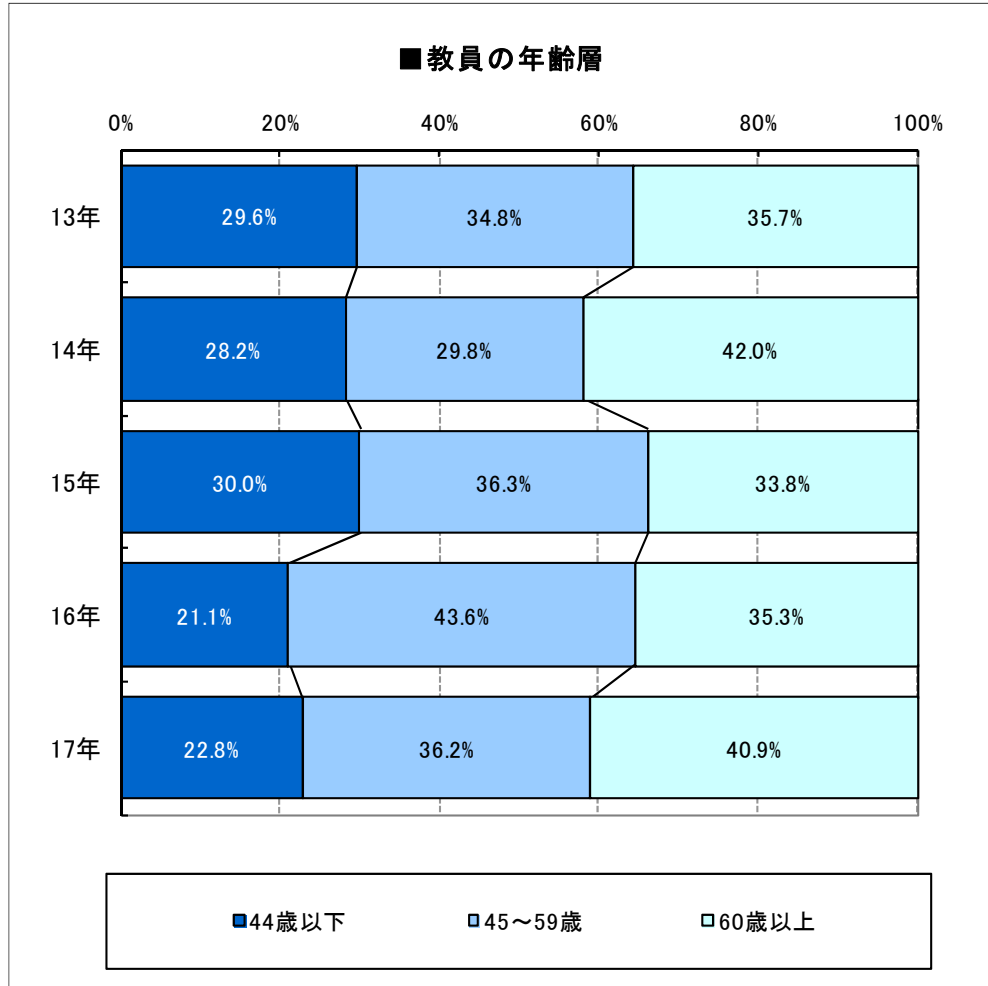
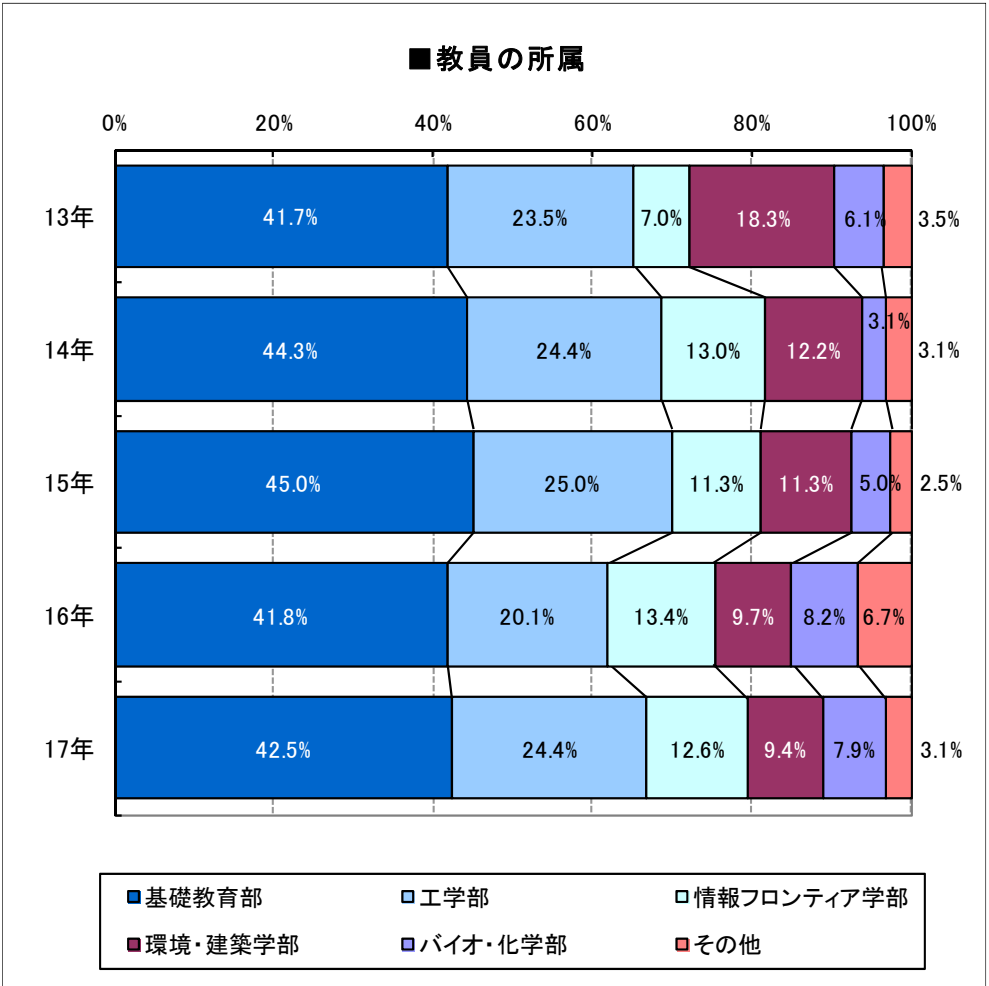
■新入生 KITへの期待、心構え



<14-1>教職員の基本属性

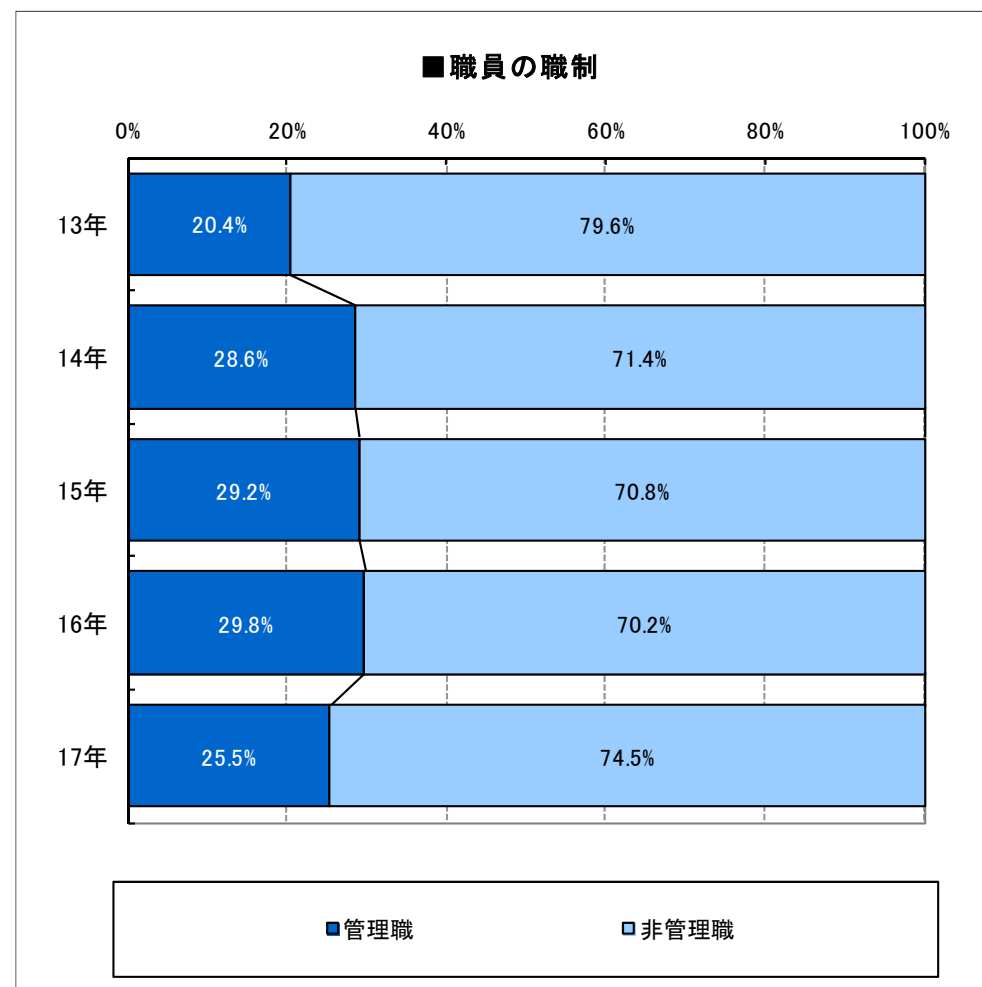
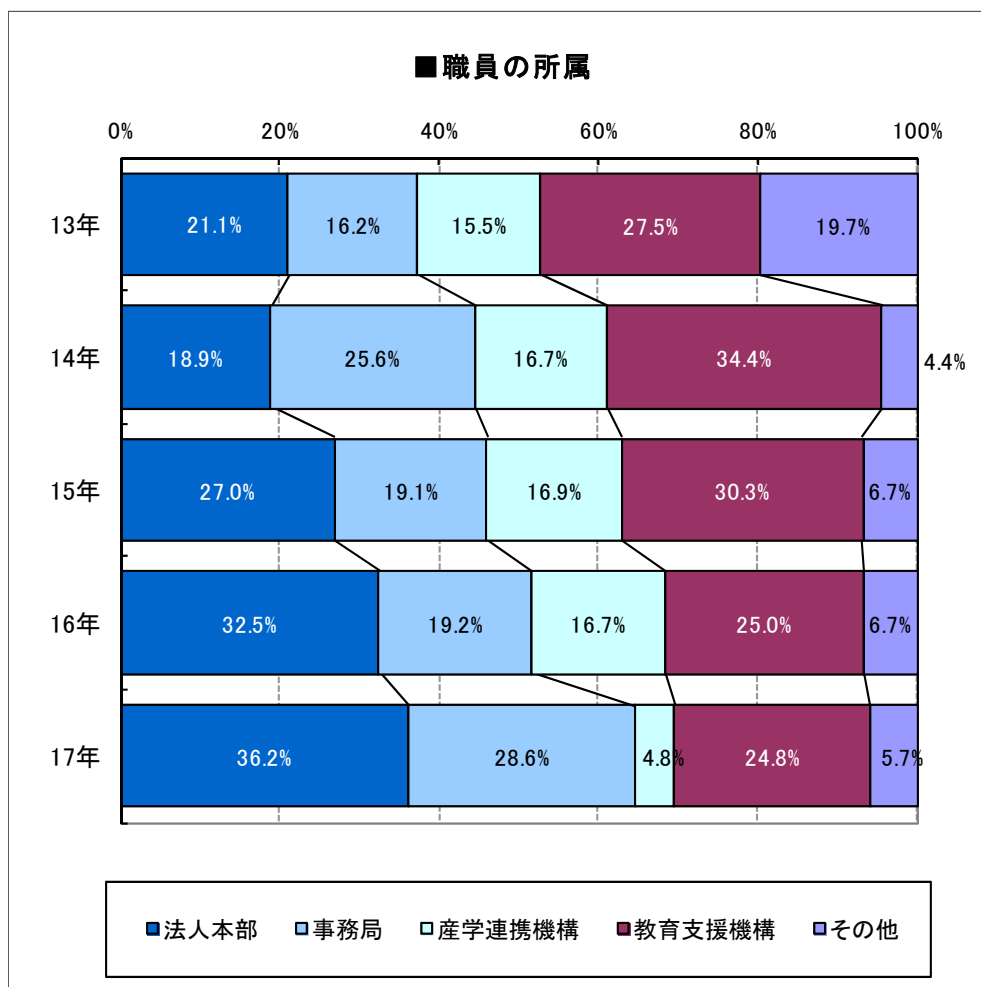
■教員の基本属性

- 「教員の所属」に関しては、「基礎教育部」が42.5%、「工学部」が24.4%、「情報フロンティア学部」が12.6%、「環境・建築学部」が9.4%、「バイオ・化学部」が7.9%と続いていた。前回は「工学部」の減少と「その他」の増加が目立っていたが、今回はその2つが減少して15年とほぼ同じに戻っていた。
- 「教員の年齢層」を見ると、「44歳以下」が22.8%、「45歳～59歳」が36.2%、「60歳以上」が40.9%であり、前回と比較すると「45～59歳」の減少と「60歳以上」の増加が目立っており、教員の年齢は上がっているようであった。



■ 職員の基本属性

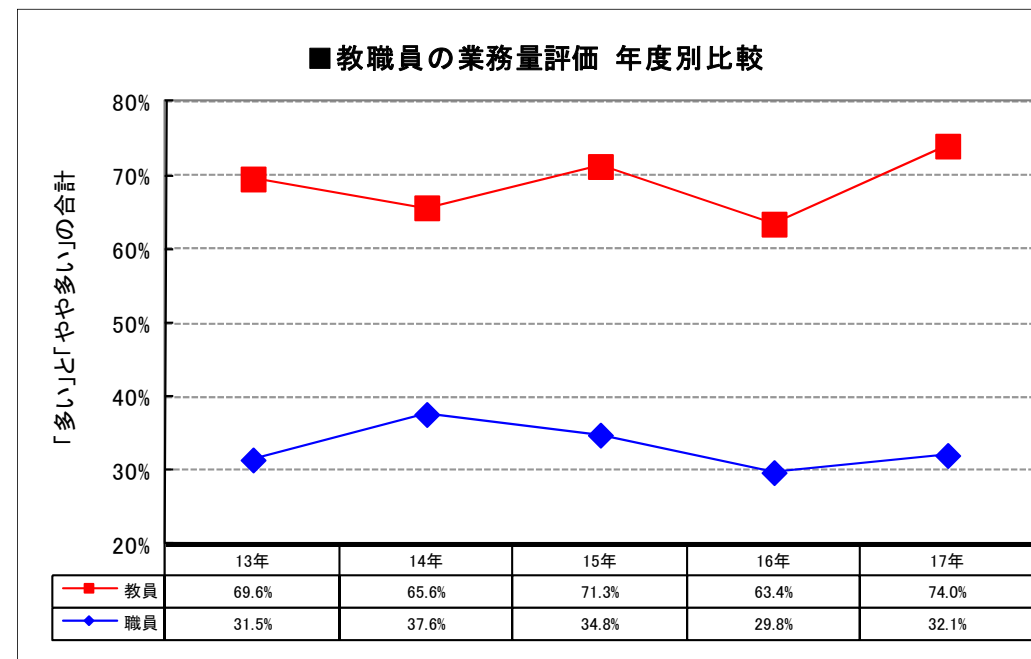
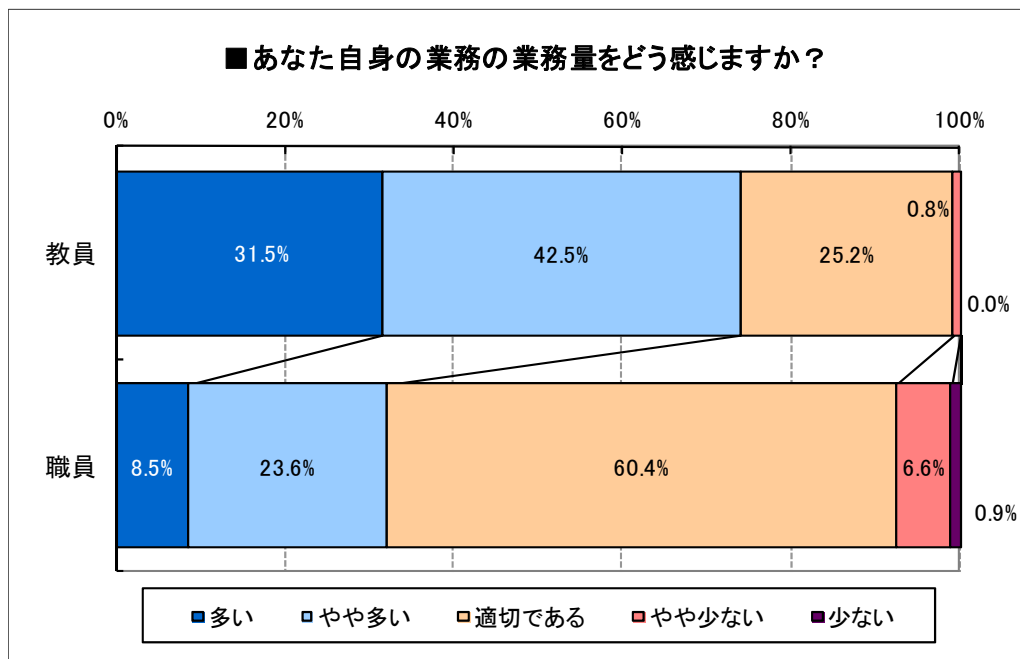
- 「職員の所属」では「法人本部」が36.2%と最も多かった。そして、「事務局」が28.6%、「教育支援機構」が24.8%、「産学連携機構」が4.8%と続いており、「その他」が5.7%であった。以前と比較すると14年から「法人本部」の増加が続いており、前回と比較すると「事務局」の増加と「産学連携機構」の減少が大きかった。
- 職員の「職制」では「管理職」が25.5%、「非管理職」が74.5%であり、前回と比較すると「管理職」が減少し、「非管理職」が増加していた。



<14-2>業務の状況に関して

■自分自身の業務量

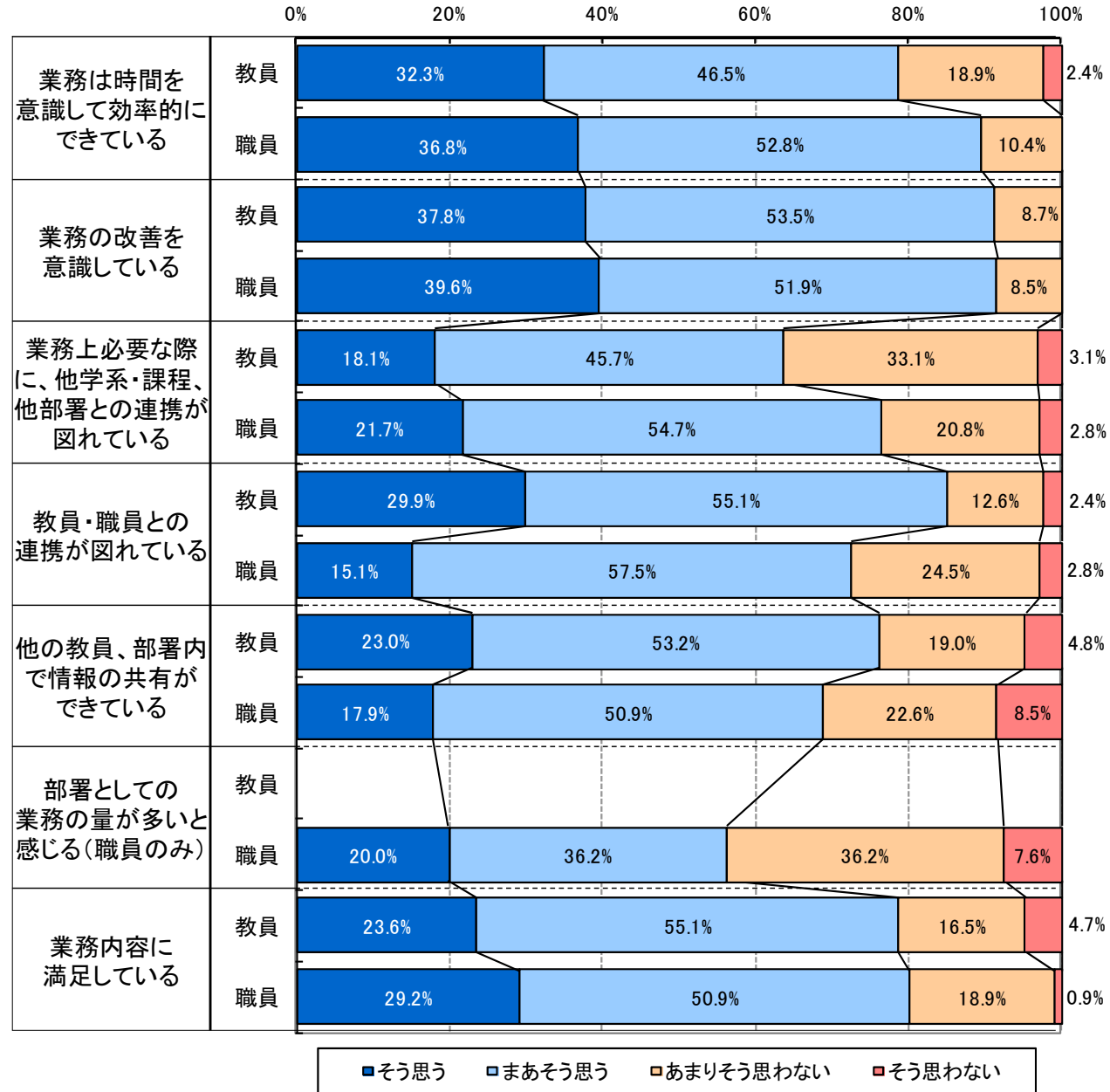
- 「あなた自身の業務量をどう感じますか？」という質問に対して、「教員」では「多い」が31.5%、「やや多い」が42.5%であり、合計すると74.0%が業務量が多いと感じていた。一方、少ないと感じていたのは「やや少ない」の0.8%だけであり、「適切である」は25.2%であった。
- 「職員」では「多い」が8.5%、「やや多い」が23.6%であり、合計すると32.1%であった。一方、業務が少ないという意見は合計で7.5%で、「適切である」は60.4%であった。
- 「教員」と「職員」との比較を見ると、多いという意見の合計は「教員」の方が41.9ポイント多く、適切という意見は「職員」の方が35.2ポイント多かった。そして、業務が少ないという意見は「教員」でほぼゼロだったが、「職員」では7.5%であった。
- 年度別比較は、横軸を年度として業務が多いという意見の割合の変化を見ているが、今回は「教員」「職員」共に業務が多いという意見が増加し、「教員」は過去最高となった。



■自分自身の業務状況

- 自分自身の業務の評価として、「業務内容に満足している」を見ると、「教員」では78.7%、「職員」では80.1%が満足という回答であり、「職員」の満足度の方がわずかに高かった。
- 上記以外で肯定的な意見が最も多かったのは「業務の改善を意識している」であり、「教員」で91.3%、「職員」で91.5%が肯定的な意見であった。次いで、「業務は時間を意識して効率的にできている」では、「教員」で78.8%、「職員」で89.6%が肯定的な意見であり、業務改善や時間の効率的活用の意識は高いようであった。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは、「職員」だけに聞いている「部署としての業務の量が多いと感じる」であり、「職員」の56.2%が肯定的な意見であり、半数は業務が多いと感じていた。
- また、「教員」で肯定的な意見が少なかったのは「業務上必要な際に、他学系・課程、他部署との連携が図れている」であり、63.8%は肯定的な意見だが、「教員」は他学科・課程との連携に課題を感じているようであった。

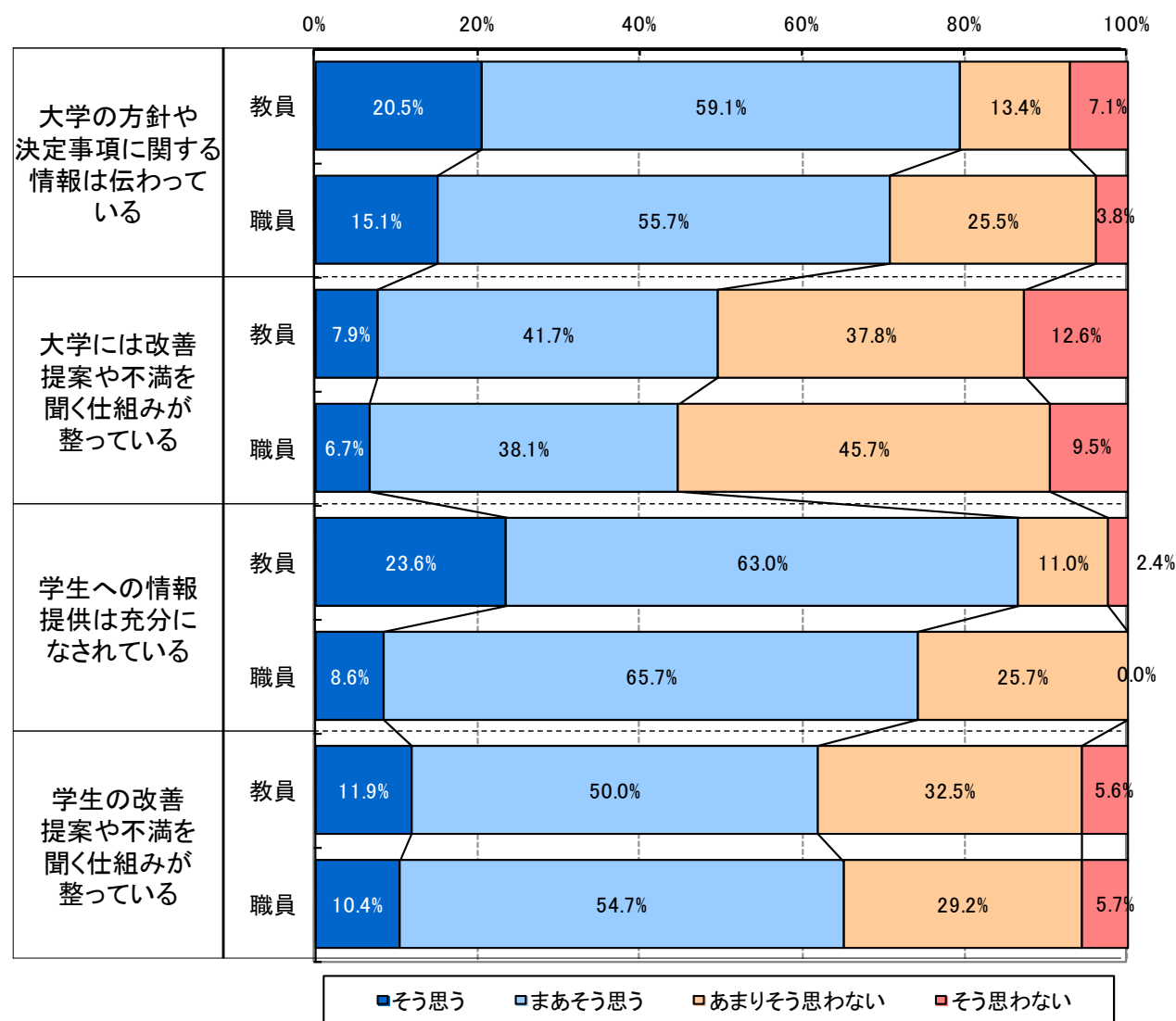
■自分自身の業務状況



■大学の改善への取り組み状況

- 「教員」で「そう思う」と「まあそう思う」の合計が最も多かったのは「学生への情報提供は充分になされている」の86.6%であり、次いで、「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」が79.6%、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が61.9%、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が49.6%であった。
- 「職員」では「学生への情報提供は充分になされている」が74.3%、「大学の方針や決定事項に関する情報は伝わっている」が70.8%、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が65.1%となり、「大学には改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」が最も少なく44.8%であった。
- 「教員」「職員」ともに、肯定的な意見の合計の順序は同じであったが、「学生の改善提案や不満を聞く仕組みが整っている」以外は「教員」の方が肯定的な意見が多く、「教員」の方が改善が進んでいると感じているようであった。

■大学の改善への取り組み状況

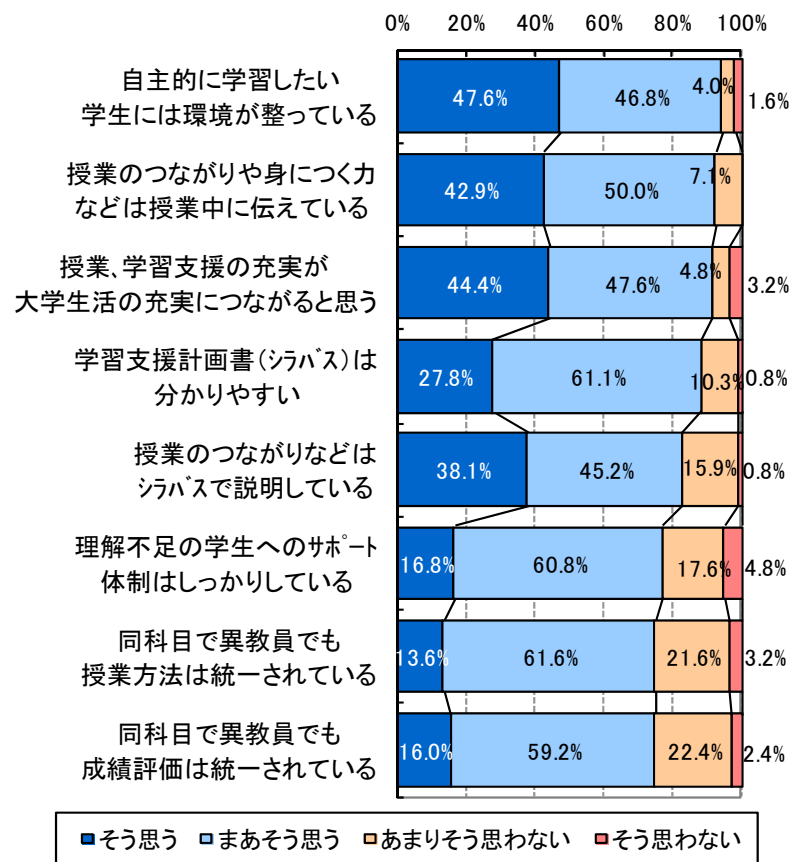


<14-3>教員の授業および学習支援の自己評価

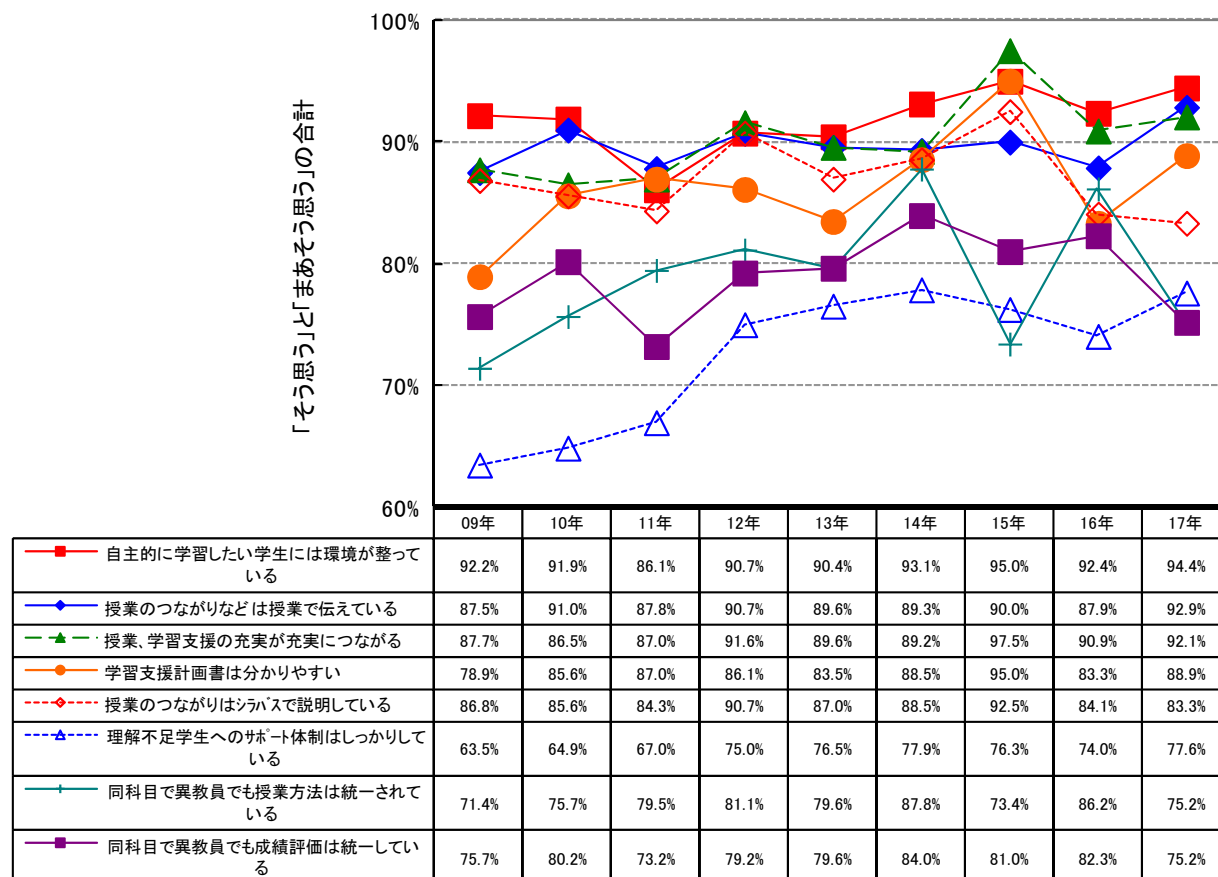
■教員の授業および学習支援の自己評価

- 教員の授業および学習支援の自己評価で、最も肯定的な意見が多かったのは「自主的に学習したい学生には環境が整っている」の94.4%が肯定的な意見であった。次いで、「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」が92.9%、「授業、学習支援の充実が大学生活の充実につながると思う」が92.0%と続いており、この3項目は「そう思う」の割合もほぼ同じで、よく似た評価となっていた。一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」と「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」の75.2%であり、1/4は問題があると感じていた。
- 年度別比較を見ると、「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」と「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」の低下が非常に大きい点が特徴的であった。この2項目以外はすべて前回は上回っているが、特に「学習支援計画書は分かりやすい」と「授業のつながりなどは授業で伝えている」の向上がやや大きめであった。

■教員の授業および学習支援の自己評価



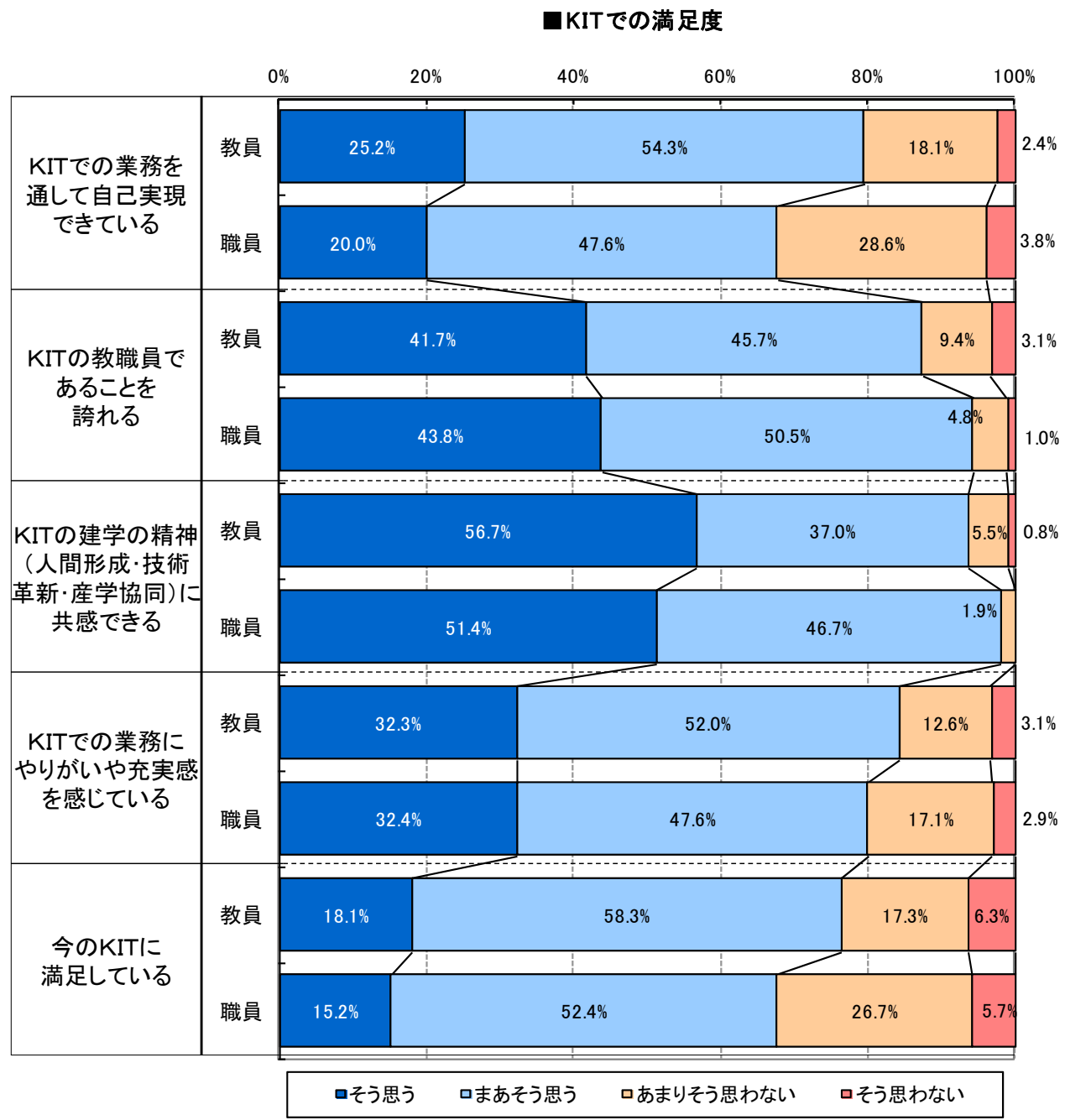
■授業の仕組みの評価 年度別比較(在学生)



<14-4> KITでの満足度

■KITでの満足度

- 総合的な満足度の指標として、「今のKITに満足している」を見たところ、「教員」では「そう思う」が18.1%、「まあそう思う」が58.3%であり、合計すると76.4%はKITに満足と答えていた。そして、「職員」では「そう思う」が15.2%、「まあそう思う」が52.4%であり、合計すると67.6%であり、「教員」より8.8ポイント少なかった。
- 肯定的な意見が最も多かったのは、「教員」「職員」とも、「KITの建学の精神に共感できる」であり、「教員」は93.7%、「職員」は98.1%が肯定的な意見であった。また、「KITの教職員であることを誇れる」は「教員」が87.4%、「職員」が94.3%と高かった。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは「KITでの業務を通して自己実現できている」であり、肯定的な意見は「教員」で79.5%、「職員」で67.6%であり、「教員」と「職員」の差が最も大きかった。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2017 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

- | | |
|-----------|--------------|
| ■発行日 | 平成29年10月31日 |
| ■発行者 | 学校法人 金沢工業大学 |
| ■調査票設計・分析 | 有限会社 アイ・ポイント |
| ■編集 | 金沢工業大学企画部CS室 |
-

無断複製厳禁